

一同三かや敷五まし

ノ二かや七十九敷

外九戸

合二十六かや八十五九

右南風見村百姓等自分田地取ノ如斯御座候已上

十二月

又

表紙全上

乾隆六十年乙卯八月十三日

古見仲間兩村ノ田地買入面立帳

割印ナシ

南風見田

百七十四

南風見村耕作

筆者 伊是名かや

外連名前全斷

割役人ノ用ニ

南風見村

慶田本や

安

か

ね

証文 正田地八拾九三まし

代米 一女牛二疋

内一疋三俵位一疋二俵位

一ふだ一疋代米二斗先キ

一白木綿布一反代米一俵

ノ六俵二斗先

右牛差廻シ候ニ付右品物寄置置申候於後日無相違候(此文首に或は永云云)為後証如

斯御座候以上

乾隆五十己巳年十二月三日

南風見村稻前屋

古見村請泊屋

あ

か

し

百七十五

田地賣

右申出ノ通相違無御座候於後日口能有間敷候以上

巳十二月十三日

親類いしとの

里島にや

同まもし

常山にや

親類

同も田

一門もせかぬ

波照間にや

小濱にや

波照間にや

一門いしとの

波照間にや

云々 同上ニ付容ス

拾かや七拾二九

右古見仲間兩村ヨリケ所ノ通代物ヲ以買入置候ニ付証文并双方口柄相糺一帳ニ相認置候於後日爲無相違如斯御座候以上

乾隆六十乙卯年八月十三日

憲章氏後役若分子西表次男

耕作筆者 宮良にや 印

益義氏柚山筆者

桃原にや 印

嘉喜氏柚山筆者

赤榮平筑登之 印

成功氏

南風見目差

順天氏

南風見與人

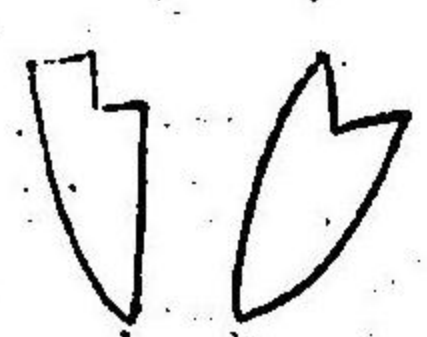
民産取扱ノ習慣

(備考)にやハ平民ナリ筑登之ノ解ハ前掲

按スルニ舊藩政ニ在テハ如此僻遠廣漠ノ村落ト云トイヘモ官私田ニ論ナク其賣買ニ官吏ノ耕作山林兩掛員必關涉ス証文ニハ必ス其一門及親族ヲシテ連署セシム其森嚴鄭重ヲ極メ以テ民産ヲ重スルノ制見ルヘキノミ他府縣人ニ於ケルヤ朝ニ買フテ夕ニ賣リ或ハ職員資格ヲ作ラン爲メ殊更ニ名義貸借ヲ爲シ賣買スルトニ比セハ其厚薄如何ソヤ我カ政府モ在野政事家ノ黨々ヲ顧ミス少シク民産授受ノ際檢束ノ制ヲ設テ豪農兼併ノ弊ヲ救ハスハ擬キニ「グラント」大將巡遊ノ日日本民産平均ノ感賞ヲ博シタルモ久シカラスシテ各府縣ニ無産ノ小民増殖シテ遂ニハ相率ヒテ虛無黨社會黨ノ元素トナラサルヲ保セス識者以

牛馬籍

如何...  
表紙全上  
南風見村百姓等牛馬帳



母牛一疋  
四才



母牛一疋  
五才



光緒六年七月生  
母牛一疋  
六才男牛



光緒七年三月生  
女牛一疋

真山や  
仲本筑登之

具崎や  
ま あ さ

地價

但何年何月生ノ所何  
村某へ相譲置候  
村吏署名印ハ前ニ全シ  
按スルニ牛馬兩耳ヲ截リテ所有主ノ符號トナシ之ヲ蠶帳ニ記シ以テ牛馬籍ヲ  
明ニスルハ早ク既ニ此未開ノ地ニ實行セリ古記ヲ閱シ今ノ官吏ノ取扱ト比セ  
ハ零壞ノ差アルヲ見ル  
又

地價表

種別	上	中	下
畑一エーヂ	五俵	四俵	三俵
田一カヤマ	十俵	五俵	三俵
休作地一エーヂ	三俵	二俵	一俵
宅地七坪ニ付	一俵	二斗五升	二斗

煙草一斤代米一升  
山藍十斤全一升  
苧麻絲一斤全二斗

煙草山藍苧麻絲代米  
但地當ノ特産ニ付附記ス

土地ニ就テ村總代へ質問ノ答八重山ノ方言「エーヂ」ハ一千百十坪八合八夕田一  
「カヤマ」六寸廻リノ稻草三十把ニテ「九ト唱」ハ百九ヲ以テ「カヤマ」或ハ「カヤ」ト

唱フ尤モ一丸ニテ正米三升ヲ得ルヲ定則トス  
 一丸敷トハ何坪ナルヤ答十一坪一合一タ一オトス  
 耕作夫ノ鋤坪敷ハ如何答畑三「ヨウヂ」三「ヨウヂ」ハ三千三百三十二坪八合八タニシテ三即チ一  
 町一反一畝余ナリ之ヲ上中下男一人分トス全一「ヨウヂ」半千六百六十六坪三合二下  
 を男一人分トス  
 凡ソ「ヨウヂ」ハ四十尋角ナリ  
 木綿花ハ二十尋角上中下々 芋畑十八尋角 正男女外老 芋畑二十尋角 男一人正粟  
 畑八百坪田方五十九畝 一反五畝 奉公人正男上中下夫賃御免人粟千二百坪田  
 七十九畝 全上  
 問反布ノ精粗區別如何答上等布ハ二十樹ト云フ丈ク四丈箒目五百六十中等布十  
 八樹丈ク三丈七尺五寸箒目五百三十二下等布十七樹丈ク三丈五尺箒目五百〇八  
 普通賣買ノ反布ハ下々等ニシテ前記以下ノ品トス

農作季

農作季節

品	播種	移植	收穫
米	十月	正月	五月
蕃薯	二月	移植季節ヲ擇ハス	滿三ヶ月ニシテ食料ニ用テ六ヶ月ニシテ種ニ用ルニ宜シニ付三千六百斤
煙草	八月	十一月	四月
山藍	八月	十一月	四月
芋麻	八月	十一月	四月
ダイコン	七月	十一月	四月
菜	七月	十一月	四月
ニンジン	七月	十一月	四月

七月二十二日雨 九十一度四分

全村達留ヲ一見ス左ノ條項尤モ奇ヲ感セリ  
 間切内法條項中科鞭ノ義從來ノ習慣ニ寄り執行候義今日ニ於テ有間敷事ナレ  
 心得違ニテ却テ苛酷ニ至ルヤモ計ランス篤ト注意スヘシ

雨乞ノ通知狀

明治二十二年三月十九日

八重山役所長某

全年七月三日達ノ寫

右ハ此度雨降り遠ク有之諸作毛七月植付差支候由被聞召甚々御配慮之事ニ候間  
家長之者一人ツ、沐浴精進ヲ以テ各掛御嶽ニ罷出右日數雨願可被致候頭之命ニ  
依リ此段及御通知候也

全十七日ニ又同上ノ達アリ

全二十三日又同上ノ達アリ

其文中ニ士族平民老弱男女立崩沐浴精進可被致之文アリ

全二十六日又全上ノ達アリ

其文中ニ奉公人モ加ヘ又衣服之制及殺生禁止ト家作及修繕方共雨乞中可差止旨  
ノ文アリ

按スルニ右ノ奇文ヲ見ルハ獨リ八重山群島ノミナラス宮古群島モ亦然リ各其  
條下ニ畧記スヘシ是等ノ達シニ違背スル人々ニハ總テ村内法間切内法ナルモ  
ノアリテ其科ノ輕重ニヨリテ禁錮アリ科料米アリ豚或ハ酒ヲ出サシメテ其罪

ヲ贖フケ政事家タル者我カ日本帝國内ニ如斯奇狀アルヲ知ルヤ否ヤ之ヲ敢  
斷作興シテ教育ヲ計ルノ義務ナキヤ徒ラニ己カ撰擧區民ノ私情ヲ代言シテ政  
事家ノ能事終ハレリトスルカ

余此滯留中主人獵犬數疋ヲ具シ槍ヲ携ヘ去リ一回ハ大猪一頭二回目ハ小猪三頭  
ヲ獲テ襲應セリ僅カニ深カラサルノ山ニ入り銃砲ヲ假ラスコノ獲モノアリ野猪  
ノ多キ知ルヘシ故ニ各村至ル處村ノ周圍及耕地ノ周圍ニハ必ス石垣ヲ繞ラス一  
見シ他府縣收場ノ堤柵内ニ生息スル牛馬ニ異ナラス該村モ周邊繞ラスニ石垣ヲ  
以テス皆野猪ノ害ニ備アルナリ

晝ヨリ漸ヤク風雨止ミタルヲ以テ總代及導者二名ヲ呼ヒ山越ノ準備ヲナス皆云  
フ道ヲ誤マラス意ノ如クナラハ露宿一泊人家ヘ出ツヘキモ或ハ人跡絶ユル所ハ  
其如何ヲ保シ難シ依テ一行三泊ノ處ヲ以テ行カソトナ乃チ坐側ノ鑊釜一升炊  
キ位ノモ一箇ヲ借リ携フ

午後四時南風見村出起シ再ヒ仲間村ニ趣ク全五時十五分仲間村番所ニ着ク時ニ  
去十九日機那丸ヲ服セシメタル老人全村三番地平民和慶那嘉名ナル者出テ、全

快ノ禮ヲ述フ然トモ吏員ヲ恐ル、ノ口氣アリ  
 仲間村番所ハ村中上等ノ貸間ヲ以テ之レニ充ツ方各一間半竹ノ敷床ニ七島ヲ展  
 ヘ竹ノ椽アルモ敷鴨居無ク戸板ハ建懸ク細ニ結留メ夜間風雨ヲ凌クノ用トナス  
 隣室ニハ老嫗二名アリ七時頃家婦ノ食スルヲ見レハ唐薯ヲ筮ニ盛り二婦相對シ  
 傍ニ三疋ノ犬横ハリテ尾ヲ掉フ二婦薯ノ皮ヲ去リコレヲ犬ニ與ヘ又食ヒ殘セシ  
 ヲ與フ最後ニ二婦三犬一團トナリ共ニ食フ終リテ余等ノ飯熱セルヲ以テ例ニ依  
 リ卵飯ヲ啜ス三疋ノ犬又側ニ來リ尾ヲ振り顔ヲ仰キ一飯ヲ乞フニ似タリ敷物皆  
 泥犬足ノ爲メ汚サル素ヨリ土足昇降ノ土人慣ヒ以テ怪マス余等モコレニ半化ス  
 ル如ク亦以テ不潔トスルノ意ナシ是レ先島遊歴ノ實況ナリ土人等ハ畢竟自食ス  
 ルモ猶不充分ナルニ拘ハラス毎戸必ス三犬或五六犬ヲ飼フコレ鐘愛スルニアラ  
 スシテ實ハ野猪ノ害ニ備フナリ石垣ヲ村圍ニ繞ラヌモ尙ホ足ラスシテ犬ヲ以テ  
 防禦ニ充ツルニ至ル古人云フ苛政虎ヨリ猛シト今先キ島ノ入民ハ野猪ニ苦シム  
 苛政ヨリ甚シト野猪ノ巨害知ルヘキ也  
 琉球漫遊雪隠困難ノ狀

番所ニ雪隠ノアルハ上等ナリ其構造タル丈ケ四尺巾三尺強ニテ圍ヒ敷板ハ二三  
 寸ノ丸太ヲ用ヒ脱糞穴ハ三寸四方位ニ明ケ最初ハ兩便ノ時甚困難セリ後チ便方  
 ヲ得ントシ土人ノ跡ニ隨ヒ初メテ便方ヲ得タリ其法穴ニハ脱糞スルノミニテ尿  
 ハ穴ニ掃ハス隨地ニ任セ放ツモノトス而フシテ素人細工ハ丸太ナレハ滲漏ノ速  
 ナルコト板床ノ比ニアラヌ至テ輕便ナリ其他民家ノ雪隠ハ即チ豚小屋ナリ其構  
 造皆石ヲ疊ミ高サ四尺生糞ニヨリテ切石ニ築クアリ方四五尺ノ圍トス中ニ數頭  
 ノ豚ヲ飼フ又石垣ニ石磔ノ袖ヲ張出シコレニ登リ男女皆脱糞ス糞ノ脱スルヤ豚  
 來リ鼻ヲ鳴シ早ク糞ノ下ルヲ喜フニ似タリ若シ秘結スル時ハ豚ニ對シ氣ノ毒ト  
 云ハサルヲ得ス余何邊ヲ問ハス投宿否ヤ便所ヲ認ムルヲ常トス一夕薄暮ニ際シ  
 例ニ依リ厠ヲ見ル草木四モニ圍ミ就中萱ノ如キハ丈余ニ達シ毒蛇ノ巢窟カト疑  
 フ生憎下痢ノ症ニ罹リ止ムヲ得ス雨ヲ胃シ傘ヲ手ニシ真ノ暗黒ナルモ燭ヲ照ラ  
 サスシテ上ル中間ニシテ我カ臀ヲ冷然砥ルモノアリ一時狼狽毒蛇ノ襲處ト爲ス  
 嗚呼我カ精神ノ未ク達セス中途ニシテ死セントスル遺憾何耐ヘン實ニ天ヲ怨メ  
 リ傘ヲ投ク滿身雨ニ濕フ靜思試ニ摩刷スレハ毒蛇ノ襲ニ非スシテ豚ノ襲ヲ知ル

余ノ喜ヒ可知也是ヲ八重山西表島仲間村ノ一珍事トス苟モ如此境遇ニ會スル者  
ニアラスゾハ誰カ能クコノ眞况ヲ解スルヲ得ンヤ

七月二十三日

九十一度六分

午前七時一行四人列舟ニ棹サシテ仲間川ヲ遡ル大凡五町巾百五十間許左岸ニヤ  
ツサ村ノ古跡アリ今ハ樹木繁茂シ僅カニ殘礎ヲ留ルノミ兩岸ニ沿フテ繁茂スル  
ハ鬚木ト稱ス四季花實ヲ連綴ス其實タル上下皆尖リテ大サ中指ノ如シ長サ四五  
寸落チ去ルニ隨ヒ再生シ大樹トナル而シテ潮浸ス處ヲ界限トシ他ハ雜木ヲ生セ  
リ川ノ兩岸東西凡二里余南山麓ヲ距ルコト凡ソ一里半平地ナリ一望巨樹繁茂ス  
ルノミ  
若シ有爲幹材ノ人ヲ得テ相當ノ資本ヲ附シ期スルニ十年ノ星霜ヲ以テシ山ニ從  
ヒ木ヲ伐リ兩岸ニ堤塘ヲ築キ河川ヲ深フシテ通船ノ便ヲ計ルトキハ數千町歩ノ  
水田ヲ得ルノミナラス氣候温暖ニシテ一年再收ノ利有リ然ラハ則チコレニ據リ  
以テ南門鎖鑰ノ目的ヲ達センコト豈難シトセンヤ  
舟行迂廻大凡二里ニシテ某ノ山下淺瀬ニ至ル是ヨリ舟ヲ捨テ、森林ニ入ル字ヲ

「ミヤケ」泊ト云フ仲間村ヨリ一里半ニ過キスト「ゴザ岳」ノ頂ニ迄一里半河水赤濁ヲ  
呈ス飲ムヘカラス沿岸數十ノ敗屋ヲ見ル是屋材伐採ノ假小屋ナリ從來藏元頭以  
下吏員一統及村落吏員モ家屋ヲ新築スレハ頭ハ其引受ノ間切割與人(他府縣ノ村  
長如キ者)  
ハ其村內割ニテ人夫ヲ出シ瓦材ヲ撰伐ス而シテ右ノ夫役ヲ務ムルハコレ平民ノ  
義務也故ニ吏員ハ皆家屋ヲ無代ニテ新築シ得ルノ習慣ナリシカ本年四月ヨリ之  
ヲ廢止セリト云フ然トモ外面ハ則チ外而裏面ハ裏面其實ハ未タ習慣ヲ實行シ居  
ルノ形跡アリ役所長其制ヲ發シ舊慣改良ニ意アルモ人員所僅ニ八人藏元吏員百  
二十名以上之レニ村落吏員附和スルアリ尾大不振改良モ名ノミ存シテ實際行ハ  
レサルハ現況ニテ役所長ノ藏元吏員以下改正ヲ望ム所以モ實ニ爰ニ存セリ  
小樹ヲ兩手ニ排除シ行クコト數十間方三十町斗リノ草野ニ出ツ連日降雨ナレハ  
泥水膝頭ニ及フ各所ニ畦跡アリ蓋往時水田ナルヘシ是ヨリ木ノ根ニ攀チ山ニ登  
レハ樹木天ヲ蔽フテ晝暗黒ヲナス山蛭ノ夥シキ比スヘキ無シ身其害ヲ受ク隨テ  
除クハ隨テ付ク少シ竹ノシミ休マントスレハ四方上下ヨリ蟻付ス登テ竹藪ニ至レ  
ハ漸ヤク其害ヲ免ル「ゴザ岳」前七町位ノ處ニテ石炭礦ヲ見ル其見本ヲ探ル是ヨリ

數丁ニシテ竹藪ニ入ル廻二寸位長サ二間許其節タル高カラス赤茶色而光澤アリ蓋シ別種ノ美竹其光澤アル賞玩スルニ足ル本岳絶頂ハ皆此竹ヲ以テ藪ヲ藪中ニ丈許ノ雜樹マ、アリ

正午十二時ゴザ岳ノ絶頂ニ達ス木ニ登リテ四方ヲ望見ス東ハ仲間灣西ハ船浮灣ヲ望ミ北ニハ全島第一ノ高山ナル古見岳アリ巖キニ海上ヨリノ概測ニ據レハ海面ヲ抜ク一千六百尺ゴザ岳コレニ亞ク水而一千尺ト云フ即チ東西ヲ限ル中真ノ山脈トナス午飯ヲ喫シ直チニ下ル此岳ニ登ルヤ一消一顯猶人跡アリ相持ミ頂上ニ達スルヲ得タルモ是ヨリ絶ヘテ人跡ナシ下ル數町ニシテ樹木又々繁茂ス針路ヲ定テ起ツモ豫想ヲ誤リ崩巖深谿ノ前行ヲ遮キルアリ舊テ越塙ヲ求ムルモ得スコレヲ大瓶ノ側而上ニ立ツニ警フ若シ一歩ヲ誤ラハ忽チ攀ツヘカラサルノ中ニ陷メ不得止方ヲ轉シテ谷ヲ涉リ行クコト數町ニシテ又石炭礦ヲ見ル見本ヲ探ル之レヨリ又山蛭ノ苦ムル所トナリ道ナキノ山谷ヲ跋涉シ汗全身ヲ濕シ渴シテ止マス露水皆暗赤色ヲ呈シ一見シテ其害アルヲ知ル獨リ此山中ノミナラス西ハ表島ノ山中ノ河水概テ暗濁ニシテ其清ナルモノ殆ノト稀レナリ此島ヲ過ルモノ足

山中露宿

此汚水ニ浸潤セハ忽チ瘴氣ニ感スト土人亦此水ヲ恐ル、コト甚シ然ルニ渴愈極マリ脚愈憊レ復タ己ムヘキニ非ス於此乎醫師ノ嚴戒遵守シ易カラス噫此行身ヲ以テ犠牲ニ供スルハ固ヨリ期スル所ナリ此惡水ヲ飲テ瘴氣ニ感シ還テ醫師ノ試驗ニ供セハ豈醫學上一進歩ヲ與フルナカラシヤ焉ソノ躊躇スルコトヲ爲シ然トシテ大ニ悟ル所アリ惡水何ソ恐ル、ニ足ラン余ハ瘴毒ノ試驗器ナリト途ニ之ヲ掬テ一連ニ牛飲シ一時大ニ渴ヲ醫スルヲ得タリ數々高樹ニ登リテ針路ヲ求ム而シテ海洋猶望ムヘカラス杖トモカトモ一ニ頼ム洋傘モ爰ニ至テ箒ノ如シ只骨ヲ留ムルノミ此邊山龜多シ大抵六七寸許一龜ヲ拾ヒ行ク數町ナルモ嶮阻ヲ涉ル頗ル不便ヲ以テ捨テ去レリ又行ク一里半計リニシテ時辰儀正ニ四時ヲ告ク導者ノ苦狀ヲ訴フルモ亦宜ナリ種々ノ誠言以テ僅カニ之ヲ慰ス然レモ人跡隱現スルヲ以テ稍愁眉ヲ開ク午後七時中良川ノ水源ニ達ス地字ヲアースエラト云フゴザ岳ノ頂キヨリ直徑一里ニ過キスト云フ日暮レ休勞レ爰ニ露宿ヲ一決ス一行皆數回ノ轉蹊ヲ免レサルヲ以テ足ノ爪ヲ失フアリ手ノ甲ヲ傷フアリ余モ膝頭ト手トニ負傷セリ一荷ヲ卸シ枯木ヲ拾ヒ火ヲ燒キ煖ヲ取



リ晚登ノ計ヲナス藪包ヲ解ケハ釜ハ數片ニ毀損セリ爰ニ至テ一行皆茫然手ヲ拱  
テ嘆聲ヲ發スルノミ余曰ク米アリ水ニ浸シ喫ヘシ燒火ニ腹ヲ炙ハ腹中ニテ自ラ  
飯ト化セン猪肉アリ醬油アリ必ス死スル患ヒナシト先ツ泡盛酒ヲ把リ共ニ飲ム  
余ハ齒ノ病ヲ以テ肉モ米モ喫ム能ハス「コンゲン」スミルク「一」罐ヲ以テ飯ニ換フ樹  
下ニ毛布ヲ布キ寢ントスルモ全身山蛭ノ襲撃トナリ徹夜眠ル能ハス牛飲ノ泡盛  
其害ヲ緩スルニ足ラス只雨ナキハ不幸中ノ大洪福トス

七月二十四日曇

八十六度四分

午前五時前夜ノ殘物ヲ喫シ起ツ川アリ仲良川ト云フ舟以テ下ルヘシト行クコト  
拾町計リ兩岸ニ水田ヲ見ル秋收ノ期ニ際スレハ定メテ搭載ノ船有ヘシト各所ヲ  
尋ルモ得ス小屋有モ人ノ居ル無シ且ツ是ヨリ以往ハ土人必ズ小舟ヲ用ヒ來往ノ  
便ヲ取ル故ニ依ルヘキノ小徑モナシ一行偏ニ川ニ添フテ下ル沿岸卑濕泥土股ヲ  
沒シ草鞋ハ泥濘ニ奪ヒ去ラレ後藤氏モ余モ徒跣ニシテ行ク一里余ニシテ漁夫ノ  
列舟ニ棹シテ迎ルアリ強請ジテ其舟ヲ雇ヒ午後三時再ヒ租納村番所ニ若クコト  
ヲ得タリ本日此舟無リヒハ游泥ノ中ニ露宿スルハ元ヨリ期スル所ナリシ噫殺ス

舟浮港  
見勝意

神アレハ助クル神アリ此舟ヲ得タルハ實ニ一行ノ洪福ナリトス  
東海岸仲間村ヨリ西海岸租納村ニ至ル大凡里程七里ニ過キス内仲間川仲良川各  
舟行スル大凡一里半ノ便アリ然レハ其間四里ノ新道ヲ開鑿スルト見做セハ古見  
仲間南風見三ヶ村數千町歩ノ大原野ト此有名ノ船浮村船浮港ト連接スルコトヲ  
得ル敢テ難キコト有ル無シ此天然ノ良港アリ又天然ノ石炭礦アリ加フルニ數千  
町歩ノ原野ヲ拓殖シテ食用ヲ備ヘハ實ニ我カ帝國南洋第一ノ海軍要港トナルヤ  
信シテ疑ヒナシ

今我カ國ノ現狀ハ口ニ東洋ノ形勢一日モ緩フスヘカラスト談シテ上下舉テ一モ  
實踐躬查スル者ナシ試ニ余カ此持論ヲ政事家ニ示サンカ其同意ヲモ得ヘク調査  
ノ上問題トモ爲ルヘシ然レトモ調査ト云ヒ議論ト云ヒ紛々擾々些末ノ舌戰ニ日  
時ヲ空費シ終リハ烟霧ニ歸シテ止ンノミ嗚呼我カ邊境ノ防務誰ニ向テ認ソ見ヨ  
魯鷲ハ大鐵道ニ駕シテ東洋ヲ窺ヒ英獨ハ海城ニ據テ又東洋ニ臨ムト口ニハ小學  
ノ生徒モ猶能ク唱道スヘシ然トモ眞ニ其懼ルヘキナ心ニ知り得テ豫メ之レカ所  
ヲ爲シ其來ルヲ待ツモノ天下幾人カアル敢テ之ヲ識者ニ問フ

七月二十五日晴 九十度三分

西表租納村二十五年年度村費負擔高但民費及貢租ハ官簿アルモ村費ヲ記載セス左ニ村費ヲ特掲ス

一米 二石〇九升 番所費 正男七十六人ニ割リ 一人二升七合五タツ、  
 一全 二石三斗四升二合八タ六オ 社寺費 人口三百七十三人ニ割リ 一人六合二タ八オツ、  
 一全 一石七斗五升七合二タ四オ 祭典費 戸數百二十戸ニ割リ 一戸一升三合六タ二オツ、  
 一人夫五百八十人 修繕費 正男七十六人ニ割リ 一人七人六ア三厘二モツ、  
 右之通

明治二十六年七月

西表番所印

按スルニ八重山群島中石垣島藏元所在地四個村ノ外寺院アルヲシ其他ハ一ノロシモイ巫女ト村社アルノミ然シテ村費大半ハ社祭費ニ屬セリ先島ハ凡テ人頭ノ暴稅アルニモカ、ハラス社祭費等ニ就キ之ヲ輕減スルノ法ヲ設クサレハ假令地租改正シ苛稅ヲ除クモ村番所費ノ窘蹙スル所トナリ良民ノ蘇生ヲ見ルコト實ニ難シト爲サン

租納村平民一ヶ年貢租民費負擔高 但二十五年年度實費調

士民租負擔比較

上男	貢七斗五升八合七タ四オ
中男	貢六斗九升七合六タ九オ
下男	貢八斗五升六合三タ三オ
下々男	貢五斗四升五合七タ四オ
全上士族全	
上男	貢一斗九升九合三タ七オ
中男	貢一斗四升八合四タ五オ
下男	貢一斗七升七合六タ四オ
下々男	貢一斗六升八合九タ七オ

全平民士族實費差引士族ノ輕キヲ左ニ表出ス

全上	貢六斗七升九合三タ七オ
全上	貢二斗八升九合三タ六オ
全上	貢二斗七升七合三タ九オ
全上	貢二斗七升七合三タ九オ
全上	貢二斗七升七合三タ九オ

明治二十六年七月

西表番所印

宮古八重山群島平民士族負擔額及差額皆比例ヲ取ル同一ナリ故ニ畧シテ記サズ且ツ士族分家ハ士族ノ籍ニ入ル慣習ナリ故ニ士族ノ分家別家日ニ増殖スルハ本表ノ如キ輕キ負擔一原因トナリ平民ハ之レニ反ス又士族ハ村吏トナルノ慣例ナリ是レ最モ先ツ改正ヲ要スヘキモノトス

西表島諸山ノ極木ト云フ一丈ク二三丈根廻リ三尺以上ノモノニハ皆番號ヲ附ス  
 是發見人所有ノ符號ナリ  
 又深山ヨリ角材トナシ一丈ニ五六寸許ノ材ヲ伐採シコレヲ石垣島四ヶ村へ賣ル  
 ニ諸雜費大凡米一斗ヲ要スト云フ午前八時刻舟ニテ出起西表村内大字成屋村ナ  
 ル内離島ニ至ル凡ソ一海里ニシテ全島三ツ井炭鑛ノ第一鑛區ニ上陸ス鑛坑北ニ  
 向ヒ海ニ瀕ス炭層厚サ凡三尺余成屋村ニ至ル壯下一人ノ居ル無シ之ヲ問ヘハ早  
 朝ヨリ舟ニテ各離島ノ耕地ニ出テタリト  
 成屋村古昔ハ其村ヲ船浮港南ノ海岸即母島ノ海ニ創設セシモ高山ノ麓ニシテ山  
 猪ノ害甚シク之ヲ防ク術ニ苦シミ現地ニ移リシト云フ位置ハ内離島ノ北方海岸  
 ニ接シ平坦ナル狹隘ノ所ニアリ海面ヨリ少シク高ク土地ハ赤黒土層ニシテ砂礫  
 ナ被ムル村内樹木所々ニ繁茂ス東ハ海ニ面シ租納港ヲ望ム其他ハ圍ムニ山岳ヲ  
 以テス西方ハ村ト山トノ間ニ沼田アリ川流緩慢濶シテ沼トナル戸數六其他略各  
 村ニ同シ  
 之ヨリ第二三ノ舊坑區ヲ經テ三井炭鑛事務所ニ至ル三井出張代理人三谷伊兵衛

西表島  
内離島  
炭鑛石

ニ面會シ創業以來ノ沿革ヲ問フ答云フ私任在礦四五年ナルモ帳簿ナキ爲メ往時ヲ  
 知ルニ由テシ其故ハ當礦一時廢業引上クノ際帳記ハ三井組へ引取其後物産會社  
 へ引渡等ノ爲メ各所ニ散在シ一括セル者今ハ見ル能ハス恐ラク東京ニ詳細之調  
 アルヘシ當事務所ニアル丈クハ一見可爲致ト古記之中左之書面アリ  
 益田孝氏内離島西表島石炭見込上申控寫  
 御管内八重山ノ内離島石炭山採掘清國地方へ輸出販賣仕リ度候ニ付税關員御  
 派出願出候處該石炭之多寡採掘之方法將來目的等御尋問相成リ即チ左ニ開陳  
 ス  
 一離島ニ在ル石炭層ハ其ノ最モ厚キハ四尺二寸中ニ一寸ノ石層ヲ夾有スト雖モ  
 三尺二寸ニ下ラス是レ其ノ東北ニ面スル海岸ニアル露面ニ係ハル而シテ其南  
 西面露出ノ點ニ於テハ同層ナリト雖モ大ニ層狀ヲ異ニシ其ノ厚サ一尺五寸ト  
 四寸ナリ其ノ間ニ一尺七寸ノ大層ヲ夾有ス而シテ該石炭層頁質ノ部分平均ノ厚  
 サハ大約三尺ナルヘシ而シテ海水準上ニアルノ炭量ハ百万噸ニ近シト雖モ採  
 掘上殆ント四分ノ一ヲ失フモノトシ又其ノ露而廢耗ニ屬ス可キ部分ヲ合併シ

其ノ三分ノ一ヲ除キ海上準下五百尺ニ至ルマテ採掘スルトキハ其量大約五  
 倍ニ下ラスシテ三百万噸以上ナル可シ今採掘スルハ海水準上ノ分而已ニシテ  
 離島南西面ヨリ北西ニ掛ク墜道ヲ堀リ運輸ノ便ニ供ス其ノ採掘スル量ハ一日  
 凡ソ百噸トシ一ケ年凡ソ三万六千噸採掘スルノ見込ナリ而シテ販賣地全ク其  
 ノ近傍ナル福建厦門香港等支那南部ノ諸港トス之レヲ運送スルニハ相當ノ風  
 帆船ヲ以テ直接ニ離島灣ヨリ要用地へ運送スルノ外ナシ而シテ右ノ如キ計畫  
 ニテ目的ヲ達スルニ至レハ海水準下ノ分モ相當ノ場處ニ立錐シ立坑ヲ堀リ一  
 層盛大ニ坑業ヲ營ミ候目的ニ候  
 右之通り申上仕リ候也

三井物産會社

社長 益田 孝

沖繩縣令西村捨三殿

又同事務所記録中會計ノ一事アリ左ニ

記

明治十九年中仕入金額販賣金額差引表

金三千百圓七十六錢一厘

仕入金額

内

販賣金額二千四百〇二圓五十七錢三厘

入金

差引殘金六百八十六圓五十一錢三厘

不足金

全年間在島人口差引表

男百十人

女十五人

小兒十二人

内

合計百三十七人

事務員 十一人

坑夫

八十二人

船出夫 廿八人

諸職人

四人

沖繩人 十二人

計百三十七人

死亡 九人

歸國

十九人

差引百〇九人

百九十八

全年工業費各科目類別表

科 目	内 譯	金 額
借區稅		金四百七十八圓四十七錢二厘
土人雇賃		金百五十三圓八十六錢九厘
消耗費		金二百五十六圓二十四錢六厘
物品運搬費		金百六十八圓五十四錢
坑夫給料金		金千二百七十六圓五十九錢六厘
接對費		金六十五圓八十六錢
掛員旅費		金五百八十圓四十七錢五厘
具代不分明		金七百五十圓六十三錢一厘
掛員月俸		金千八百五十圓六十一錢
開鑿費		金四百三十六圓七十錢六厘

諸雇入旅費

全千五百五十八圓三十八錢四厘

建築費

全二千四百八十圓三十錢

雜費藥價

全四百九十九圓二十七錢九厘

船材運賃

全千四百五十八圓七十七錢

臨時費

全百五十一圓六十九錢二厘

諸雇人給料

全二百八十八圓 三錢四厘

船實火給料

全五百七十四圓五十四錢八厘

囚徒賃錢

全千七十圓八十一錢

那覇出張所

全二百〇九圓四十三錢七厘

船夫旅費未決算

全百十三圓三十九錢

合計一万四千四百二十四圓六十四錢九厘

同年間西表炭坑々道延長調

坑 名	全延長
一 坑	二百七十二尺

精製二月十九日着手三月  
 坑道設置ノ点ヲ定メ三月  
 七シモ探入少ノ四月八日  
 後ハ仕探ノミ四月八日着手  
 百九十九

二 坑 二百八十八尺  
 三 坑 百尺  
 四 坑 十五尺  
 五 坑 八十尺

計七百五十五尺

同年間採掘高及ヒ差引調

名 稱 採掘量

試驗炭 七万七千六百八十八斤 無代價  
 賣 炭 五十一万五千五百四十二斤 定價賣出  
 流失炭 三十五万斤 損 失  
 千日丸積 六十六万三千斤 香港支店  
 込炭ノ内 六十三万二千七百斤 翌年へ  
 持 越

三谷氏云フ本年三月當坑業ニ付出京三井本社へ相談ノ處礦山會社組織中ニ付今

二百  
 六月五日一坑ト排氣道ヲ通  
 シ以後坑夫一疾病ノ爲メ殊ニ通  
 塊土墜落スルニ至レリ十二  
 月十五日ヨリ四徒坑トリス  
 中八月廿三日着手事故アリテ  
 中止  
 船行等ノ不便ヲ以テ一時中

後事業ノ方針ハ未タ確定セス坑夫三名ノミ通常六名定員ナリト即今借區二ヶ所  
 一ハ島ノ北方ニ面ス七万六千余坪三谷伊兵衛借區名ナリ右ノ坑夫ニテ營業ス二  
 ハ島ノ東方ニ面ス六万余坪借區主ハ三井義之助名義ナリ但休業中ナルモ前坑夫  
 ナリテ營業ノ姿ヲ擬セリ  
 三谷氏又曰フ明治十九年二月借區許可ヲ得ルノ際ハ坑夫百卅名ニシテ其他假監  
 獄ヲ設ケ懲役人百四五十名モ雇ヒタリ爾來二十廿一廿二ノ三ヶ年ニ涉リ兩坑夫  
 ニテ百名以上ノ死亡アリ大半ハ皆地方病ノ爲メナリ二十二年ニ至リ突然坑夫悉  
 皆引拂トナリ中止ニ及ヘリ  
 現今採掘ノ炭脈ハ厚サルソ三尺余ナリ是迄各所ニテ見シ炭脈ハ大凡ソ三尺ヨリ  
 二尺五寸位ノ間ニアリ  
 該時輸出先キハ香港ニテアリ其際上ハ荷ニハ木炭ヲ燒キ販賣シテ是亦相應ノ計  
 算アリ該港ヨリ香港迄一噸ノ運賃金一圓二三錢也ト  
 三谷氏又云フ當島炭脈ノ顯レ居ルハ長サ五十町巾五百間位ニシテ島ノ周圍ヲ遶  
 ラシ六七箇所アリ是ノミニテモ一ヶ年三百万斤ツ、テ得ヘシ假令連採四十ヶ年

位ニ互ルモ且ツ盡ルノ憂無カルヘシ又學說ニ據レハ炭脈ハ必ス二三層ハアルモ  
 ノニテ下層ニ隨ヒ彌瓦炭ヲ得ルモノ也ト然レハ此ノ島ノ如キハ無盡藏トモ云フ  
 ヘキカト猶ホ炭山ノコトニ付再會ヲ約シ別ヲ告ク列舟船浮港ヲ經過ス  
 午後一時四十分崎山村枝村字網取へ上陸午飯ス該村戸數十一人口六十八内男三  
 十八女三該村ハ風土瘠地ニ拘ハラス今ヲ去ル十三年以前ヨリ三戸ヲ増殖セリ或ハ  
 人口繁殖ノ兆トナスヘシ地勢土質ノ如キハ本村崎山ノ條下ニ併記ス  
 午後五時崎山村番所ニ投宿シ本日陸路五里海路ヲ合セ直チニ村所及原野ヲ踏査ス  
 賦課凡十五海里ニ下ラス凡數百町餘ナレトモ丘岡凹凸甚シク耕作ニ適セス放牧場ニハ適當ナリ歸途番所  
 下タノ石炭脈ヲ一見シ見本ヲ採ル時ニ午後七時  
 崎山村ハ古昔人口百六十人ト云フモ兩渡及風土瘠ノ爲メ退々減少シ現戸數十五  
 人口七十三也往昔波照間島人ヲ爰ニ移セシハ網取灣ヲ良港ト認ムルカ爲メナリ港  
 口北ニ向ヒ東南西三方皆高岳ヲ擁ス港口數海里ニ當リ左右ニ二礁岩屹立ス灣内  
 凡ソ一海里半未タ測量ヲ經サルモ深サ瀛船數艘ノ碇泊ニ供スルニ足ル一昨年外國  
 某漁船強風ヲ避ケ碇泊セルハ村民ノ唱說スル所後來必ス一良港トナルヘシ本村

ハ島ノ西南崎山灣ノ西岸ニ接シ山岳ノ半腹ニ位ス故ニ地勢急ニ傾斜シ海面ヲ抽  
 ク甚タ高シ地質岩石層ニシテ砂石ヲ被ムル處モアリ赤土ニシテ窪ムルハ濕氣ナリ  
 村内草樹繁茂シ宛モ山林ノ如シ村ノ西隅ニ一村飲料泉アリ清水ナルニモ拘ハラ  
 ス科斗蝦蟇コレニ生息ス畢竟修繕ヲ加ヘサルニ由ル末流處々ニ滯リ往々泥濘ノ  
 地ヲ見ル毎戸ノ地タル相隨下スルヲ以テ段々下方ニ至リ上方ノ汚水塵埃等ヲ受  
 ル甚シ水田ハ凡テ山中ノ盤間ニアリ平地地ニアルヲ見ス

原野反別三百〇二町九反三畝十步

牧場反別二百〇九町步 但放牧牛一頭ニ付一町  
一反四畝歩強ニ當ル

牛百八十三疋内牝九十八疋

人口男九十四人

女九十四人

崎山番所併村ニケ村合

七月二十六日晴

九十一度四分

午前八時列舟ニ乗リ崎山ヲ出帆セシニ風甚強カラサルモ崎山ノ八重目崎ト稱ス  
 ルハ該島ノ西端ニシテ正面ヲ受クルヲ以テ海面常ニ穩ナラサル爲メ船子ノ覆没

ヲ恐ルハ、ハ余等一行ヨリモ甚シク數々舟ヲ返ント請フ而シテ一行モ數々巨濤ヲ被リ全身ヲ浸スニ至ル止ムヲ得ス舟ヲ返シ山道ヲ行ク一里ニシテ石炭脈ヲ見ル見本ヲ探ル又二里餘ニシテ正午十二時崎山枝村鹿川村ニ着ス

本村ハ島ノ西南海岸ニ接シ高岳ノ半腹ニアリ傾斜甚クシテ崎山ト異ナル無シ地質モ亦同シ位置極メテ險阻ニシテ仰クハ屹立タル高岳ニシテ俯セハ不測ノ蒼海タリ鹿ノ川村戸數十八族二月平人口四十八内男女二十四人南風見村ハ該島正南ノ極盡ニアリ本村モ亦西南ノ極盡ニアリ物産未ク起ラス唐菓ヲ食トス海岸岩礁ニ生スル海人草ヲ採リ販賣スルノミ未タ漁業ノ利ヲ知ラス操舟ノ術ニ習ハス飼犬ト居室ヲ同フシ恬トシテ又怪マス眞ニ憫ムニ堪ヘタリ鹿ノ川貝ト稱スル小貝アリ

班文奇麗人之ヲ珍トス數枚ヲ拾ヒ見本ト爲ス余一行去ル十三日石垣入浴爾來風雨ニ暴シ泥濘ニ塗ミルモ浴スルノ道無シ衛生ハ姑ラク之レヲ度外ニ置ケリ今日ハ日中投宿スルヲ以テ海水浴ヲ試ミタリ其愉快名狀スヘカラス

午後五時二十分石垣ノ役所ヨリ飛脚船來ル操舟一等ノ糸滿人ナリ來信ニ云瀛

船唯今入港與那國廻航ノ都合ナリ直ク歸ント忽チ急ニ飯ヲ炊キ裝ヲ整ヘ糸滿ノ列舟ニ乗ンヲ談スルモ數人ノ乘船覆没ノ恐アリト斷シテ肯セス舟浮港ヨリ乘船セントノ返信ヲ出ス

七月二十七日晴 八十九度二分

午前七時鹿ノ川村出起山間ノ小徑ヲ經テ網取村網取灣へ出ツ一里列舟ニ乘リ舟浮灣ノ入口サハ崎ヲ經テ午前十一時舟浮村駐在所ニ着ク直チニ村ノ西北岬ノ元舟浮ノ舊村跡ヲ見ル今ハ耕地トナル南小山ヲ負ヒ西北ノ風ヲ受ク内離石炭坑ヲ距ル十餘町東西凡五百間南北百間位凸凹ノ地勢ナリ飲料泉所々ニアリ

舟浮村ハ島ノ西海岸ニシテ舟浮港ト相對シ狹隘ナル平坦ノ地ニ在リ土質砂石又ハ黒土アリ樹木繁茂ス三方ハ山岳及丘陵起伏不毛ノ丘岡ニ圍繞セラル村ノ西ハ人家ニ接シテ沼田ヲ見ル港ノ南ニ喰良川アリ源ヲ南方山岳ノ谿間ニ發シ沼田ノ餘水ヲ併セ港口ニ注ク河川ノ沿邊ハ沼田泥濘多シ

本村ハ風土病ノ熾ナルニ拘ハラス五年前ヨリ人口増殖ノ兆ヲ呈セリト云フ

午後一時舟浮駐在所巡査川崎貞助鹿兒島ノ櫻應アリ全氏云フ曾テ妻子ヲ携ヘ來



リシモ當春歸縣セシメタリ何トナレハ昨年二才ノ小兒ハ腦膜炎症ニテ死シ私モ西表ニ渡ル三年一回風土病ニ罹リ爾來豫防トシテ四季ノ別ナク大夜具ヲ着ク發汗スルハカリノ度合ニシテ攝生セシ後ハ全ク其患ヲ免レタリコレ夜ノ暖ナルヲ繼續スルハ衛生法ニ暗合セリト確信セルナリ妻子ハ兎角資性薄弱ニテ風土病ニ感シ易キノ恐アリ故ニ不自由ナカラモ子孫ノ斷絶ヲ慮リ歸縣セシメタリ又云フ獨リ某ノミナラス此地ニ渡レル全條ノ子モ大抵健康ヲ欠クヤニ認メタリ全氏又曰フ今ノ巡查部長柳彌九郎魂兒島士族六七年當地ニ奉職スルモ一回モ風土病ニ罹リタルコトナシ全氏ノ養生法ヲ嚴守スル他人ノ能及フ處ニアラス其一端ヲ舉レハ各村巡回ノ時ハ必ス一度沸騰セシ飲水ヲ携帶シ渴スレハ之ヲ飲ム決テ沿村ノ飲水ヲ口ニセス全人ヲ除ク外此島ニ在勤シ一人ノ風土病ニ罹ラサルモノナシト云フ別ニ臨ミ支那製古鈴一個ヲ紀念トシテ惠ル

舟浮港位置ハ外離島ト崎山村ノ「ザ」岬ト西ニ開ケテ第一灣口ヲナス其次キハ内離島ト舟浮村ノ岬ト第二灣口ヲナス之ヲ經過セハ南ヲ指シテ深ク灣入スルヲ以テ如何ナル西風モ又波濤激動ノ患ナシ第一灣口ヨリ南岸ノ陸地迄凡四海里半港

口一ハ二海里其次キハ一海里四分ノ一ニ過キスト云フ縣廳ノ取調ニ據ンハ碇泊所ノ深サ千潮十八丈滿潮十九丈八尺東西十海里南北十八町定繫船四十四艘本港ハ沖繩縣三良港ノ一ニシテ我カ帝國南門警備上一日モ緩フス可ラサルノ要衝ナリ殊ニ港灣沿岸石炭脈伏在スルノミナラス飲料水ノ「ボウト」ニ汲取ノ便アリ

當村ハ明治二十年頃本港ノ南岸元成屋舊跡ニ税關出張所設ケタル際係リ官ハ爰ニ家族ヲ置キ毎日通勤セリ波戶塙等モアリ今ノ駐在所ハ其時税關吏ノ官邸ナリト云フ

午後四時舟浮村ヨリ列舟ニテ出帆全港ノ南岸ナル税關跡ニ上陸シ舊成屋村ノ遺跡ヲ踏查ス少シク土功ヲ起セハ長サ一千間巾百間位ノ屋敷地ヲ得ヘシ午後七時租納村番所ニ着ク此一行ハ後藤役所員木塙巡查余ヲ合セ三名ナリ

七月二十七日晴 東風 正午八十七度二分

午前九時列舟ニテ再ヒ内離島ニ上陸シ全島最高ノ山ニ登リテ舟浮港ヲ遠望シ外離島ニ涉ラントス時ニ該島十海里許沖ニ漁船ノ走ルヲ見ル與那國行ノ大有九ナ

ルヲ知ル急ニ炭坑事務所ニ至リ再ヒ三谷氏ヲ訪フ全氏云フ全島各村ノ牛五千疋位アリ之ヲ種牝牛一万頭位ニ増殖シ石炭ト共ニ香港へ輸出セハ巨大利益アラシク是最モ地方適切ノ利益アル事業ナリ

又云フ石炭ハ那覇ノ需要ニ應スルモ現今ノマ、ニテハ一ヶ年四百五十万斤ハ消費スヘシ即今ノ相場唐津炭ハ一万斤ニ付キ有所代價金拾二圓當所炭モ亦金十二圓ナリ十九年頃ニシテハ當所元價ハ金四圓五十錢ニ過キス是レ曾テ諸事整備スルヲ以テナリ嘗テ高嶋炭山ヲ見ルニ能ク働ク者ハ一人一日四千斤平均ニ掘得ル者アリ又云フ今ノ大有九ハ一時間石炭ノ消費高實ニ一千斤一晝夜ニテ二万四千斤ヲ要ス是舊式機鑪ナレハナリ新式ハ彼レト全一ノ容積ナルモ一晝夜消費スル一萬五千斤ニテ足レリ又云フ全積ニテ一晝夜五万斤モ要スル不完全ノ瀛船他府縣ニハ猶存在セルモノアリ又云フ是迄各所ノ探炭出願ヲ計ル者數人アレントモ隣區三井ニテ連印承諾セサルヲ以テ其事成ラズト矜リ頗ニ語レリ何等ノ意思ソ大有九入港別ヲ告テ直チニ乗船セントス時ニ風濤ノ爲メ列舟頗ル動搖スルモ幸ニシテ本船ニ達スルコトヲ得タリ荷物ハ僅カナルモ右ノ爲メ跡ニ殘セリ松長伊

地知氏ト談ス氏云フ是ヨリ本船ハ石炭積ニ從事セン現有石炭凡ソ二十万斤ナリ右ニ應スヘキ人夫三十余名那覇ト宮古嶋ヨリ雇越セリ無人嶋同様役夫少ナクレハナリ

定賃金左ニ

金三十錢 是ハ他府縣人拾余名一日一人ニ付食費外三十錢

金拾錢 是ハ地方人二十余名一日一人ニ付食費外十錢

按スルニ同シク壯丁役夫ニシテ賃金如斯等差アルハ其勞働ニ差アレハナリ他府縣勞働人ト當地方人ト勤怠ノ相違アル霄壤モ管ナラサルヲ推知スヘシ余カ如キモ尙ホ土人ノ二人前ハ勞働スルニ足ル此惰風ヲ洗除スルニハ他府縣人ヲ移住セシメテ本縣人ヲ振起セシムルニ非ラザレハ斷シテ能ハス此事タル少ナルカ如キモ國損トナルヤ實ニ大ナリ

船長又曰フ過ル十九年ヨリ二十二年迄ハ三井ト特約ヲ結ヒ必ス此船ヲシテ月ニ一回廻航セシメタリ運賃若シ一回金二百五十圓以下ノ収入ニ下レハ三井ヨリ二百五十圓ニ充ルノ補充費ヲ給スルノ約ナリ然レトモ三百人内外ノ移住者アルノ

爲メニ實際毎航海収入金二百五十圓ノ下ニ出テシヨトナシ故ニ當時ハ一回モ該約ヲ實行スルナシ今ハ之レニ反シテ貢米積取ノ外該金ニ登ルコトナシ畢竟僅々ノ移住ヲ以テ如斯ノ變動ヲ見ルニ至レリ

余七月十五日有病地ノ巢窟ナル西表島租納村ニ渡リシヨリ全二十八日午後舟浮港上船迄日數十四日間トス全二十日二十一日ノ兩島間鳴瀬地トス無テ加ヘテ巡回里程凡三十七里二十六丁十九間ト村數ハ本枝村合シテ十五ヶ村トスハヶ村ハ本村ニ付ト内租納村ニ一分教場アルノミ八重山統計表ニ據レハ古見村ニハ漢學校掲載シアルモ今ハ教員ナク生徒ナク廢校トナレルハ實況也故ニ租納村一ノ分教場ヲ除ク外他ノ拾四ヶ村戸數二百零八人員七百零九人ハ皆不就學ノ生徒トナレリ又醫師ノ巡回モ一ヶ年僅ニ一回ニ過キス該島古見村々吏ニ質問ノ答書ニ昨年十月頃種痘ノ爲メ醫師一廻來診セルノミ本年ハ未タ一回モ來リシコト云フ而シテ此避病院全様ナル島嶼ニシテ犬ト居テ同フスル赤貧人民ニ上等ノ村位ヲ持セ分頭稅及反布公費村費其他衛生費學校費勸業費ヲ欠損ナク徵收シ居レルハ實ニ見ル者ヲシテ慨嘆ニ勝ヘサラシム

無教育ノ村數

西表島慶長十六年ノ檢地ヲ基礎トシテ周廻十五里ノ制ナルモ置縣以來ハ概測ヲ以テ周廻二十二里二十六町トシテ今ノ統計ニ掲ケリ然ルニ明治二十年農商務屬田代安定氏本島ヲ實測シテ周廻三十二里二十町一八トナス余其確實ニシテ信ニ近キヲ認メリ

元沖繩縣屬田村熊治氏明治二十三年官命ヲ以テ實際ニ就キ取調タル縣廳ヘノ復命書ニ據レハ西表島ノミニテ概計左ク如シ

敷山反別百二十八町二反五畝〇九步 原野反別千二百九十二町九反六畝十九步

收場千九百三十五町三反八畝十步 荒地四百四十四町四反五畝〇一步

敷山原野 荒地合ノ 八百九十八町八反〇十九步 全六屬島分

右五口合反別四千六百九十九町八反五畝廿八步  
實地ニ就キ踏査スルニ敷山原野收場荒地ノ四項目及六屬島ノ分ヲ合シテ多クハ皆水陸田ニ變換スルヲ得ヘキ土地ナリ此外三方四千二百七十六町九反三畝十八步内一万四千三百三十三町七ノ山林反別アリ然トモ是縣廳ノ周廻二十二里二十六町反六畝歩ハ六屬島ノ分ナリ山林反別アリ然トモ是縣廳ノ周廻二十二里二十六町ノ地制ヲ基算トシ其各項目ノ大差アルモノハ之ヲ斟酌シタルニ過キザレハ脫漏

西表島  
牧場新設  
所

ノ地種多キハ云フマテモナシ又タ山林ノ名稱アルモ其實地ニ臨メハ多クノ古村跡及田畑耕地跡等ヲ見ル少ナシトセス假令ヘ三分ノ一反別ヲ指ス稔確ノ地トスルモ山林名稱ノ地ヲ開クハ風土病ヲ洗除スルノ効アルノミナラス多クノ耕地ヲ得ルヤ必セリ然ハ該島及六屬島ニテ四千六百九十九町八反五畝二十八歩ノ新耕地ヲ開拓スルハ容易ナリトス

又全氏ノ調査ニ據ルニ西表島ハ一戸平均シテ田畑宅地合反別一町一反三畝〇二歩トス沖繩島ハ昨年ノ統計ニ據ンハ一戸平均三反十八歩二五ニ當ル西表島ハ三倍半強ニ居ル

牧場地ハ平均牛馬一頭三町一反三畝〇五歩照キ牛馬ナトス之ヲ石垣島ニ比スルモ尙ホ四倍強ニ居ル

牧場ノ有望ナルハ石垣島ニ詳記セルヲ以テ爰ニ之ヲ畧ス今新設シ得ヘキ牧場地ヲ配サシニ該島中牧場地トナルヘキハ舟浮村舟浮港南岸ニ沿ヒテ網取崎山鹿ノ川四少村トス沿岸里程凡ソ七里舟浮村ヨイワ川ヨリ起リ鹿ノ川南風見兩村境其諸山ナレバラ崎迄半島ノ地ヲ放牧場トナスヘシ森林雜木ヲ剪伐燒棄ス有用ノ材ハ一舉シテ兩得アルヘシ一ハ地方病ノ患ヲ

西表島  
地表勢

除キ二ハ其牧場トナスヘキナリ

西表島ハ石垣島ノ西南ニ位ス周廻凡ソ三十二里二十町一八四代氏ノ調査ニ據ル該島ハ巖巒秀抜人煙稀疎乍晴乍雨晴雨ノ變化一日ニ幾回ナルヲ知ラス多クノ谿水及河川アリ其最モ大ナル河ハ上流一里以上舟楫ヲ入ルヘキ大河五アリ其山間及高岳ノ如キハ絶テ人跡ナシ河川ハ緩流ニシテ枯木落葉堆積シテ腐敗ヲナシ泥濘ノ地トナリ往來股膝ヲ埋ム之ヲ要スルニ全嶋殆ント樹木ヲ以テ蔭蔽セラル、ナリ河水ハ海面ト均シキヲ以テ恰モ湖水ノ如シ水田ノ如キハ山間及河邊ニアルヲ以テ山猪ノ害ヲ受ルコト甚クシ嶋中廣漠ノ原野ハ東南地方ニアリ之レニ次クハ北西地方ナリトス南西地方ノ如キハ海岸凸凹高岳斷岸ノ處ナリトス舟浮港ノ如キ良港アルモ其近傍原野ノ寡ナキハ一欠典ナリ故ニ四五里ノ山道ヲ開テ南方大原野ニ連接セシメ南門ノ警備ヲ論究スルハ一日モ緩フスヘカラサル業ト信セリ

西表島各村人口消長ノ景況ハ洪波ノ爲メ溺死者ナキモ兩疫ノ爲メ死亡スルモノ多ク固有ノ風土病益々其勢ヲ英敏ナラシムル爲メ是今日人口ノ舊ニ復セサル所以ナリ何トナシハ無病地ノ人口ハ既ニ繁殖シテ殆ント舊ニ復セントスルモ有病

死亡比較

二百十四

地ハ然ラス藤田千次氏ノ取調タル全嶋ノ出生死亡表ニ據レハ二十二年中西表ノ死亡數ハ出產數ヨリ超過スルニト拾九ナリ即チ死亡ノ比例ハ殆ト一八ニ居ル其内男死亡ノ差ハ六ニシテ女ノ差ハ拾三ナリ然レハ女ハ男ヨリ逸ニ死亡多キヲ以テ女ハ減少ノ姿ナリ是婦人ノ身体ハ男子ヨリ薄弱ナル点ヨリノ結果ナルベシ又西表全嶋ノ風土病死亡ハ其全數一ケ年卅ニニシテ平常病死亡ハ僅カニ十二ナリ即チ甲ハ乙ニ殆ト三倍ス又甲死亡ノ内女ハ男ヨリ多キコト四名ニシテ其比例殆ト一三トナル然ルニ男ノ出生ハ女ヨリ多キコト二倍ナルノミナラス却テ女ハ死亡斯クノ如クナレハ益兩性ノ權衡ヲ失シテ人口蕃殖ノ基ヒテ絶ニ至ル又知ルヘカラス

七月二十九日風雨東南風

正午九十一度一分

石炭積ノ爲メ滞船

運賃ハ此船ナレハ該島ヨリ那霸迄砂糖一樽金二十五錢米一俵十八錢ニシテ帆船ナレハ五貫目入ノ焚炭一俵十八錢ト云フ

又云フ仲間川海灣ヨリ仲長川海口迄概測スルニ直徑十海里ニ過キス内高山ヲ

下スルモ十五海里ニ過キサルヘシ

七月三十日暴風波荒シ東南風

八十八度二分

滞船

全三十一日暴風波荒シ南風

八十七度六分

飲料水汲取トシテ「ボート」ニテ凡一海里位ニシテ某ノ川ニ遡ル瀑布アリ高サ數丈巾五尺許數分時ニシテ水槽ニ充滿ス少シク赤色ヲ帶フ瀑布下黒鯛鱈等アリ小柴ニ糸ヲ付ケ下ス必ス釣ル、ナリ一奇ニ屬ス

八月一日晴南風

正午八十七度四分

三谷氏來訪曰ク長崎ヨリ香港へ賣出木炭凡ソ百斤百六十ニ付キ代金二圓四十錢現今上等炭焚火ハ一日一人ニテ二百斤ヲ焚ク每百斤ノ原價俵造運送共金四十錢舟浮ヨリ香港迄運賃端舟藏敷共悉皆ノ入費金一圓ト見積リ輸出スルモ猶ホ一圓ノ利益アル勘定ナリ

船長曰ク長崎ヨリ香港へ運賃ハ石炭一萬斤ニ付金二十四圓位且石炭ハ重量故決シテ滿載スル能ハス七歩ヲ積得ルモ三歩ハ木炭ヲ積ム余地アリ木炭ナレハ本港

二百十五

ヨリ一万斤金四十圓位ノ運賃ニテ宜シキ見込ナリ  
三谷氏曰フ當坑一日一礦夫ノ働ハ平均探炭一千斤ニ當ル土人ノ坑夫ナレハ初メ  
ハ一日一人百斤モ猶能ハサルアリ積勞兩三年ニ至リ初メテ五百斤位ノ探掘ニ至  
ルヘシ  
西表島ハ石炭礦多クシテ其礦脈西南鹿ノ川村ヨリ北上原村迄凡ソ拾余里ノ間ニ  
礦脈拾五少所ノ多キヲ見ル未タ一モ許可ヲ得テ探掘スル者ナシ但該島西岸内離  
島ニ三井炭礦ノ借區許可ヲ得タルアルノミ予其見本炭拾五種ヲ採取シテ世人ノ  
參考ニ供セリ

午後二時三十分舟浮港拔錨ス

午後八時與那國灣ニ碇泊ス港灣記スヘキモノナシ午後十時漸ク上陸ス陸上ニハ  
烟火出迎フ與那國ノ名産美少婦數十人魚貫シテ來ル地方習慣ナリ余數月ノ飢渴  
ニ目瘦セタルカ殊ニ別種ノ美人ニ見受ケタリ之ヲ一行ノ人ニ問ヘハ曰ク眞ニ此  
島婦人ハ色白ク且ツ懇切多情ナリ若シ美人ノ心中ニ副フ者アレハ只一個價三四  
錢ノ物ヲ與フンハ滯留中其人ニ常侍シ酌ヲ取リテ終夜款待ス故ニ從來沖繩縣官

與那國巡廻ヲ望ム所以ナリト云フ余一品モ齎サ、レハ其實際ヲ試ル能ハスコレ  
ヲ遺憾ト爲ス此航海ハ余等二名教員一行四名外ニ船員ノ上陸セシナレハ一時ハ  
宿泊スヘキ無ク番所ニ小憩シ十一時ヲ過ク番所駐在所等ノ厚意ニヨリ波平兼思  
方ニ投宿ス是ヨリ飯ヲ炊ク午前二時寢ニ就クモ床虫ニ整レ終夜眼ル能ハス該島  
ハ凡テ男女ヲ問ハス其款迎ノ情狀巡遊各所ト復カニ異ナリ言語通セサルモ郷里  
ニ居ルノ感想アリ

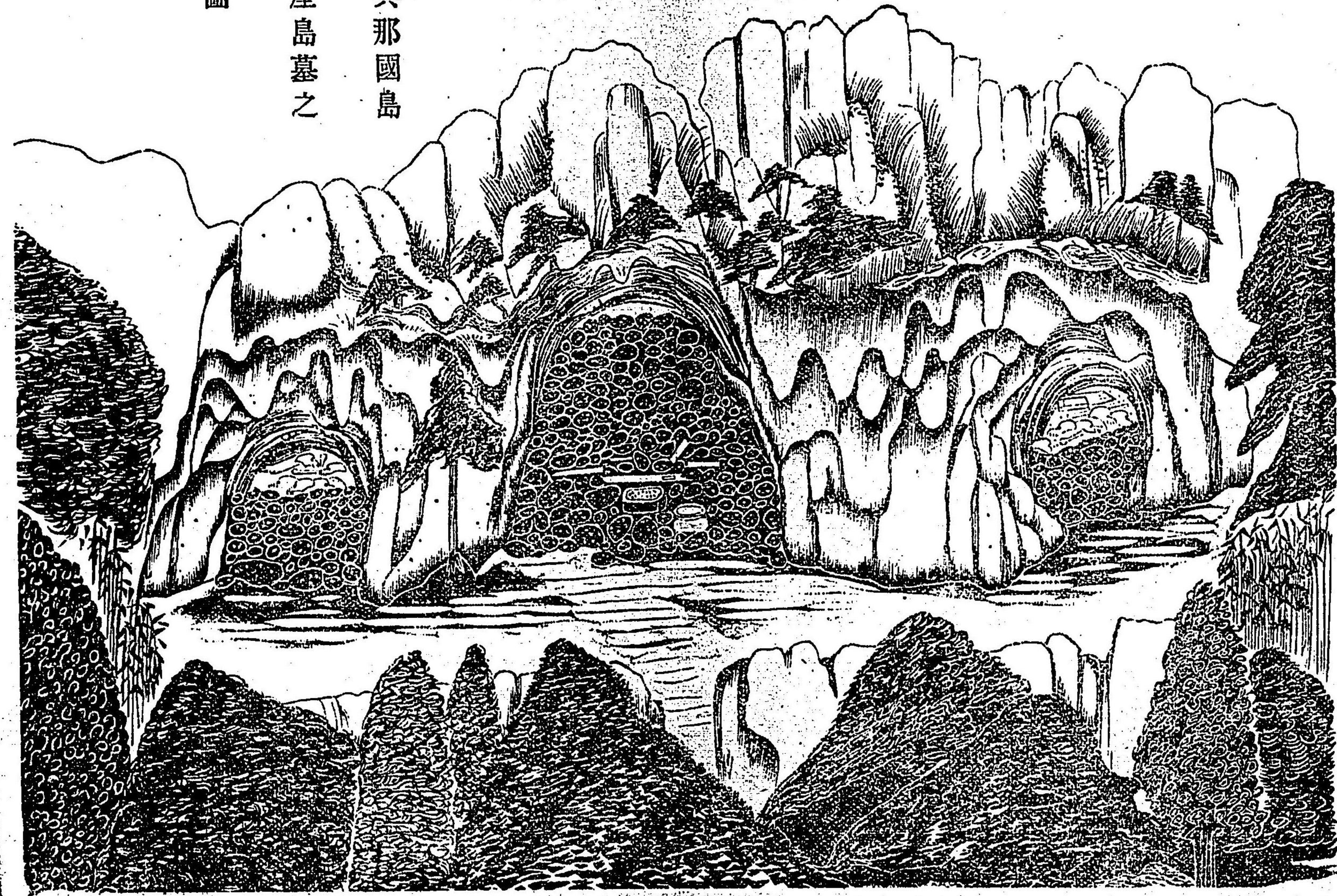
八月二日晴 九十度

午前十時出起八島墓大和森ヲ拜セント香花ヲ携ヘ村吏二名郷導者一名十一時字  
「アサマ」ニ至ル別紙繪圖ノ如ク山洞側面ニアリ位置ハ本村ヨリ南東二十余町往時  
源平ノ戦八島ニ敗シテ此地ニ遁ンタル人ノ墓ナリト嗚呼數千里ヲ隔テタル絶海  
ノ孤島ニシテシカモ風俗人情ノ殊ナルノミナラス言語不通ノ島ニ跡ヲ寄セ怨ヲ  
吞テ死セントハ覺ヘス涙襟ヲ濕シ謹テ香花ヲ奠シ祭文ヲ捧クテ吊意ヲ表ス

祭文

往昔源平雌雄ヲ八島ノ二戦ニ決ス不幸ニシテ平氏ノ總軍覆没シ殘余生存ノ徒

與那國島  
之墓屋圖





概節ナキ者捕獲降伏シ二君ニ仕ヘ源氏ノ臣妾奴僕トナル其慷慨忠義ノ志ヲ存  
スル士君子ハ遠シ海外南洋諸島ニ流寓シ俱ニ天ヲ戴カズ義源氏ノ粟ヲ食ハス  
遂ニ異俗ニ孤客不祠ノ鬼トナリ千載ノ下怨恨ヲ含メテ空シク地下ニ慨スルノ  
ミ予本島ヲ跋渉シ村民ヨリ千載傳ル所ノ口碑ヲ聞キ同感ノ情其地ヲ去ルニ忍  
ヒス爰ニ薄資ヲ奠シテ其忠義ノ神魂ヲ慰スト爾云フ

惟時

明治二十六年八月二日

青森縣弘前市士族

征 森 儀 助 印

壺ト棺ノ毀片各一個ヲ拾ヒ紀念トシ携ヘ歸ル

秋季風濤ノ虞アルヲ以テ明晩涼船拔錨歸航ノ都合申出アリ然レハ全島一周ノ志  
望ヲ達スル能ハサルモノトス寧ロ該嶋最高岳ニ登リ嶋勢ヲ一望シ直チニ南北ヲ  
中斷セント決ス海面ヲ抜ク凡ソ八百尺ノ於其武嶽ニ登リ俯瞰ス東ハ遙カニ西表  
嶋ヲ望ミ西ハ臺灣嶋ノ山岳ヲ煙波ノ際ニ彷彿ス是我カ帝國ト支那接壤ノ地ニ非  
スヤ午后二時岳ノ後面ヨリ直下ス嶋村ノ字「フイチ」ニ午飯ス則チ本村第一等ノ飲  
料泉ノ所在ナリ下流ヲ田原川ト云フ枝村嶋仲村ニ小憩ス茶及半熟ノ鶏卵ヲ饗セ  
ラル南海ノ鬚川枝村ニ至ル南北ノ海岸相距ルコト一里十町余該村ヨリ西海岸ヲ  
經テ「コナラ」牧場ヲ覽ル湖沼有リ周廻半里其西北岸ニ沿テ古昔租納村ノ舊跡ヲ  
見ル其東ニ沿テ古墳數十個アリ是總テ沖繩風ニアラスシテ他府縣僻村ノ墳墓  
ニ似タリ平地ヘ僅カニ石數個ヲ積ノミ山岳モ亦西表嶋ト殊ナリ大抵「コバ」木ヲ以  
テ全山ヲ蔽フハ奇ナリ午后七時三十分租納村宿所ニ歸ル本日跋渉凡ソ八里

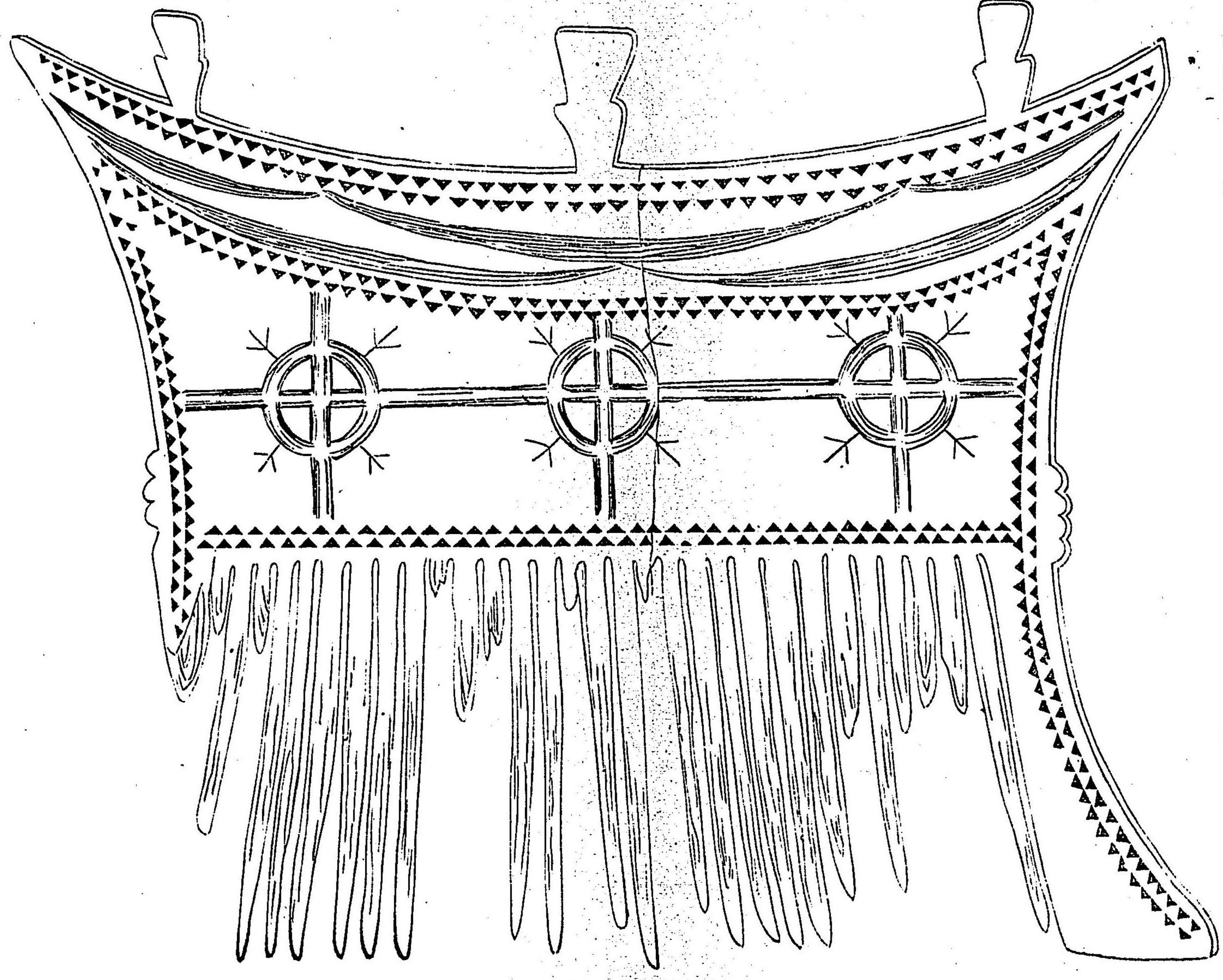
八月三日晴 八十八度

午前八時駐在所ニ至リ巡查某ニ面ス全條某小兒腦膜炎ニ罹リ危篤ノ故ヲ告グ且  
曰ク村吏ノ專横實ニ甚シ近日ノ事ナリ急ニ役所ニ達ト稱シ五六年以前ヨリノ公









與那國島鬚川村後間加禰所藏ノ櫛全形

後藤千代吉寫

與那國島ハ創世ノ事ハ得テ詳ニスヘカラス中世ニ至リ大和人ノ男女多ク漂着ス  
或ハ平氏ノ亡命ナリト爾後沖細諸島入重山人民來航移住シテ蕃殖スルニ至レリ  
大和人種ト唱ル十七家現存セリ入重山群島ノ中該島ニ限リ赤痢麻疹瘡疥等ノ流  
行古來ヨリ絶ヘテ無ト云フ故ニ人口ノ増殖二千人ニナシトス西表島五分一  
ノ小島ナルモ反テ人口西表島ノ上ニアリ  
本村位置ハ島ノ北岸「ナンタ」津口ニアリ親村ハ租納村ニシテ村番所駐在所アリ西  
ニ隣スルヲ兼久村ト云フ該海岸ヨリ二十町許南ナルヲ島仲村トス又其ノ南海岸  
二十町許ニシテ鬚川村ト稱スル有リ總テ四ヶ村一番所ニ統治ス鬚川村西端舊村  
趾字「コブラ」迄一里許是レ該島ノ西極端ナリ「コブラ」ヨリ租納村迄三里半「コブラ」及鬚  
川島仲ノ中間ニ原野多シ殊ニ舊村趾ハ現今放牧場トナルモ移民地ニ最モ適當ノ  
地ナリ土質赤黒ニシテ上層ハ砂地ナリ樹木各所ニ繁茂ス租納兼久兩村ノ南ニ泥  
沼アリ其下流兼久村中ヲ過キ海ニ入ル是熱病ノ原因タルヤ必セリ其沖細入重山  
諸島ト殊ナル点ヲ舉レハ左ニ  
一他府縣人ヲ權迎スルト愛嬌溢ル、如キノ風ハ甚々他ノ琉球人ト異ナリ小兒ヲ

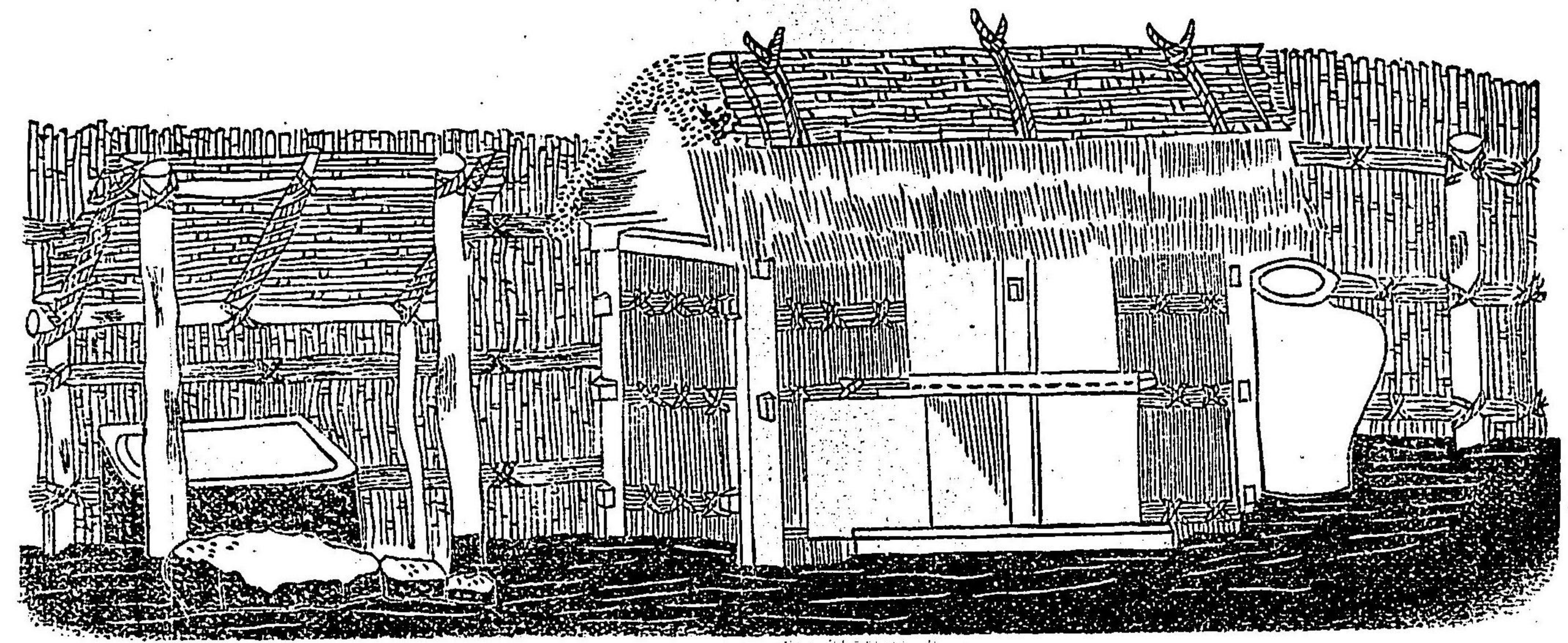
二百二十四

貨フヤ一種ノ太キ袋ノ底ナキニ入レ其兩端ヲ腋下ヨリ肩ヲニ掛ケ胸ニ結ヒ意  
 外ニ安全ナルモノナリ嘗テ航海中之レテ船長ノ話ニ聞ク與那國ハ百事宮古八  
 重山ト異ナル如シ祭事等ニテ數々島ノ重立タル人ノ饗應ヲ請クルニ十ヤ二十  
 ノ來客アルモ其食膳等ハ毫モ他府縣ニ殊ナラス汲物膳椀ヨリ食膳ニ至ル迄皆  
 他府縣器ヲ用ヒタルハ實ニ他地方ト異ナリ以テ該島ノ創開ハ日本人タルノ徵  
 證殊ニ著シトナス

一家屋ノ周圍ハ生垣或ハ竹柴等ヲ用ヒ他府縣村落ノ風ニ異ナラス

一 毎戸ニ其住所ヨリ一層鄭重ナル家禽室ヲ設ク恐クハ全國中ニモ一村舉テ養鷄  
 ニ注意スル如此ハアラサルヘシ但其鷄糞堆ヲ爲スモ是ヲ肥料ニ供スルヲ知ラ  
 ス其圖左ニ

與那國島  
 農家ノ鳥  
 小屋摸寫  
 間口一間  
 奥行二尺  
 五寸地面  
 ヨリ桁下  
 マテ三尺  
 五寸勾配  
 六寸



ニ結ヒ意  
事宮古八  
十ヤ二十  
至ル迄皆  
ハタルノ微  
舉テ養鶏  
ルヲ知ラ

與那國  
島概況

藤田名護病院長ノ統計ニ據ニ與那國嶋ノ私生兒最モ多キハ各群嶋ニ冠タリ其比  
例公生兒四十二對シテ私生兒二十一ニ及フ之レニ次クハ竹富嶋トス公生九十二  
對テ十四ニ至ル是一般一夫ニシテ二婦ヲ娶リ或ハ寄留人妾トナル者數多ナルニ  
因ルナルヘシ  
午后一時師範校教諭三木原廣介氏云フ吏員ノ紹介ナレハ民間ノ眞情ヲ窺フ能ハ  
ス是ヨリ地方人小學教員某ヲ通辨トシ村總代ヲ集テ質問シ民間ノ眞情ヲ究ムル  
ノ益アラント其厚意ニテ左ノ事ヲ得タリ  
問フ公費未納高如何  
村總代答正男四百三十二名ニシテ二人ニ付七俵位アリ右ハ本年期ニ上納スヘ  
キ分  
此未納ハ如何ノ事情ヨリ起リタルカ  
答四五年以前ノ不作ト貢米積欠ニ艘沈没トノ二途ヨリ來ル凡ソ七百石位アリ内  
本納期ニ三百五十石位上納スシハ新貢租ヲ收ムルノ余地ナシ然レハ本年ノ貢租  
民費又々未納トナルン姿也

問 田畑ノ有反別ハ如何

答 水田七百反位内三分ノ二ハ天水ヲ目當ニ耕作ス故ニ旱魃ニハ皆無トス是レ能ク實況ヲ盡セル話ナリ

畑ハ九百反位

問 村民一戸ノ持反別高如何

答 一戸平均田四反四畝二十五步畑五反八畝步位

問 新ニ田畑ヲ開クヘキ段別如何

答 田ハ天水ヲ頼ム故ヘ水ノ不足ノ爲他ノ増開スヘキ無シ畑ハ三百反モアルヘキモ惡地ニシテ夫力ノ費ヲ償フニ足ラス

問 フ島中港灣幾個所アルヤ

答 一島ノ北ニアルヲ「ナンタ津口」津口ハト云ヒ北東ヲ大泊津口南東ヲ「アラカ津口」西南ヲ「コブラ津口」正南ヲ「タノマ津口」ト稱ス

何レノ津口モ從來小船ノ入津ニ過キス涼船ノ如キハ假令風濤ヲ避ントスルモ得ヘカラサル也曩ニ清佛戰爭ノ際佛艦鬚川村ノ沖ニ碇泊シ修繕セルモ上陸セス支

那艦モ其后ニ來リ薪水ヲ取リシモ亦碇泊セス

又曰ク代村總貢租民費不納ノ多キハ一戸ニシテ六十俵ノ巨額ニ上ルアリ少ナキモ十俵ニ下ラスト

又曰フ今ノ村吏與人ハ六十餘歳本年六月來島職務ヲ執レリ教諭一行ノ宿所ニ年齡十七才ノ美少女アリ該村吏強談シテ妾ニ爲セリ一旦妾トナリシ以上ハ村吏ノ石垣親族替々來リテ貸借センテ請フ故少女ハ拒絕シテ妾トナルヲ不欲ト嘆クモ兩親ヲ威赫シテ率ヒ去レリト云フ役所ヨリ賄女廢止ノ達シアルモ其舊慣ニ關スル者多クハ空文ニ屬スル此類ナリ

又曰ク本年四月以來舊慣改正ノ達ハ村吏ニ不利益ナルヘキモ平民一統ハ何レモ悦ビ居レリ

又曰ク從來ハ簡易學科ナリシニ本年五月ヨリ尋常科ニ改正シタルハ是亦父兄大ニ悦ヘリ

問 フ我等來島ニ就キ人民ノ感想如何ナルヤ  
答 此度ニ限ラス他府縣人來レハ人民安心スル方ナリ如何トナンノ其人ノ如何ニ

係ハラス村吏恐レテ強暴自然ニ減スレハナリ問フ然ラハ他府縣人來住シテ原野  
ヲ開墾シテハ如何答此ノ儀ハ好マス牛馬放牧ト家屋用萱蒭取ノ便ヲ失ヘハナリ  
再ビ番所ニ至リ若否ヤ個條ヲ以テ質問ノ督促ニ及フ

一總戶數三百八十内一戶士族

一人口二千二百二十内男千八十四人

八重山役所昨二十五年十二月三十一日ノ調ニ據レハ戶數人口左記ノ如シ何レカ  
眞ナルヲ知ラスト雖モ各村駐在所巡查ノ言ニ據レハ毎々駐在所ノ調ト役所員ノ  
調ト阻礙シ決シテ符合スルモノナシト故ニ戶籍調ハ駐在所ニ委任スル方適切ナ  
リト其言眞ニ然ルヲ信セリ依テ此ニ舉テ役所番所ノ差ヲ示ス

明治二十五年十二月三十一日調

戶數三百七十九

人口二千百〇二内男一千〇七十八人

又明治五年ノ調ニ據レハ

戶數三百六十七滿十五年間ニ人口一千三百廿七内男六百七十五人滿十五年間ニ増人

口ノ増殖八重山群島第一位ニ居ル

一山林三ヶ所反別千百六十六町步

一叢山四町五反步

一田百九十九町七反十四步

一畑二百六十六町三反十一步五厘

一原野十町七反

一牧場六十八町步

一牛馬七百二十三頭内牧馬三百三十頭牝馬二百三十二頭牝牛三百八十八頭騾馬七十七頭

一豚五百一十一頭

一山羊二百八十八頭

一鶏二千六百八十羽

物産

海産ハ二種ノミ

一海人草三百斤此見積代金十五圓



一 鯖ノヒリ三百斤全四十五圓

陸産

一 米千三百石

全六千五百圓

一 粟五百七石

全二千二百八十一圓五十錢

一 豆三十八石

全百九十圓

一 麥三十七石

全百八十五圓

一 胡麻十九石

全九十五圓

一 黍十一石四斗

全五十一圓三十錢

一 高粱二十石

全七十圓

一 青豆十二石

全五十四圓

一 赤豆十二石

全六十圓

一 本棉花二百斤

全二十圓

一 唐アイ四百斤

全四十圓

一 眞芋百斤

全七十圓

一 砂糖五百五十斤

全五十五圓

一 唐芋二百八十方斤

全一万五千圓

合金二万四千七百三十一圓八十錢

外ニ

上納反布四百九十八反

支那及臺灣へ行キタル有無ノ質問ニ

當村二百八十二番地 前幸地石戸

嘉永六丑年八重山嶋ヨリ歸帆ノ際支那へ漂流シ翌々卯年歸宅

全百二十四番地慶田本加ぬ姉「マナサ」

全二百五十五番地西銘津久利二女「ニヤマ」

明治十五年午本嶋ヨリ八重山嶋へ向ク出帆ノ際支那へ漂流翌々申年歸宅

一 臺灣鷄籠へ漂流シタルコトナシ

往昔臺灣人該島へ渡リ男女ヲ生捕リ食ヘリトノ言傳ニテ今年一回某ノ祭神

ニ火ク三尺余ノ大草鞋ヲ造リ臺灣島へノ風向ヲ待テ流スノ習慣アリ之レ其食

人ノ來ルヲ恐レ豫メ長人アルトノ慮威ヲ示スニ出テタリト云フ  
外國船到來有無ノ問ニ

明治七年到來出帆以後ハ來着一切無之

一 總テ諸上納穀物ヲ除キ賣却スル殘物凡ソ三百四十二石也

一 他府縣ヨリ寄留戸數入口數十七内男十二人 女五人

一 現在改メ貯穀高七百四十五石九斗四升四合五夕本項八重山役所調ニ據ル

一 與那國全島周廻四里二十五町二十間是慶長年間鹿兒島檢地ニ基クナルヘシ

縣廳二十三年ノ調査ハ周圍七里トス余カ調査ヨリ考フレハ周圍九里以上アルハ斷シテ疑ハス

一 官民費ノ俸給ヲ受クルハ全島村役人三十六名

一 現在公費未納調ハ正確ノ帳記ナク五年以前ニ遡リ取調ントスルハ數十日ヲ要セサレハ成リ難シト本件ト現在貯蓄ハ只喃々其不能ヲ陳謝スルノミ

右明治二十六年八月與那國島諸與人崎山用英ノ答フル所トス

按スルニ該島與人三十余人ノ村吏ヲ率ヒテ一方ニハ未納公賣ノ騒キヲ醸シナカ

ラ其調タル二日間ニシテ答フル能ハス僅ニ二百十戸ノ未納ナレハ此屬吏ニシテ毎戸ニ臨査スルモ爲シ難キニアラス實ニ緩慢驚キ入りタル始末ニアラスヤ  
藝キニ八重山役所ニ就テ本年ノ未納ヲ調ヘタルニ實ニ左ノ如シ

一 與那國島貢租民費負債高

貢租 未納ナシ

民費 二百八十八石三斗四升八合一夕六才

貯蓄 五百四十一石七斗二升六合二夕四才

其他人民貸與等未納 九十三石三斗一升六合四夕七才

合計九百二十三石三斗九升八夕七才

右明治二十二年ヨリ全二十五年迄ノ未納高

按スルニ此未納穀一戸平均二石四斗三升ニ當ル而シテ島民一人トシテ其數ヲ知ル者ナシ村吏尙ホ知ラス况ンヤ其他ヲ早ク之レカ所置ヲ爲サスハ恐ク

ハ鹿兒島縣大島郡ノ負債覆轍ニ陥ランコト照々トシテ明カナリ當局者ノ一考

ヲ煩ハス

與那國島共有定數船現在調  
傳馬船二艘列船二艘

與那國島ニ結繩ノ外ニ符號ノ象形文字アリ下等人民ハ結繩ノミヲ以テ通用シ上  
等社會ハ今ニ象形符號ヲ用ルヲ見タリ其字形ハ別ニ八重山總記ニ掲載ス故ニ爰  
ニ略ス

紀念トシテ巡查某ト鹿兒島商人川崎某ノ紹介ニテ石ノ曲玉ニクヲ買フ午後七時  
船長來訪ス今夜拔錨致度ニ付上船ヲ請フ故ハ御存ノ通り船ハ陸地ヲ距ル二海里  
餘ノ大洋ニ泊シ小風波ニモ少シノ碇泊所ナキ爲メ船浮港四十三海里ノ遠キニ避  
クサルヲ得スト

午後九時後藤氏及余教諭三木原乘船ス全十一時三十分拔錨

八月四日晴 八十九度

午前十時石垣港碇泊與那國ヨリ石垣港直所長代理嶺岸氏以下出テ迎フ直チニ役所  
航凡七十海里ト云フ及警察署ニ至リ是迄ノ厚意ヲ謝ス余カ方言トゴ虫ニ整シタル足脛ノ痛漸ヤク大  
ナリ午後五時四ヶ村ノ豊年祭ヲ新川村眞乙姥社前ニ教員一行ト見物ス每村各二

個ノ山ヲ昇出シ台上ニ假面人ヲ乗セ天神ヨリ五穀ヲ賜フニ擬ス古式風韻ノ高雅  
ナル一見欽望ニ堪ヘタリ其他鐘鐃鉦鼓綱引等アリ小男女對ノ衣服白赤ノ鉢巻太  
鼓ドラノ囃子總テ古風ナリ余等一行藏元ノ御用機數ニ上ル村吏ヨリ茶菓酒肴ノ  
饗應アリ村吏ハ年齡五十七八才計リ身体不仁ノ病ニテ數年ヲ經ルト云フモ矢張  
リ名斗リノ村吏ニテ臥シテ俸給ヲ受ルノミ余等一行ニ禮辭スルモ奴僕ノカタニ  
寄リテ漸ヤクノコト也何ソ事務ヲ所辨スルヲ得ンヤ

午後七時三十分歸舍ス主人又祭事ノ饗應アリ豚肉及豆腐午勞ノ煮メニ豚脂ヲ灌  
キタルモノ一口スレハ胸界甚惡シク喉ニ下ラス是レテ土人等ノ珍膳ト爲ス

八月五日晴 八十八度六分

感冒終日臥蓐セリ

八月六日晴 八十八度四分

猶病ニ臥セリ瑞忠雄來訪東京府  
士族元縣屬ニテ國文ヲ能クス全氏曰フ沖繩人ニシテ  
後來方向ヲ誤マラゾコトヲ恐ル者ハ決テ頑固黨ニアラス當時ノ生開化養生連  
ニアルヤ必セリ今ヤ此開化養生ノ中頑固黨ノ耳目トナリ縣廳役人ナトニナルモ

ノマ、アリ其忠ヲ未然ニ察スルヤ丸岡知事ノ時沖細教育ノ度合ハ智育ヲ先ニシテ愛國忠君ノ説ハ唱ルノ度ニ至ラスト味アル言ト云フ可シ是今日ヨリ注意スヘキノ要点ト思考セリ

或人曰忠君愛國ノ説ヲ唱ヘストハ是果シテ何ノ心ソヤ教育ハ何ノ爲メソ尙モ忠君愛國ノ道ヲ講セシテ善ニ導カント欲スルモ豈得ヘクンヤ

但忠君愛國ヲシテ一朝其指點ヲ誤ラシメハ遂ニ脚徹ヲ學フニ至ルヘシ是最モ注意ヲ要スルノ點ナリトス獨リ沖細ノミナラス全國子弟ノ教育ハ忠君トハ如何ナル者ソ愛國トハ如何ナル者ナルカ其君國ノ所在ヲ知ラシメ其方向ヲ誤ラサラシムルニ在リ然ルニ之ヲ恐レテ其道ヲ講セサルハ猶火災ヲ恐レテ火ヲ禁スルト何ソ異ナラシ難カ其愚ヲ晒ハサラン乎知事ノ言トシテ甚タ信ス可ラス之ヲ贊スル者ニ至テハ沙汰ノ限リト云フヘシ

瑞氏又曰先島改正第一ハ藏元吏員ノ改正ナリ當士族ニモ俸給ニ換ユヘキノ資金ヲ興ヘ産業ニ就カシメサレハ其完全ナル改正ヲ見ル能ハサルヘシ第二ハ地租ノ改正トス今日憲法ノ下タニ生息スル人民ニシテ分頭税ノ爲メ他村ヘ移住ノ束縛

官吏西  
表島ヲ  
巡視ス  
ル者稱

ヲ受ク豈ニカクノ如キ非道一日モ除カスシテ可ナランヤ人民從來壓制ノ下ニ生息スルヲ以テ今ハ無事ナルモ其發動スル時節到來モ遠キニアラサルヘシ其機ニ先ツテ之ヲ疎通スルハ最モ當局者ノ尊ヲ所ナリ猶左ノ四件ヲ説キ出セリ

一從來政府モ縣廳モ大概國境ナル八重山地方ニ關シテ甚冷淡ナリ爾后カクノ如クニテ國權ヲ誤ルコトナキカ

一今ノ長官ハ鹿兒島藩ナレトモ凡情脱却シテ偏僻スルノ患ヒナシ且ツ昨年以來先島改正ニ關シテ若々歩ヲ進メ人民モ望ヲ屬セリ從來鹿兒島人ナレハ表面上舊來ノ交宜モアリ都合宜シキ様ナレトモ返テ色々ノ事情ニ纏綿セラレ然ルヘカラスト思考セリ今長官ヲ除ク外通常人ナレハ多クハ元ノ屬國ト云フ思想ニテ知ラスノ人民ヲ奴隸視スルノ弊アリト

一琉球ノ行政上嚴正以テ壓制スルハ能ク行レ自由温言以テ撫スレハ俗ニ所謂付ケ上ルノ風アリ緩急宜キヲ得ルハ施政上ノ要訣トス

一從來官史ノ巡廻ニ舟浮港ヘ碇泊スルモ風土病ヲ恐レテ西表島ヘ上陸スル者希ナリ唯與那國島ヘ渡リ少婦ノ躍ヲ物見スルヲ一ノ樂トスル有様ナリ

午後十二時大有九拔鐘響キニ那覇ヨリ全船セル黒岩三木原山城ノ三教師内黒岩ニ教師風土及ヒ商船會社ノ視察員二名モ皆此便船ニテ歸應ス殘ルハ余一人ニシテ且ツ足部ノ腫痛感胃ノ爲メ恰ノ寝衣マ、ニテ諸子ヲ見送レリ諸子皆指シテ風土病ニ罹レリトスルニ似タリ

八月七日雨 八十八度八分

役所警察署藏元ニ至リ諸調ノ打合ヲナス崎山醫師ニ就テ診察ヲ請ヒ是ヨリ毎朝夕海水浴ス

全醫云フ當地ノ土人ト他府縣人トノ小兒生育ヲ比較スルニ他府縣人ノ小兒腦膜炎ニ罹ルハ土人ノ小兒ヨリ多シ此風土ニ慣レサルト小兒ハ海弱ナルニ依ナルヘシ八月八日雨 七十九度六分

中川ノ代理久保氏ヲ訪ヒ同氏ニ隨ヒ石垣村ノ舊家仲宗根豊見親ノ子孫某氏ノ宅ニ至リ其家係ヲ一見ス明應十三年八重山赤蜂ノ亂忠勤ヲ以テ該島ノ頭職ニ奉セラルトコレ頭職ヲ置クノ始メ其妹眞乙娃及平得村ノ多田屋オナリ王師ノ歸國平安ヲ祈リシ功ヲ以テ眞乙娃ハ「エライカキ」ト云フ神人トセラレオナリ「大阿母職ニ

任セラレ爾來其職ニアリ八重山婦人官給ヲ得テ神職ニ任スルハ爰ニ始マル爾來子孫歷代頭職ヲ務メ四ヶ村ニ冠タル舊門閥家ナリ又右戰爭ノ時王事ニ勤勞セル者總テ士族ニ列セラレ爾來各種ノ特權ヲ有シ又賊赤蜂ニ屬シテ降參セル子孫世々平民トセラレ士族ノ字因テ以テ偶セラレ其苦使スル處トナリ爾來士族平民ノ懸隔ハ他府縣ノ比ニアラス舊時ノ穢多非人ト士族トノ差アル如シ其始メヨリ村吏士族ヲ以テ島民ヲ治ルニ非ラスシテ其實十分島民ヲ臣妾視シ村吏士族ヲ養フニ過キス故ニ無知文盲或ハ癡疾ノ人ト雖トモ職ニ居テ疑ハス假令土人未開ナリト雖トモ此習慣ナクンハ何ソ今日ノ常態アルノ理アラシヤ  
午後醫師村部源治ニ足部ノ治療ヲ請フ余足脛一種ノ皮膚病トナリ樽ノ如ク腫大トナル油藥ヲ附ク細帶ヲ用ヒテ僅ニ兩便ニ行ヲ得ノミ  
全醫又曰ク風土病毒ヲ滅殺スルニハ先ツ森林ヲ伐リ倒シ杉松等ノ氣發樹ヲ植レハ幾分カ病毒ヲ滅スルヲ得ヘシ尙ホ余出起テ期シ該病毒驅除方法ヲ一書ト成シ進呈スヘシト約シ歸ル  
後三時嶺岸役所長代理來訪ス話次九一商店ニ及フ九一本店ハ那覇市街ニアリ各地

ノ支店ヲ統轄ス。藩治ノ時ヨリ尙家ニテ資金ヲ投シ宮古八重山石垣へ仕繰座ト  
 又仕送座共云フ。遠島備用ノ物品欠乏ヲ救ヒ島民ノ供給ニ便ヲ與フルヲ名ト唱へ其支店  
 ス其實有掛員七八割ノ福利ヲ食リ積チ肥シ尙家ニ益ナク島民重税ノ思アリト唱へ其支店  
 トシテ當地ニ九一支店アリ各村ニハ支店ノ出張所ヲ設ク其設クナキハ番所村長  
 ニ其事務ヲ委託シ尙家ノ物品ヲ賣買ス宛モ安石ノ青苗ト異ナルナシ是ヨリ先キ  
 當地ノ支店吏員ハ勤功ノ一トシ勤メ年數ニ加算シ特ニ榮轉セシムルノ制ナリ近  
 時役所ニテ其宿弊ヲ看破シ右等ノ特典ヲ廢セシヨリ尙家ニモ關係スルナシト表  
 而上ハ唱フントモ其實依然トシテ舊慣ヲ事トスルハ其實否果シテ信シ難シ又首  
 里ニ毎年頭役必ス出頭シ貢納以下ノ諸用ヲ辨スルヲ名トスルモ其實多クハ尙家  
 ノ用事ニ奔走スル形跡アリ依テ昨今以來頭ノ首里行キテ廢止シ今年ヨリ首里大  
 屋子筆者ノミ詣居ルナリ是等モ半官半私ノ姿ナリ  
 又曰ク過日御覽ノ登野城村字推名原首里士族開墾也世ニ尙家ノ開墾ト唱フモノ  
 其原由ヲ探ルニ昨春當地ノ頭首里へ出テ八重山地方へ他府縣人入込ノ形勢ニ付  
 之ヲ防害スルモ土人ニテハ叶ヒ難キ考ヨリ尙家ノ家令扶ニ八重山開墾ノ利ヲ説  
 キ且ツ移住ノ士族ニハ島民ニテ家屋及食物ノ如畑等ハ新墾へ種ヲ植付ク万事差

支ナキ様可致トノ週旋セシニ始マレリ元該地所ハ四ヶ村ノ牧場ニシテ先年四ヶ  
 村ノ人民開墾願出タルモ牧場ヲ名トシ許サス其願人ヲ遠ク名藏村地内へ開墾セ  
 シメタルヲ以テ今ハ廢止ノ姿トナレリ今ノ中川開墾ハ其遺跡ナリ推名原ハ元來  
 村民一統ノ望ノ地所ナルモ牧場ノ故ヲ以テ許サスシテ反テ頭ノ獨斷ヲ以テ之ヲ  
 尙家ニ持込ハ未開人ト雖トモ不平ノ一因ナリ  
 右ノ如ク頭ヨリ持出ノ開墾地へ士族百名斗リ移住スル前筋ニ各戸ニ賦課シ其家  
 屋建築及食糶畑等ヲ開墾セシメ其代金ヲ一錢モ與ヘサルヨリ苦情起リ後ニハ役  
 所員ノ耳ニモ入り取調タルニ右ノ勞力人夫ハ其賃金ヲ株金ニ結ヒ一ノ社トナシ  
 利益アレハ分配スルトノ申開一理アルニ似タルモ是迄常ニ平民ニ對シテハカク  
 ノ如キ甘言ヲ設ク平民ヲ虐使スルノ習ヒニシテ且ツ士族輩ノ開墾ニテカク分配  
 ノ利益アルヘキ經驗ハ從來決シテコレ無キ所ヨリ村民一向頭ノ言ヲ信セス村民  
 却テ他府縣人ノ移住者久保氏等ニ願ヒ該人夫賃請求ヲ頼ムコト數々ナリ是不平  
 ノ二因ナリト云フ

八月九日風雨

七十七度四分

二十五年十二月三十一日役所ノ調査ニ據レハ左ニ

八重山戸籍

士族戸主九百七十六

此家族四千七百九十六人

平民戸主千八百九十三

此家族壹万〇三百四十三人

士族平民合計戸數三千八百六十六

該年度産兒公生二百八十八人

右ノ粒々辛苦ノ平民ヲ以テ此無用ナル士族ヲ奉養ス是宮古八重山兩先島ノ一

大奇觀ナリ

八月十日風雨

八十七度

松村仁之助鹿兒島縣商人十來訪ス話次與那國負債及ヒ該島情況ヲ話ス余怪ミ問フ何ヲ以テ能ク仔細ニスルヤ答商用ニテ數々該島ニ渡リ且ツ妻ハ同島ノ者ナリ全氏曰ク該島租稅未納ハ即今ノ内ニ五ヶ年賦位ニ上納致サセスンテ此マヽニ放

棄スル時ハ遂ニ大島ノ如キ救フ可ラサルニ陥ラン獨リ公費ノミナラス商人ヨリノ負債モ亦少ナカラス本年ハ豊作ノ爲メ大半取立濟トナリタルモ尙ホ二百石以上ノ負債ハ殘レリト該島へ商人ヨリノ仕送りハ物品代價一ヶ年据置キ勘定ノ時ハ米一俵三斗入ニ對シ利子米一斗五升ヲ附シテ請取ハ八重群島ノ取引習慣ナリ高利ナル實ニ驚クヘシ尙家ノ九一出店ノ事態ヲ問フ答八重山地方ニテ即今ノ資金ハ二千圓位ノ仕入ニテ一ヶ年平均入割位ニ物品貸附ス其取立ハ秘密ニテ各村番所ニ賃租全様ノ手續ヲ以テセリ其物品ハ士族盡義務ニテ送届ヲ爲ス誠ニ我々ヨリ見レハ不可思議ナリ此支店長及尙家開墾社長某ノ如キハ内實平民ニ對シ剛愎鄭重ナル役所長位ノ比肩スヘキニアラサル威風アリ頭以下吏員ヲ呼流ニスル等實ニ驚キ入りタル次第ナリ是等重立タル琉球人士ノ窮カニ島民ニ向テ揚言シテ曰ク今ハ日本政治ニ支配セラル、モ支那軍艦來レハ日本官吏ヲ逐拂ヒ再ヒ尙家ノ舊政ニ復ス依テ商店ノ爲メ尙家へ忠勤ヲ盡セハ後日職元役員等ニ取立ル杯恩威并示スノ有様ナ

又曰尙家ノ九一支店ハ一ニ御救助法共唱ヘ名ハ則チ美ナリト雖トモ今日ニア  
リテハ暴政ノアリサマ也追々他府縣商人モ入込ムト人民モ知ラスノ間ニ自  
由ノ傾キヲ生スル故今ノ儘ニテ永續ハ如何ト思ハル

又曰尙家ノ開墾ハ無代價ニテ平民ヲ使役スル故役所警察署ニ其不當ヲ談スレ  
ハ會社ニテ利益アレンハ其利益ノ内ヨリ配當スルヲ以テ無賃ナリト言葉ヲ設ク遊  
ル、由然トモ人民ハ之ヲ指シテ尙家ノ開墾ハ八重山人民ノ血ヲ吸ト云フ

八月十一日晴 八十八度六分

予カ足腫起シテ癒ヘス

八重山三病院廢止ハ明治二十三年十二月今ノ所長赴任前經費節減ノ爲メ宮古  
島役所長ニテ兼務ノ際八重山ノ病院ヲ廢止セリ一ケ年ノ病院經費金千七百〇四  
圓二十五錢<sup>年度</sup>全二十三年度經費金千四百五十七圓ニ減シ病院ヲ廢シ一時差  
岡アルヲ以テ學術上八重山熱病研究ノ名ヲ以テ醫師四名派出治療セシメ月手當  
トシテ一名ハ金二十五圓一名ハ十五圓二名ハ十圓トシテ三名ハ石垣ニアリテ各

島ヲ分擔シ特ニ與那國ヘハ一名ヲ派出セシム役所衛生掛ノ云フカ如クナレハ病  
院ナキモ差支ヘナキ様ナレトモ實際有病地村落ヲ踏査スレハ一ケ年僅ニ一度位  
ノ醫師ノ廻村ニテ何ノ効用モナシ有レトモ無キカ如ク如斯ク地方吏員ノ無情ナ  
ルハ大喝シテ責メサルヲ得ス殊ニ此困窮民ヨリ衛生費ヲ徴ストハ誰カ其慘狀ヲ  
憫マサル者アラヤ

八月十二日晴 八十九度

海水浴途次川崎商店ニ就キ物價ヲ問フ

内地白米一升小賣 金十錢

全醬油一合 金一錢四厘

上等三ツ石昆布一斤 金五錢

藤野鯨鰯詰一ケ 金十八錢

ビール一本 金二十五錢

コンテンスミルク一罐 金二十五錢

午前九時出起余足痛ノ爲メ荷鞍馬ニ乘リ石垣島ノ南ヨリ東ニ向ヘリ全行ハ八重



山警察署詰巡査北川涉吉氏ナリ四個村役所元ヲ距ル十五町眞榮里村ハ南海濱ニ沿フテ村落ヲナス戸數四十五人口二百十七其上方ニ平得村アリ戸數百二十四人口六百二十九是ヨリ海岸ヲ行シ凡二十五町ニシテ大濱村アリ戸數四十一人口百十八是ヨリ三十四丁三十間ニシテ宮真村アリ前數町ニ該島一ノ大河宮真川アリ渡リテ村ニ入ル鹿兒島縣人前田次兵衛開墾地アリ甘蔗三町歩位野火ノ爲メニ燒失セリ是ハ元柳元平兵衛ノ跡ヲ引請ク支配セリト云フ生憎不在而會ヲ得サルハ遺憾ナリ宮真村ハ戸數七十九人口四百九十六 現今去ル百二十八年前大津 田畑反別牛馬等ノ事ハ別ニ役所ニテ調タル詳細ノ統計アルヲ以テ爰ニ畧ス是ヨリ二十一町ニシテ午後二時白保村番所ニ若ス戸數九十七人口五百八

四ヶ村ヨリ眞榮里平得大濱 該村ノ如キハ人口増殖シ宮真ニ村落アルヲ以テ風土病發生流行シ人煙ヲ密ス毎歲死亡多キヲ以テ今ノ白保ノ五ヶ村ハ四ヶ村ト全シシ該島ノ無病地ニシテ何レモ南ニ海濱ヲ抱キ北ハ一里余ノ大原野ヲ隔テ、高岳トナリ四方空漠空氣ノ流通ナリ日光ノ受クナリ皆其宜ニ適シ加フルニ水田卑濕ノ地人家ヲ離ル、コト遠キヨリ土地能ク乾燥、土質赤黒ニシテ上層砂礫トス無病地ナルモ又

故アルナリ

白保ハ石垣四ヶ村ヨリ凡ソ三里村番所ノ結構ハ該島第一ニシテ川平番所之レニ次ク故ニ從來縣官吏ノ入重山巡廻ハ北ハ川平村東ハ白保村ヲ以テ限リトス是ヨリ以東北ハ皆風土病ノ巢窟ナルヲ以テ行シモノ實ニ稀レナリト云フコレヨリ東北各村ヘハ醫師十月風土病ノ減スル頃種痘ノ爲メ一回巡廻スル位ニ過キスト官吏モ亦タ氣樂ナラスヤ

常番所詰筆者土人士族大濱用知全宮真直温能ク事理ヲ辨セルヲ以テ地方ノ情ヲ問フ左ニ

問フ舊藩時代ト現今ト貢租民費負擔額ノ輕重如何  
 兩人殆ト其答ヲ失セリ何トナンハ平民負擔輕クレハ士族吏員懷ロ冷レハナリ曰ク退テ帳簿ヲ檢スルモ比較ノ取ルヘキモノナシト余云フ然ラハ何年度ニ限ラス其ノ測ヘキモノ有ラハ示サレノトト是レ望ム乃チ左ノ調査ヲ提出セリ

明治十七年度上男一人負擔高  
 一米一石八斗五升四夕

全二十五年全上

一米一石七斗六合四夕六才

差引一斗四升三合九夕四才ノ減額トナル

右之通御座候也

八月十二日

兩筆者連印

按スルニ是ノ事小ナル如シト雖トモ實ニ全島民力休養ノ大体ニ關ス然シテ土人  
士族吏員ノ最モ云フテ好マサル處ナリ一人ノ榮ル利カクノ如キモ之ヲ一村ノ丁  
男女ニ常レハ大數ノ減額躍如タルナリ是八重山役所員精勵ノ致ス處當局獎勵ヲ  
用ユヘキノ一大美事ナリト云フヘシ  
問水田一反歩ノ収穫如何答本年ハ平均七斗ニ當ル  
又云フ一「カヤ」敷ハ三反三畝十歩アリ上作ニハ十俵三斗平作ニハ八俵ノ収獲米ナリ  
明キ屋敷ノ調テ問フ答本村ヨリ十五町計リ原野ヲ登レハ眞謝村舊村跡アリ凡五  
十戸斗リト見ユ又當村内ニ四十九ヶ所合シテ九十九ヶ所アリ  
問牧場及放牧牛馬ノ數如何

答牧場反別百八十四町二反九畝二歩

放牧牛馬馬九十五疋

繫牛馬牛百二十三疋

按スルニ各村トモ牛馬少ナキニモ係ハラス村ノ願ハ藏元ノ許可ニテ官有原  
野へ勝手ニ牧場地ヲ廣ク村ノ共有牧場地ト唱へ其實他府縣人移住開墾ヲ拒  
絶スルニ備フト云フ其反別ノ廣キ沖繩地方ノ耕地タモ猶ホ一倍餘ニ登ルヘ  
シ況ンヤ先キ島原野ヲヤ故ニ少ナクモ其反別一倍餘ト知ルヘシ各村モ全樣  
ニ付以下之ヲ畧ス

問甘蔗反別産額試驗成蹟如何

答甘蔗植付八反四畝

産額千五百三十六斤

問二十五年度村費決算額

答  
一米二石三斗也

内

一斗五升諸作毛之爲メ二月願ノ時諸雜費

一斗五升家内々々火災無之様十月願之時右同斷  
一石二斗番所筆紙其外諸雜費

八年六月穗利並村民中身上其他諸祈願之時右同斷

ノ二石三斗

一八夫二百二十九人

内

八十人貢納布職壹家並干晒洗濯家作壹夫

五十人番所非堀調夫

六十九人嘉手前御嶽修補夫

三十人猪垣修補夫

ノ二百二十九人

右之通

一全夜古老ヲ集メテ風土病ノ談ヲ聞ク皆云フ大倭ノ醫師學問上ヨリ種々唱フレ

トモソレハ解スヘカラス然レトモ風土病ノアル土地ニ至レハ其人家ニ泊スル

ト山野ニ泊スルトニ別ナク味爽ニ及ヘハ必ス下腹膨脹ス故ニ濕氣ヨリ原因ス  
ト經驗ノ久シキ私共一宿スレハ其徴候ヲ感知スルナリ是ヨリ東北ノ各村ハ  
皆人々ノ恐ル、有病地ナリ現ニ盛山村ノ如キ地勢東北ニ開ケ丘岡ニ人家ヲ散  
ク空氣ノ流通宜シキ故無病地ノ如クナレトモ人口日ヲ退ヒ減少スルヲ見レハ  
空氣ニモアラス飲水ニモアラスト信セリ總テ有病地ノ人ハ生水ヲ飲マス必ス  
一度沸騰シテ後用ルノ習慣ナルモ其毒ヲ免ル、能ハス然レハ土地ニ病源アル  
ト信スルナリ

八月十三日雨

八十九度

午前八時三十分白保村番所出起三十三町四十間ニシテ盛山村番所ニ至ル島ノ北  
東稍平坦ノ丘ニ位ス海面ヨリ高キコト十余丈東ハ斜傾ノ原野ヲ經テ海ニ至ル十  
町余南ハ高野ノ畑ニシテ東南ハ下濕ノ地トス牧馬水田等多シ又南ノ方村ヲ去ル  
コト數町ニシテ藤川アリ其源ハ島ノ最高オモト岳ノ谿間及沼澤ヨリ發シ村ノ南  
ヲ經テ南海ニ注ク土民此川ニ浴スレハ必ス風土病ニ罹ルト云フ有病地ノ常トシ  
テ水濁色ヲ呈シ西ハ許多ノ水田泥澤原野交錯シテオモト岳山脈ニ達スルコト一

有戶病  
口減地  
況退ノ情

二百五十二  
里余北ハ廣漠タル高丘ナリ地質ハ赤土ニシテ村内樹木繁茂セスト雖トモ東邊ハ陰鬱タル森林ヲ見ル舊村跡ハ村ヨリ東五町ヲ去ル海岸ニアリ今ハ林樹中僅ニ礎ヲ見ル今ヲ去ル三十七年前安政風土病猖獗ナルニ苦ミ舊村ノ南北數丁ニ移ルモ病毒ハ猶ホ依然タリ明治元年今ノ村地ニ移轉セシハ實ニ三回也ト云フ今ヲ距ル三十七年前ハ人口百廿八ノ多キモ今ハ僅四十八ニ過キス内他村ヨリ分殖セシ者二十余名今ヲ去ル八年前ヨリ出生兒ハ僅ニ二人アルモ其生存スル者ハ男兒一人ナリ以テ蕃殖ノ遲緩ヲ洞知スヘシ  
村吏ニ風土病ノ有無ヲ問ヘハ例ニ依リ無シト答フ每戶實查スレハ男一人女二人兒一人現ニ該病ニ苦ムヲ見ル擧フル所ノ機那丸ヲ與フレハ合掌シテ恩ヲ謝ス憤懣ノ余リ歸來村吏ヲ留ル村吏低頭平身スルノミ又一言ヲシ又醫師ノ廻村ヲ問ヘハ本年ハ一回モ來ラス昨年十月頃種痘ノ爲メ一回來ルノミト  
番所達留ヲ一覽ス左ノ文アリ  
二十六丙第四一號  
從來吏員ト其擔當間切人民及村民ト舊曆正月七月兩度ニ於テ物品ヲ受授スルノ

有八重  
病村地山  
夫婦掃  
ノ寡婦掃  
コト寡婦掃  
也ノ類毎

舊慣有之候處該法ハ過ル二十年七月勅令第三十三號官吏服務規律ニテ消滅シタルハ勿論ナルニ今日其舊慣法ヲ行ヒ候者マ、有之ヤニ相聞得果シテ事實ナレハ相當ノ所分ヲ請ケサルヲ得ス云々  
二十六年四月十日  
按スルニカ、ル地方ノ如キハ假令令達幾百通ヲ發スルモ毫モ益無シ唯役所員ヲシテ有病地ヲ恐レ巡廻實行セシムルニアリ然レモ一ニ之ヲ以テ役所員ヲ責ヘキニアラス如何トナレハ定額少ナキヨリ意ノ如ク巡廻モ命スル能ハサルニヨルト噫妄ニ經費節減ノ害爰ニ於テ乎益々著シ  
戶數十五内二族 七夫婦アリ其他ノ八戶ハ寡獨ノモノト知ルヘシ  
人口四十三内男二十六人 女七人  
馬一疋ノ代價ハ米三俵ヨリ四俵迄  
牛全四俵ヨリ八俵迄賣買ス  
此大原野ニアリテ繫牛馬十八疋 放牧牛馬八疋  
原野二ヶ所  
二百五十三

字「マクナマ」原反別不明東西凡百二十尋南北凡五百尋ハカリ

字「ウラン」原全東西二百十尋南北四尋ハカリ  
犬ト人ト居テ全フシ床ハ板ノ替リ竹ヲ敷キ上ニ黒ク垢付キタル七島ヲ敷ク病人

モ其上ニ臥スノミ是ヨリ以東北ノ各村皆全一ナルヲ以テ再ヒ記サス  
二十五年年度村費決算額  
一米一石三斗五升

内

- 一斗諸作毛之爲メ二月願之時諸雜費
- 一斗家々々内火災無之様十月願之時右同
- 八斗五升番所筆紙墨其外諸雜費
- 三斗六月穂利登年并村民中身上其他祈願ノ時右同
- 一人夫百人

二十人幸本美崎御岳修補夫

十人番所修補夫

七十人猪垣修補夫

按スルニコノ赤貧村ニシテ貢租民費ノ外尙コノ村費アリ窮死セサルヲ欲スル  
モ其レ得可シヤ當路者宜シク猛省スヘシ然ラスンハ遠カラスシテ必ス廢村ト  
ナラン憲法政治ノ昭代ニ當リ廢村ヲ目前ニ見ルハ誰カ責ソヤ是ヨリ已東北ノ  
各村皆全一体ナレハ再言スルヲ要セス

一里八丁餘ニシテ午後一時桃里村番所ニ着ス午飯ス大雨益テ覆ヘスヲ以テ暫ク  
休息ス又々「トコ虫」ノ侵襲ニ遇フ

桃里村ハ島ノ北東平地卑濕ノ地ニアリ東北ハ五町餘ニシテ小高キ島山アリコ  
ノ險ヲ海岸ニ達スヘシ西ハ一里餘ヲ經テ「オモト」岳山脈ニ至ル其間丘陵及ヒ沼田  
多シ正南ハ村ニ接シテ水田多シ又「カラ」岳アリ北ハ十町餘ノ小丘ヲ踰ユンハ二川  
アリ水源ハ共ニ溪間沼田等ヨリ來ル村ノ四周水田及丘岡ヲ繞ラス地質黒土ニシ

テ低温ナリ三十餘年前ハ村ノ少シ東南ニアリシモ土地不頁ニシテ頗ル風土病ニ  
 苦ム故ニ現地ニ移轉セシモ病毒依然トシテ毎歲人口減少スルノミ且飲料水ハ舊  
 井ニ依ンリ現人口二十五今ヨリ三年前三十一五十五才以上ノ老人ナシ五才以下ノ小  
 兒三人アルノミ  
 桃里村戸數十二内一戸夫婦揃ノ戸ハ二戸アルノミ其他ハ皆寡獨ナリ人口二十五  
 内男十三名  
 右村ハ百二十餘年大津波前迄ハ六百人以上ノ人口ニシテ戸數百戸以上ト云フ  
 水田五町七反四畝九歩 此收穫四十三石六斗  
 牧場四百四十一町七反九畝十一歩  
 繫牛馬七頭  
 牧猪牛馬四百十二頭内馬百三十七頭牝九十五牛二百七十五頭  
 是皆四ヶ村士族吏員ノ放牧ニカ、ル數ナリト云フ  
 村費二十五年實費  
 一高米一石三斗五升内六斗ハ年六回ノ祭典費

一人夫二百二十人但三度夫引落セハ百人ナリト云フ  
 雨中八戸ヲ調査スルニ泥水脛ヲ沒ス該村ヨリ西海岸浮海村ニ至ル山道一里半又  
 全野底村ヘ二里ノ何レモ小徑アリ  
 午後三時出起伊原間村ニ至ラントスル里程三里五丁且惡路ナレハ徒步容易ナラ  
 スト爲ス  
 午後五時半桃里村地内字江野田ナル葛藤榮氏ノ開墾小屋ニ泊ス  
 塲主葛氏歳三十三才元鹿兒島縣大島名瀬朝仁村平民ニシテ明治十九年ヨリ來島ス二年間役所ノ雇ヲ勤メ後チ辭  
 シテ柳元平兵衛田村熊治ニ隨ヒ宮良村開墾ニ從事ス昨二十五年十一月現塲拜借  
 許可ヲ得テ移住スト海岸ヲ距三十間奥ノ森林中ニ居住ス小屋ハ二間ニ三間内  
 三尺ハ土間ニシテ一間半四方ヲ居室トス其次キヲ仕切り雇夫ノ寢間トス塲建チ  
 リ四圍樹木萱草繁茂ス屋根萱葺雨中ノ瓦斯明リ窓或ハ戸口ヨリ雨ノ如ク滲入シ  
 身体悉ク濕フ炭火ヲ熾シテ暖ヲ取ル次キニ製鹽塲ヲ見ル小屋ハ四間ニ六間釜入  
 枚徑二尺五寸位也一晝夜ノ製鹽高切樹三斗入三俵コレニ要スル人夫三人薪生木三千斤  
 製鹽高ハ海水二十分ニ當ルトニ俵價金六十五錢ノ賣買ナリ昨年移住ノ時ハ全

郷人三名土人五名合八名ナリ當時家族妻子二人第一近時又該地ニ呼寄タリト云フ  
 拜借地四十余町歩ハ皆森林地ニシテ百町歩余ハ平坦地ナリ木代上納次第土地立  
 木ヲ引渡スト云フ植物ハ山藪ナリ焚炭百斤ヲ所有ス一俵五十斤入ニテ三十六錢  
 即今賣口ナキヲ以テ四ヶ村ノ商店ニテ引受クス一俵那覇ヘノ運賃二十錢但石垣  
 四ヶ迄六錢ノ運賃ナリ全人落魄ノ身資本アルナシ其資本ト爲スヘキハ手足アル  
 ノミ之ヲ以テ伐木代金上納ズルヨリ家族ヲ養ヒ炭ヲ燒キ鹽ヲ製シ木材ヲ賣リ以  
 テ事業ヲ經營ス八重山中事業家ノ精神アルモノ其右ニ出ル人少ナカルヘシ是レ  
 ニ次ハ田村熊治トス二子ハ皆少シク保護ヲ加ヘハ將來必ス見ルヘキモノアラシ  
 予其精神ヲ欽望ス故ニ之ヲ掲ク或云フ昨年以來五六名那覇宮古ノ土人雇入ノ處  
 盛夏ニ趣クニ從ヒ風土病ヲ恐レ六月ニ至リ皆引去レリ故ニ今日ハ本人外一名ニ  
 減セリ該時大島人三名アレントモ二名ハ風土病ニ罹ルモ本人ハ精神活潑モ之レ  
 ナ恐ル、色ナキノミナラス曾テ數十回該病ニ侵サレタルモ頑然今日アルヲ致ス  
 故ニ風土病ノ毫モ恐ル、ニ足フサルヲ知レリト北川氏外一名巡查ト主人共ニ飯  
 ナ炊キ菜ヲ造リ晚餐ヲ懼歟ス當場ヨリ石垣迄本道七里山道ヲ往カハ僅ニ三里半

ニ過キスト

八月十四日雨

八十七度八分

午前八時開墾場出起ス二里程ヲ經テ伊原間村番所ニ至ル村ヨリ數町前ハ狹小ナ  
 ル地峽ナリ東西兩海岸ヲ距ルコト百歩ニ過キス田村熊治ノ意見ニヨレハ石垣ヨ  
 リ桃里村ニ至ルノ間各村共有ノ牛馬此海峽ヲ境トシテ北三里半ノ山野ヲ放牧場  
 トスレハ石垣四ヶ村ノ大原野ハ皆開墾シ得テ甘蔗栽培スヘシ余ハ別ニ持説アリ  
 其條下ニ記スヘシ  
 伊原間村ハ島ノ北部最モ狹隘ナルニアリ平安名岳ノ南方半腹ニ位ス北部ハ高隆  
 ニシテ漸々南方ニ傾斜ス故ニ雨ニハ下流其害ヲ受クル少カラス村ノ東西ハ海洋  
 ニ而シ南ハ牧場ニ接ス場ヲ過クンハ山岳ヲ望ム黒土ニシテ土層ハ砂礫ヲ混ス村  
 内樹木繁茂シ土地卑濕然レトモ四望原野豊草人馬ヲ没シ數歩前キノ騎馬人影ヲ  
 見ス肥沃証スヘシ是ヨリ北三里半ノ間皆然リ今ヲ距ル百二十余年海嘯前ハ人口  
 夥多ノ大村ナリシモ災害以來人口大ニ減シ黒島人ヲ移殖セシモ毎年風土病劇烈  
 人口日ニ減少ス

戸數十三 人員五十一 男二十八 女二十三  
 原野三ヶ所反別三十五町六反五畝二十步  
 牧場空トモリ百四十一町三反九畝二步  
 牛馬五百九十一頭内 牝牛百〇五頭 牝馬百九十四頭 繫牛十一頭 合シテ三百七十一頭  
 該村ヨリ北平久保村西梓海村迄至ル島中真馬ノ産地ト云フ  
 番所費一ヶ年豫算  
 米三石五斗六升一合  
 人夫六十人

二十六年八月

伊原間村諸筆者安谷屋長喜印

正午十二時伊原間村出起シ西海岸ヲ通り三里ニシテ平久保村地内字河原濱ニ至  
 ル大和墓八島墓共云フノ標木アリ下馬シテ森林ノ中ニ入ル十步ニシテ岩窟ノ間  
 ニ人骨アリ携フ所ノ香花ヲ奠シ其靈ヲ吊慰ス之ヲ一週スレハ二十間餘各所岩洞  
 中ニ碎片數十個ノ人骨皆是ナリ一洞僅ニ完全髑髏二個アルアリ傳ヘ云フ往昔平  
 氏檀ノ浦ニ敗レ後チ逃レテ此ニ上陸スコレハ即チ其遺骨ナリト側ニ又髑髏一個

夫婦ノ  
寡シフ戸ノ

ト列木箱丈ク四尺位巾方尺餘半ハ土砂ヲ覆ヒ納骨棺ナルヲ疑フ其一片ヲ拉キ携  
 フ全行巡查云フ昨年石垣四個村ノ某此骨ヲ見テ歸村セシニ日ナラス發狂屠腹シ  
 テ死セリ今君コレヲ携ヘ歸ル僕其後難ヲ恐ルト忠告アリ余曰ク平氏忠義士ノ遺  
 骨ニシテ世上ニ表旌セラヌ空シク恨ヲ此荒野ニ吞ミ千載不祀ノ鬼トナル予是  
 テ携ヘ歸京ノ上大學々士ノ判定ヲ請ヒ彌々平氏ノ遺骨ニ決定セハ一社ヲ建テ、  
 之ヲ祀ラントノ精神ナリ骨若シ吾レヲ不敬トシ予ヲシテ死ニ就カシムルモ固ヨ  
 リ之レヲ甘受セン忠義ノ骨ヲ表旌シテ死スルモ我心天地ニ恥ルナシ余ノ死ヲ期  
 スル一日ニアラス必ス之ヲ携フ距ル五町余ニシテ平久保村番所ニ着ス時ニ午後  
 三時ナリ午飯ス男女四方群集之ヲ見テ喃々ス土人人骨ヲ見テ神トナス故ニ之ヲ  
 手ニスルヲ恐ル、甚シ爾來各宿泊主人ノ畏懼シ見ルモノ、喃々ニハ余モ殊ニ困  
 却セリ

平久保本村

戸數十四人口四十一 男二十一 女二十 六夫婦ニシテ其他ハ寡獨ナリ  
 午後三時三十分出起シ島最北端平久保岬ヲ一週シ午後七時三十分西海岸平久保



枝村ニ至ル字安良村ハ東海岸ニアリ濱崎與利方ヘ投宿ス平久保ヨリ海岸ヲ廻レハ安良迄三里トス本枝村間ノ山道一里半與利翁年七十八歳八重山一等ノ人物ト稱セラル銀盃及左ノ辭令アリ

沖繩縣八重山島宮良間切平久保村字安良村

濱崎與利

天保年間疫病流行シ居村幾ント廢絶セントスルニ際シ拮据奔走移民ヲ募リ之ニ家屋農具ヲ給與シ以テ一村ノ繁榮ヲ盡リ其他農具製造貧民救恤等老ニ至テ益怠ラス依テ爲其賞銀盃一個下賜候事

明治二十二年一月二十九日

賞勳局總裁從三位勳一等伯爵柳原前光

賞勳局副總裁從三位勳二等子爵大給恒

附シテ云フ目ニ一丁字無ク徳義ノ論條理ノ説ヲ聽カス居ルニハ犬羊ト其住ヲ共ニシ然シテカクノ如キ欽望スヘキ毅然タル野翁アラントハ吾人文明ト稱シ開化ト呼ビ町村ヲ問ハス皆小學ノ設ケアリ教育普及ニシテ尙ホ野蠻

臘味實ニ甚シキモノ有リ豈互ヒニ三省セスシテ可ナランヤ

問フ翁肥臆スル處ノ古來ヨリノ口傳説ヲ聞フ

答百二十余年前海嘯以前ハ人口七百正男女三百人以上舊屋敷跡アルモノ七八十所トス又村ノ南北ニ溪水アリ小兒過テ之ヲ飲ムカ或ハ之ニ浴スルトキハ必ス風土病ニ罹レリ

翁又倭墓ノ傳説ヲ述テ曰フ往昔源平ノ戦八島ニ平軍覆没シ其敗軍ノ將卒平久保ニ上レリ騎馬ノ人モアリ上下トモ皆甲冑ヲ着セリト其人々ノ墓地ヲ今ニ倭墓又ハ八島墓ト云フ全村一丁字ヲ知ルモノナクハ記録モナシ去レトモ幼時ヨリ古老ノ嚙ニテ聞ク處ナリ

枝村安良

戸數六 人口十九 男十八 女一人 夫婦四揃其他寡獨也

平久保村 本枝合シ 戸數二十

山林原野及雜種地百八十七町九反三步

牧場宇大原牧東西三千二百四十間南北千八十間

收詰馬十疋 繫牛馬十疋  
 二十五年度村費決算額  
 一米二石  
 一全一石二斗六升  
 一人夫十一人  
 右之通

番所費  
 祭典費

平久保村ハ島ノ最北端ニシテ稍平坦ノ所ニ位ス海面ヨリヤ、高ク南ハ町余ヲ距テ直チニ陰鬱タル高山池田山ニ至ル其間沼田及泥澤アリ東西北ノ三面モ又町余ノ沼田泥澤ヲ經テ海岸ニ至ル黒土ニシテ濕地ナリ村内草樹鬱葱セリ又該村ハ風土病ノ流行スルニ係ラス人口聊カ増加ノ兆アリ其分村タル安良ニ付キ之レカ沿革ヲ舉フニ海嘯兩度以來人口減少シタルモ其後人口逐次増殖シ目今ノ状態ニ至レリ分村如此以テ本村ノ景況ヲ察知スルニ足ル

八月十五日小雨 八十度四分  
 午前八時平久保杖村安良村出起シ二里ニシテ東海岸ヲ經テ再ヒ伊原間村番所ニ

着ス午前十時御用記ヲ一見ス

明治十六年度伊原間村貢納高

年貢八石七斗一升二合四夕

全十八年度

所遺四石七斗九升六合五夕

年貢六石九斗六合九夕三才

所遺八石三斗七升四合

定稅ト云フテ十六十八ノ兩年度ニカク異同アルハ何ニヨルカ人頭稅ナレハナリ伊原間村ヨリ北平久保村平久保岬迄四里半ノ東西兩海岸ハ土地肥沃中真ニ小山脈アルモ其麓ノ巾廣キハ三百間狹キモ百間ニ下ラサル原野ナリ殊ニ伊原間村地内字内ノムラ百町歩以上宇某念次百町歩以上ノ原野ニク所平久保村ニ數百町歩以上ノ原野ニク所アリ運輸不便ナリト雖トモ實ニ有望ノ地ナリ元ヨリ南部石垣四ク村ニ沿フタル大原野ヲ開拓セシカ此邊ハ其勢ヲ引キ自カラ開クニ至ルヘシ石垣四ク村ヨリ平久保村迄ノ里程凡十一里半全岬迄十三里退潮ヲ待チ午后二時伊原間村出起ス村南數町ノ原野ニ小丘アリ樹草之レテ蔽フ土人ノ口碑ニ倭墓ト云フ何ノ時ヨリ在ルヲ知ラスト乃チ香花ヲ奠シテ禮拜ス余

言語不通ノ異俗ニアリ其孤島ニ我カ同胞人ニシテ客死セルヲ追想スレハ感慨ノ  
 情自カラ禁ズル能ハス沿岸ヲ行ク數十町許海潮尙馬腹ヲ浸ス一起一伏險山ニ登  
 リテ又海岸ニ下ル凡ソ二里程ニシテ野底村番所ニ着ス午后四時廿分也村吏三名  
 アリ皆不在賄女一名之ヲ守ル村總代モ不在御用物封印セルノ箱二個アルノミ巡  
 査北川氏曰フ村吏職務ニヨシハ休暇ヲ除ク外番所ニ常詰ノ筈ナルニ假令出張ノ  
 用事アルニモセヨ三名ノ中必ス一名ハ番所ニ在ルヲ規トス同氏ハ川平村駐在所  
 詰タリシ時全村ヨリ野底村迄ハ請持區内ニテ二十回余ノ廻村ニ及ヘリ其中此請  
 持各村ノ番所ニ吏員ノ詰メアルハ只三回ノミト從來役所員ノ巡廻ニハ藏元ヨリ  
 村吏ニ内々通知シ即晚ノ中ニ御用物ヲ携ヘテ番所ニ歸リ常詰ノ体ヲ裝フテ例ト  
 セリ故ニ村吏實際ノ形狀ハ先キ觸テ出シテ后巡廻スルニ非ラザレハ村吏毎ニ不  
 在ナリ况メヤ村吏ハ皆石垣四ヶ村ノ士族故平常御用物ハ自宅ニ持歸リ番所在勤  
 ハ名目ノミニテ其實ハ宅振ナリ急飛脚ヲ立テ今晚止宿ナル浮海村へ吏員總代ノ  
 内一人ヲ迎ヘテ出起セリ即晚全村ノ調左ニ

野底村

戸數十 人口二十五人 男十二人 女十三人

夫婦四揃他ハ寡獨ナリ 此出穀米四十二石三斗

水田七十町九反八畝十一歩五厘

畑二丁六反九畝七歩七厘

附記本年一月野底村詰與人宮良永充ヨリ届書扣ニ據レハ左ニ

田方八町九反三畝〇二歩

畑方四十八町五反三畝〇一歩

合計五十七町四反六畝〇三歩トアリ其反別ノ毎帳別ニシテ信ヲ置クニ足ラ

サル大概カクノ如シ

原野藪山反別四十八町六反八畝〇七歩内藪山ハ一町九反七畝十五歩

荒地三丁八反六畝歩 明キ屋敷三十餘ヶ所

牧場字ラハラ五十町一反四畝歩

牧詰牛馬二十五頭 牛十七頭 馬八頭

繫牛馬十四頭 牛六頭 馬八頭

二十六年度村番所費

一米六斗五升  
一人夫三十五人

番所費 一米五斗

明治二十六年八月

野底村詰與人 森田賢展印

野底村ハ島ノ北西ニシテ「ヲモト」嶽ノ山脉タル越地山ノ半腹ニアリ海ニ接近ス南  
ハ山岳ニ連リ北西ハヤ、海ニ近シ海面ヲ抽ク頗ル高シ且ツ北部ハ高隆ニシテ漸  
々西南ニ傾斜ス村ノ東南溪間ニハ沼田泥澤アリ黒土層ニシテ湿地ナリ樹木雜草  
鬱葱ス又處々塵埃堆積シ腐敗ヲ來ス百二十余年海嘯以前ハ大村ナリ故ニ廢田畑  
明キ屋敷ノ多キ本記反別ノ類ニアラス荒蕪ノ形狀人目ヲ哀シマシム其荒敗以來  
風土病益猖獗ヲ極メ現時ノ衰頹ニ至レリ  
午后六時浮海村番所へ着ス里程二里予足部患痛甚シク駕籠ヲ雇フモ有ルナシ  
人夫ノ肩ニ憑テ村中民戸ヲ踏查ス  
浮海村ハ島ノ北西ヲモト「岳」ノ連脉タル前岳ノ山麓海岸ニ接スル處ニ位ス南部ハ  
高隆ニシテ北部ニ傾斜ス五六町ノ畑アリ海岸ニ接ス村ノ東西水田頗ル多シ南ニ  
溪流アリ皆水田ニ注ク清シテ飲料トスルニ足ル土質赤黒土層ニシテ村内草樹繁

茂ス又塵埃堆積丘ヲ爲ス海嘯以前大村タリシモ今ハ荒田畑宅地ノ跡ニ草樹鬱葱  
タリ一目人ヲシテ慘狀ヲ哀シマシム  
戸數十七 人口六十四男二十五人 女三十九人夫婦十揃他ハ寡獨ナリ

蕨山原野荒田反別三十五町七反四畝歩余  
收場字系名四十七町三反三畝二十一歩八厘  
收詰牛馬六十頭牡牛五頭 牝牛二十七頭  
繫牛馬牛十六頭 馬十六頭

二十六年度村番所費  
一米二石一斗七升六合内九斗ハ祭典費  
一人夫二十五人

右之通

浮海村兼野底村詰與人 森田賢展印

二十六年八月 八十六度四分  
八月十六日大雷雨 八十六度四分  
曉ヨリ大雷雨午前十一時止々香花ヲ携ヘ脚痛ヲ忍ヒ騎馬シテ出起スルヲ得タリ

村ヨリ西スル數町樹木天ヲ覆ヒ晝尙ホ暗黒ナリ一里斗ニシテ川平村ノ境ニ至ル  
 峯ヲ踰レハ土人倭墓ト稱ス方三間位切石ヲ疊ンテ壯嚴ナル古墳アリ小柵ヲ繞ラ  
 ス方六七間是西常央八重山役所長タル時ニ修補シ木標ヲ建テタリト云フ香花ヲ  
 奠シテ禮拜ス嘗テ之ヲ檢スルニ石棺ノ中ニ最古曲玉土砂ニ混シテ數個アリシト  
 其構造タル一見貴顯ノ墓ナルヲ知ル道ノ左右ニ數百個ノ墓所數町間ニ連レリ間  
 ニハ切石ヲ疊壯嚴結構ノ墳墓數個アリ西ニ進メハ古石垣ノ跡ヲ見ル土人云フ是  
 古村跡ナリ其何人ノ居タルヲ詳ニセスト樹木鬱葱石垣ノ殘レルヲ以テ僅ニ村墟  
 タルヲ証スルノミ是ヨリ西十餘町ニシテ海岸ニ沿ヒ川平村ノ枝村字中筋村アリ  
 人戸五戸アルモ滿潮ノ爲メ通行スル能ハス山道ヲ經テ午後二時再ヒ川平村番所  
 ニ着ス梓梅ヨリ二里  
 川平村ハ島ノ西北海岸ニ位ス海面ヲ抽ク稍高シ西部尤モ高ク漸々東北ニ傾斜ス  
 南西ハ川平岳ニ連接シ中間沼田多シ東ハ直チニ川平港ニ接ス西北ハ田畑トモ丘  
 陵圍繞スル所トナル上層ハ砂礫ナルモ其下ハ黒赤土層ニシテ濕地タリ村内林繁  
 中桑樹極メテ多シ養蠶如何ヲ問ヘハ有ルコトナシト然ラハ桑樹何ノ用ニ供スル

ヤ曰ク生長ノ速ニシテ日蔭ヲ造ルニ宜シキヲ以テスト塵埃堆積シテ丘ヲ爲ス百  
 二十餘年海嘯以前ハ亦大村ナリ爾來風土病ノ爲メ益々衰頽ヲ顯セリト然トモ近  
 日逐次人口繁殖ノ途ニ就ク如シ

戸數六十三 人口三百〇一男百四十八人 女百五十三人 内士族戸數十四人 員男女五十三人

明キ屋敷三十四個

水田三十三町一反八畝五步五厘

此收穫米二百三十一石

畑二十九町三七畝六分

藪山原野八町三反六畝〇八步六厘

荒地二十九町五反八畝十七步三厘

牧場六十八町四畝二十二步

牧畜牛馬七十疋牝牛十四疋 牝馬六疋 牝牛十二疋 牝馬六疋

繫牛馬牝牛五十三疋 牝馬五十三疋

二十六年度番所及村費調

字内原 其原野七十町步余アリ  
 字ウリマ 同上數十町步アリ

一米三石六斗内一石三斗祭典費  
一人夫千六十八

午后三時出起村ノ西北端ナル石崎ヲ巡ル凡ソ一里半該岬西南ノ急斜面海上ヨリ一丈許ニ亦倭墓ト稱スルアリ洞窟中ニ人骨堆ヲ爲ス仔細ニ之ヲ檢スレハ皆黒キ壺ニ入レタルモノ也土人之ヲ八島墓トモ云フ香花ヲ奠ス丘ニ登レハ一連七十町歩ノ原野アリ字内原黒土ナレトモ肥沃ナリ往昔川平村盛時ノ村墟ト云フ少シク丘陵ノ狀アリ且ツ西北海ニ面スルヲ以テ風害ヲ避ケ今ノ地ニ移レリト歸途巡査内田源作氏ノ櫻ヲ請ク余カ忠部ノ爲メ風呂ヲ沸セリ久々ノ入浴眞ニ愉快ヲ感セリ午后七時過キ村人述シク來リ巡査ヲ迎フ其家娘薪山ニ入り斧ヲ以テ足甲ヲ切リ出血止マスト全氏直チニ石炭酸ヲ携テ行ク一時間余ヲ經テ歸宅シ云フ石炭酸水ヲ以テ洗ヒ綳帶ヲ以テ結ヒ漸ヤク出血止メリト僻村ノ巡査ハ醫業ヲ兼メ皆此類ナリ然トモ病快キモ敢テ一人ノ來リ謝スル無シ其心ニ巡査當然ノト、スルカ或ハ人情コレ薄キニヨルカ實ニ幾人ヲ醫スルモ其甲斐タル毫モ有ル無シト嘆息セリ

八月十七日晴 八十二度二分

午前十時川平村番所出起ス里程一里全十一時崎枝村番所ニ着ス崎枝村ハ島ノ西ニ突出スル屋良部山ト東ヲモト岳ノ山脈ナルナヌ岳ノ中間ニ位ス北部ハ直チニ牧場ニ接シ南ハ沼田泥澤ヲ經テ海岸ニ至ル其間五六町村ノ東西ニ水田泥澤最モ多シ海ヨリ高キト丈余北部ハ高隆ニシテ漸々東南西ニ傾斜ス赤黒土ニシテ濕ヘリ草木繁鬱ス又村内井水アリト雖トモ涸濁不潔ヲ究ムコレ亦海嘯以前ハ大村ナリシモ爾來人口減シ風土病ハ益猖獗シ數年ノ後ニハ廢村トナルノ勢ナリ人民生氣ナク田畑アルモ毫モ耕作ニ意ヲ用ヒス唯他村ノ唐芋ヲ賣テ之ヲ食ヒ一日ノ日ヲ消過スルノ概況ナリ

現在戸數十一 現在人口二十男十三人再註昨二十五年四月一日調ニ據レハ十五人女九人

二十六年度村費及祭典費

一米二石六斗四升一合 人夫ハ使用スレトモ員數不明ト云フ

新明キ屋敷十八個

原野四ク所反別四十五町七反六畝八歩

牧場反別四百七十三町三反七畝八步

牛馬七頭牝牛二頭 牡馬二頭

今ハ有病地ノ巢窟ト呼ハシ人ノ顧ルナシ荒蕪廢村ノ姿ヲ顯セトモ往古ノ大村ナルヨリ土地ノ廣キ地味ノ肥沃ナル實ニ有望ノ地ナリ病毒ノ如キ其豫防ノ法ヲ得ハ固ヨリ恐ルニ足ラス

全十一時三十分崎枝村ヲ出起ス里程二里午後二時再ヒ名藏村番所ニ至ル

名藏村ハ島ノ南西ニ當ル洪漠原野ニ位ス北方ハ町余ヲ去テ「テモ」岳ニ連ナリ沼田草野畑等多シ東南西三方モ沼田泥澤アリ卑濕地ト爲ス然トモ村内樹木繁ラス地質ハ砂石ト赤土ヲ混ス村ノ西一町余ニシテ名藏川アリ其流甚タ緩慢ニシテ河水茶褐色ヲ呈ス此周邊森林繁茂シテ落葉腐敗沈積ニ因スルナリ沿革崎枝村ニ同シ名藏川ノ西海岸ニ沿ヒ高所ニ就キ曾テ移村セルモ病毒ヲ免ル、能ハス明治九年再ヒ現地ニ移轉シタリ然トモ病毒益々猖獗現今ハ廢村ノ徵ヲ呈セリ

戶數七  
人口十五男五十八  
女五十八  
牛六疋

馬四疋

二十六年度村番所費

一米一石一斗六升

一人夫四人

中川虎之助開墾地寄留戶數六 人口十四男十二人

全氏拜借地ヲ除クモ尙オ二ヶ所ニ百町步余ノ原野アリ是又後來有望ノ地ナリ

中川開墾地ヲ經テ午後八時石垣四ヶヶへ歸ル里程一里二十町

本月十二日石垣四ヶヶ村出起ヨリ本日ニ至ル凡ソ六日間ニシテ石垣全島各村一モ遺スナク視察ヲ終ヘタリ各地ノ原野岬岨凡經過ヲ算スルハ合セ里程二十九里十六町〇五間本枝村合テ十九ヶヶ村内十ヶヶ村ハ有病地トス有病地ノ内川平一小學校アルノミ其他ノ九ヶヶ村ハ枝村也百〇九戶人員三百十二人ノ村番所前ニ公然不就學ノ標札ヲ明示セリ然シテ醫師モ昨年一回十月病毒沈靜ノ候巡視セルノミ本年ハ未タ一箇モ來ラスト云フ然シテ此避病院同様ノ實ニ恐ルヘキ土地ニ居ル赤貧人民ヨリ分頭ノ租稅反布公費村費其他衛生費學校費產業費ヲ欠損ナク徵收ス若シ一人モ

不從學  
戶ノ村落

不納者アレハ財産ハ元ヨリノ事妻子ヲモ賣買波買トハ云ハス貸金ノ抵當トシテ妻子ヲ  
村ニ及ホス習慣ナリ其督促ヲ免ル、ト云フ其慘狀ヲ痛嘆セサラント欲スル  
モ得可ヘケンヤ是ヲ識者ニ訴ントス

八月十八日晴 八十六度八分

午後九時警察署ニ出頭シ田尻警察署長ニ而シ北川氏郷導ノ厚誼ヲ謝ス續テ八島  
墓ヨリ彌體携帶セシ上ハ歸京ノ上人類學者ニ其實否ノ鑑定ヲ請ヒ若真ナレハ縁  
故アル人ニ計リ其事蹟ヲ明ニシ忠魂ヲ旌表セントノ意ナレハ窮カニ持歸ルヘキ  
ニアラス如何セハ御職權ニモ妨ケン余ノ志願ヲ貫クコトヲ得ヘキヤト全氏答  
フ承リ候以上ハ御全然相對ニテ持歸可然ト難申何レ警部長ニ御稟申ノ上一時本  
人ヘ引渡候様當署ニ向ケ違テ得ハ取締之主意モ相立至極穩當ナリトノ事ニ付其  
意ニ從ヒ人骨ニ左ノ書ヲ附シテ警察署ニ送ル

忠骨ヲ送ルノ書  
往昔源平八島ニ戦ヒ全軍沈没スル處トナリ義二君ニ事ヘス節源氏ノ粟ヲ喰ハス  
ト遺ク孤島ニ流寓シ其死後子孫ノ祭ナク怨恨ヲ吞テ遺骨ヲ留ム是ヲ名クテ忠骨

ト云テ予本島巡遊ノ途次香ヲ奠シテ聊カ其怨魂ヲ慰ス我カ  
王代ノ正史ナルモノ其初メハ多ク口碑ノ傳フ所ニ成ル該島文化未タ明カナラス  
村翁野夫稱シテ八島墓ト云フ予父老ノ傳説ヲ信シテ忠骨ト云フモ天下ノ人之ヲ  
信セサルヲ如何セン爰ニ於テ遺骨ヲ拾ヒ行テ同フスルコト殆ント十四里程ヲ經  
テ八重山警察署長田尻氏ニ其意ヲ陳ス氏曰其志ハ同感ナルモ予ノ行ヒヤ法律ニ  
戻ルナキ能ハサルカト公正無私ノ言予全感ヲ表ス依テ忠骨ト爰ニ訣別ス忠骨靈  
アラハ予カ言ヲ聽ク今狂狷法ヲ侵スノ罪ハ元ヨリ甘受シテ辭セサルコトナレト  
モ所刑人ノ言ハ天下ノ信ヲ欠ク然レハ忠骨ノ爲メ益スル所ナシ故ニ之ヲ當署ニ  
納メテ其筋ヘ正當ノ手續ヲナシ再相見ルノ時ヲ待テ若シ不幸ニシテ官許ヲ得ス  
ハ誓クテ忍テ天命ヲ守ルヘシ

明治二十六年 青森縣草薺士 笹森儀助 頓首

八月十八日  
右一書ヲ添テ平久保村八島墓ヨリ携フ彌體一個ノ箱ヲ造リ之ニ盛り出起ノ際全  
署ニ引渡ス其際ハ予カ宿泊ノ床間ニ飾リ香花ヲ奠ス男女群ヲナシ一見ヲ請フ土



人鬼神ト崇敬スル故ナリ又余カ若キ鬼神ナルニモ拘ハラス冥罰ヲ受クサル如何  
昨年某ノ屠腹厨ヲ受クル如キナラサルヲ怪ムナリ

八月十九日晴 八十五度五分

午後三時大有丸入港ス田中警部長ヨリ慰問來ル余風土病ニ罹リ死ニ垂ナンタル  
風評那覇ニ流言セルヲ以テナリ

全二十日晴 八十八度九分

機那咖啡  
植現况

午前十一時出起石垣大川村官山フハ山ニ登リ機那珈琲ノ試植地ヲ見ル明治二十  
四年農商務省技師田中節三郎出張試植ニ係ル其實况左ニ

機那苗移植八本總テ枯死

咖啡苗五十五本内四本枯死五十一本生存昨年ヨリ結實内現時實ヲ結フ  
本枯死ハ六尺以上ニ過キ四寸以上ナリ

本年植付ノ機那苗七十三本内枯死セルモノ五十六本  
生存スルモノ十七本

其二三ノ枯死セルハ日覆中ニ根ハ植タルマ、生長セス葉ハ莖ノミノコリテ出ノ  
喰ヒタル如ク見ヘタルアリ土人ノ説ニ據ンハ今少シク登リテモト岳ノ半腹ヲ相  
シテ試験セハ如何トノ説アリ然レトモ余ハ只兩回ノ試植ヲ以テ其適否ヲ断定ス

甘蔗適  
當製  
糖業  
發展  
結果  
如何

ルハ早計也ト謂ヘリ  
コレヨリ一里半ニシテ歸途陶器製造場ヲ見ル全場ハ大川村字チピラ原燒キ物ハ  
壺瓦瓶ノ類ノミニシテ他ニ貴重スヘキモノナシ其濫觴ヲ尋ルモ舊記ノ考フヘキ  
モノナシ唯百二十余年前明和年間宮良間切宮良村字高山ニアル製造所ヲ今ノ場  
所ニ移セシ記録アルヲ以テ見レハ數百年以前ノ創始ニカ、ルヲ知ルヘシ製紙場  
ニ至ル是亦數百年來ノ創始ト云フ楮ハ天然ニ生長ス之ヲ用ユ然トモ粗製ニシテ  
我カ郷里ノ鼠半切ニ比スヘシ收支相償ハサルヲ以テ本年度限りニテ廢止スルト  
云フ然レトモ若人有り改良ヲ加ヘハ該島一般ノ需用ヲ充タスニ足ラン其人ヲ得  
スシテ廢止スルトハ遺憾ナリ  
農事試験場ノ甘蔗栽培ヲ見ルニ成長沖繩島尻地方中等以上ノ甘蔗ニ比スヘシ一  
年苗ヨリ三年苗ニ至ル其甘蔗ノ生長ヨリ考フレハ少クモ一反歩六七百斤ノ製  
糖アルヘシト思ノ外其收穫少ク常春ノ製糖額ヲ調査スルニ一反歩平均ノ産出  
糖八十九斤此價金三圓七十五錢一厘右ニ對スル悉皆ノ費用ハ金二圓五十二錢八  
厘差引金一圓三十二錢三厘ノ利益ナリ蒔株ハ高蒔ニテ尺余モ畑地ニ棄置クアリ

搾り莖ヲ見レハ糖汁半ハ存セルアリ總テ栽培上ヨリ製糖ニ至ルマテ其粗ナル一見驚クニ堪ヘタリ收穫ノ少ナキ又怪ムニ足ラス

午後六時歸宿 八月二十一日晴 八十六度四分

午前役所ニ至リ庶務掛主任ニ就キ藏元頭以下ノ吏員ノ技能ヲ檢スルニ 吏員總數二百十六名

内

老衰事ニ堪ヘサル者

凡十七人

文筆算ノ技ナク大和

凡五十人

不具者

凡五名

普通筆算アル者

凡百四十四名

此ノ數ニ據レハ藏元吏員凡ソ三分一ハ職務ヲ奉セスシテ空シク民ノ膏血ヲ奪リ俸給ニ衣食スル者ト斷定シテ誤ラス是役所員及識者ノ藏元吏員改正ヲ以テ地方行政第一ノ急務トスル所以ナリ

八重山元吏員ノ別看

先島々政ニ關スル某氏ノ意見アリ事理明確先島々政ノ要務ニ的中セルヲ以テ爰ニ其全文ヲ掲載ス

一 全島山林田畑等ノ實測圖ヲクシテ官民有ノ區別判然セス且人民ハ土地ヲ所持スルノミニテ完全ノ所有權ナキ事

二 從來吏員ハ試験ヲ用ヒスシテ採用シタルノ結果ハ今日普通文字ヲ解セサル者老耄セル者及不具者等夥シク且假若女子雇ハ無給ナルヲ以テ職務ニ熱心セサル事

三 從來平民ニ學問セシメサル舊慣ナルヲ以テ普通教育ヲ受クルノ自由ヲ得タル今日ト雖トモ十六七年以上ノ者ハ目ニ一丁字ヲ解スル者ナキ事

四 平民ヨリ吏員ニ採用スヘキ舊規ハ勿論慣例モ之レナキ事

五 當島民ハ各村内ノ轉住ト雖トモ双方村吏ノ承諾ヲ得サレハ轉住スヘカラサル事

六 他地方他府縣寄留者及當島士族ハ當島平民ノ婦女ト私通シテ設ケタル子ト雖トモ相續人トシテ男子一人丈送籍スルヲ許サルノ外一切私生子ヲ公然己ノ

子ト認ムルヲ得サル事  
 七所轄外ヘノ出寄留者ハ貢租等ノ引受人ヲ定メ出願シタル後ニアラサレハ出寄留ヲナスヲ得サル事  
 八土族ト平民ト結婚スルヲ得サル事  
 九他所轄人ノ出入寄留及入籍ハ自由ナリト雖トモ一度入籍シタルトキハ他ヘ送籍セシムルヲ得サル事  
 十平民ハ公生私生ニ拘ハラズ男子四人男女子五人以上アル者及士族平民ノ痲疾者等ハ貢租民費ヲ免除シテ其免除シタル部分ハ全島民ニ負擔セシムル事  
 十一村ニ上中下々ノ四段人ニモ上中下々ノ四段アリテ貢租等ノ負擔ニ差違アリ而シテ其舊規ハ二百年前ノ設定ニ係リテ盛衰ノ差ヲ生シ右等級ノ今日ニ適セサル村數多アル事  
 十二頭以下藏筆者マテ妻並子二人目差ハ夫婦共貢租民費ヲ免除セラレ且頭ハ五代首里大屋子以下假若女子マテハ三代二度夫貢三度夫貢ヲ免除セラレテ其部分ハ一切全島民ニテ負擔スル事

右改良順序左ノ如シ

第一全島山林田畑等實測シ習慣ヲ斟酌シテ明カニ官民有ノ區別ヲ立テ其私有地ニ對シテハ各自ニ完全ナル所有權ヲ與ヘ相當ノ租額ヲ定メ而シテ後人頭ヘ賦課徵收ノ舊慣及免稅者ノ舊慣ヲ一切廢止スル事  
 第二當島吏員數甚多シト雖モ其内老衰セル者不具ナル者及普通文字ヲ解セサル者アリテ實際用辨ヲナスモノ少ナキノミナラス假若女子及雇ハ無給ナルカ爲メ職務ニ熱心ナラス且目差以上ノ吏員トナレハ事務ヲ筆者ニ取扱ハセ自分ハ袖手傍觀スルノ慣習今日ニ至ルモ脱却スルコト能ハサル等ニテ事務整理上差支不盡依テ吏員數ヲ適度ニ減少シテ人員ヲ定メ總テ有給吏員トナスノ規定ヲ設ク而シテ嚴格ニ淘汰ヲ行ヒ更ニ適當ノ人物ノミ採用スルヲ要ス  
 第三今後民力ノ堪ユル範圍内ニ於テ各村ニ小學校若クハ分校ヲ設置シテ教育ヲ普及シ漸次平民ノ智識ヲ開發シテ士族ト同一ノ位置ニ至ラシムルヲ務ムルハ今日ノ急務ナリ  
 第四平民ト雖モ士族同様ノ學力智識ヲ有スル者ヲ漸次吏員ニ採用セハ從來士族

吏員ノ平民ニ對シ暗々裏ニ苛遇スルノ弊習ヲ除去シ自然的ニ士民ノ階級ヲ打破シテ一九トナスヲ得ヘシ

第五以下十二マテハ元人民ニ土地所有ノ權ナク貢租ハ定額アリテ年々變更ナクシテ賦課法ハ人頭割ナルヲ以テ人口ノ増減ハ直チニ負擔ノ輕重トナル處ヨリ設クタル規定ナレハ以上第一ヨリ第四マテノ改良實行セハ自然消滅スヘキモノナルヲ以テ茲ニ贅言セス

八月二十二日晴 八十九度八分

巽キニ與那國島巡遊ノ際全島ニテ得タル與那國象形文字當藏元吏員八重山島族石垣土族若

文子名上江洲由恭氏ノ訂正ヲ得テ爰ニ掲ク

小山内氏云フ今與那國ノ契文ヲ見ルニ結繩ノ後進テ象形ヲ用ヒタルモノト知ルヘシ草ヲ結テ用テナセシ時代アルハ玉勝間ニ見ユ該島人今ニ結繩象形六書ノ一指事上ノ文字ヲ用ユ上古ノ遺風知ルヘキナリ然シテ該書契ハ其土ノ古キ象形ト大和語或ハ文字ヲ模擬混用シテ造レルモノト思ハル又々象形指事アントモ諧聲假借轉注等ヲ欠クリ然トモ上古ノ遺態現存スルハ抑又 皇化ノ遠キニ及ヒタル舊證

ヲモ知ルヘキニト實ニ珍奇ト云フヘシ爰ニ一言ス

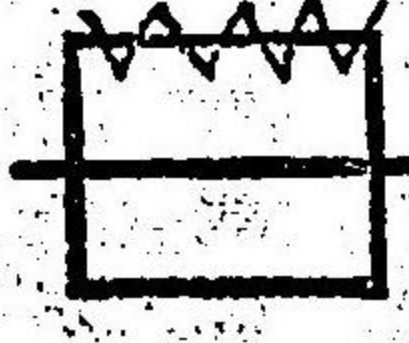
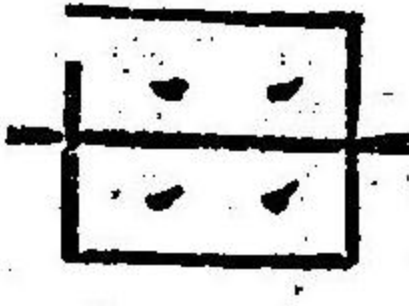
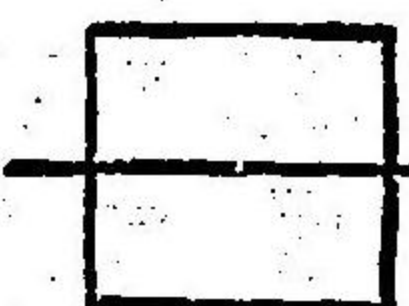
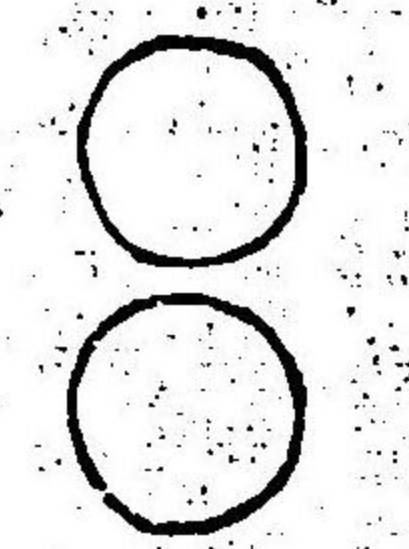
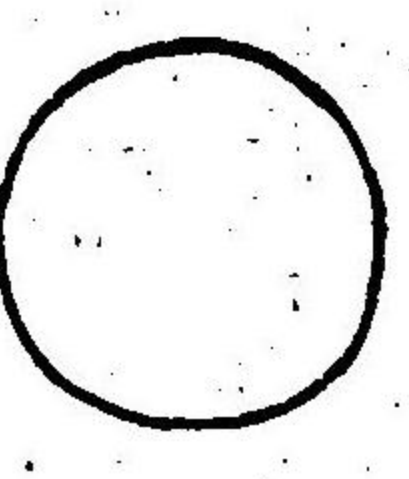
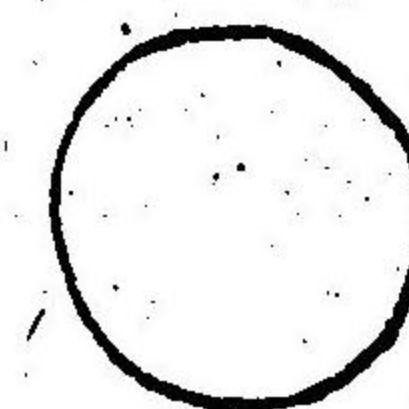

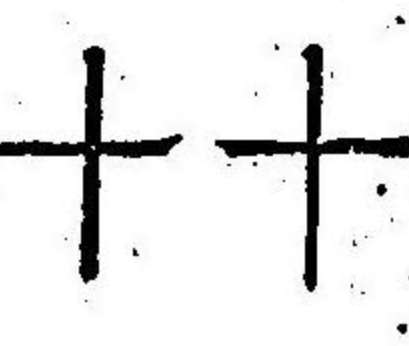
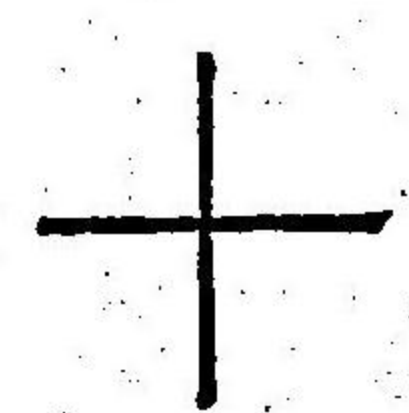
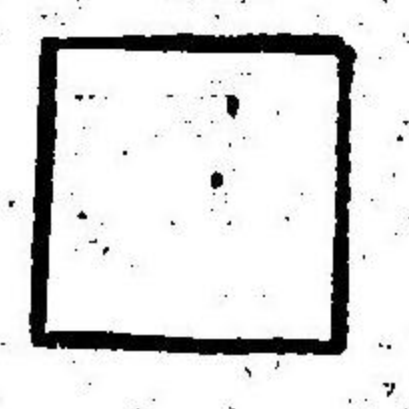

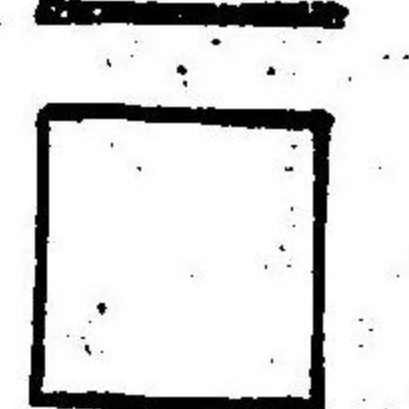

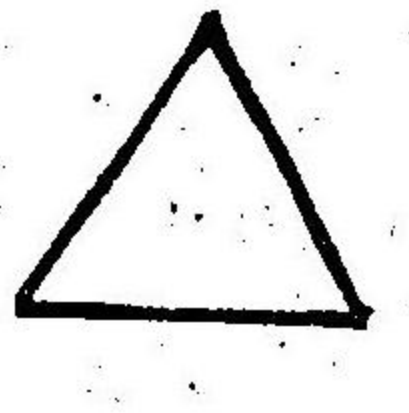
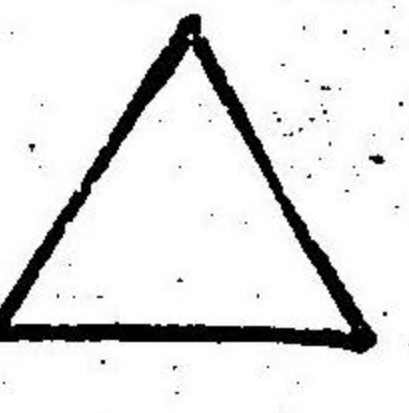
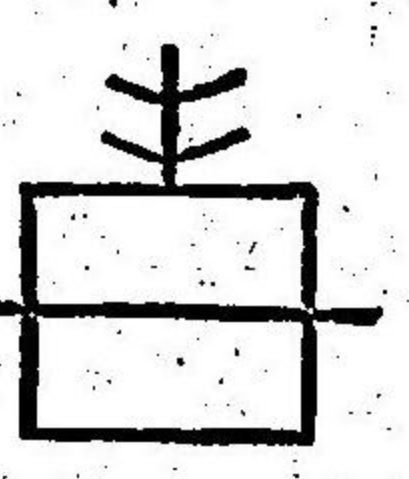
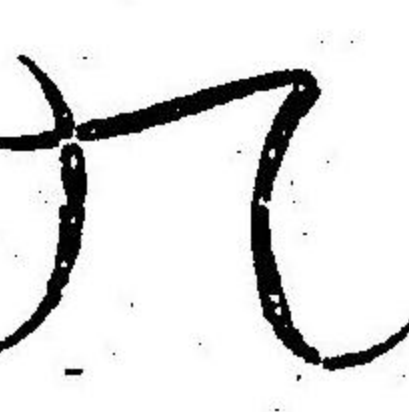

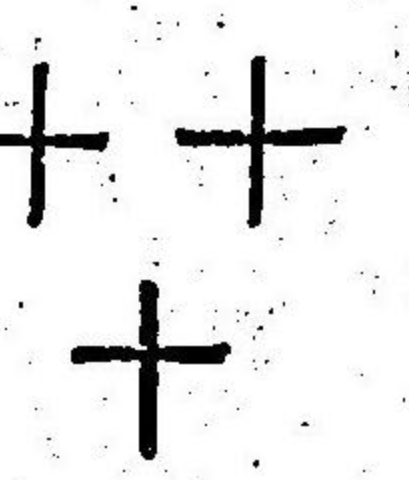


與那國島租納村仲里該島人通用字書取

本書之通相違無之候也




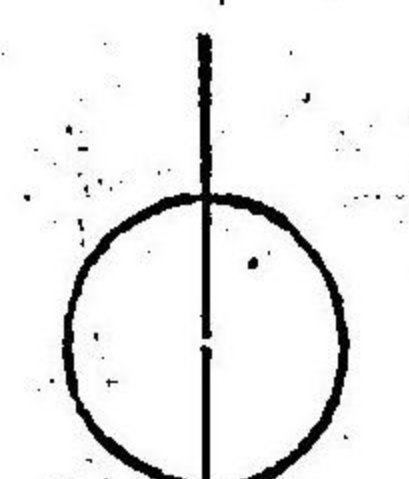

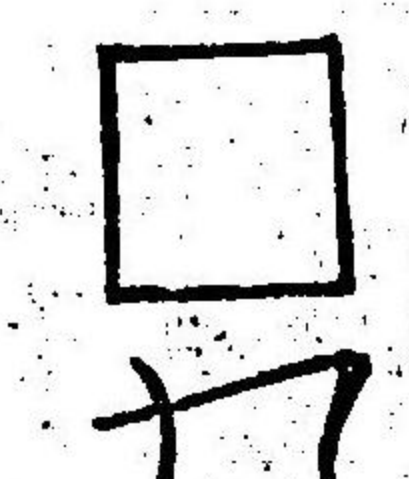
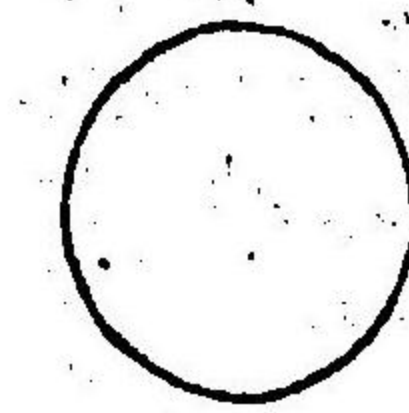
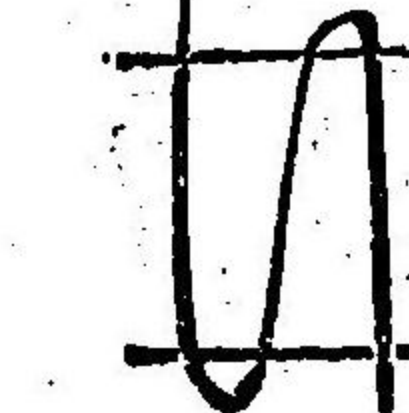
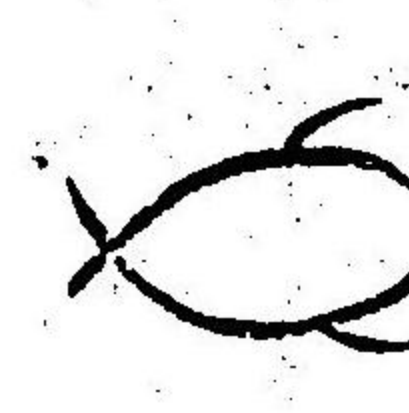
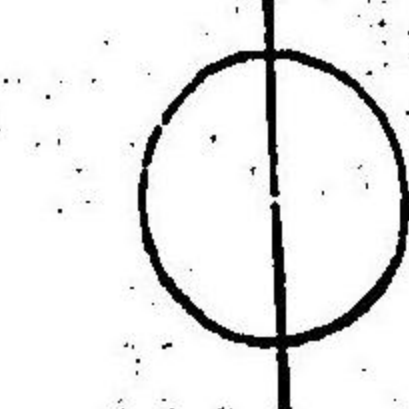
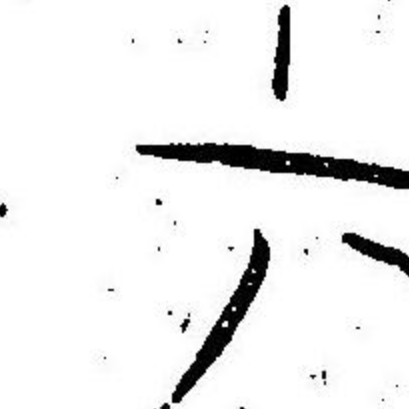

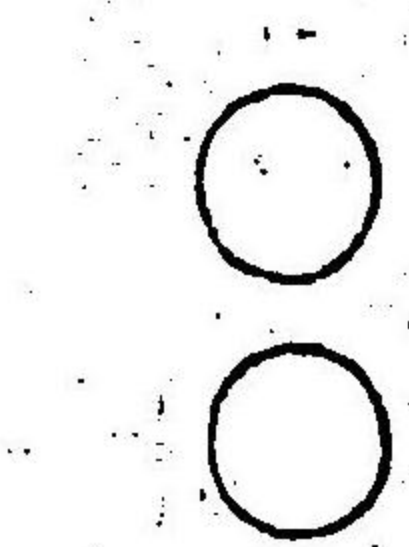
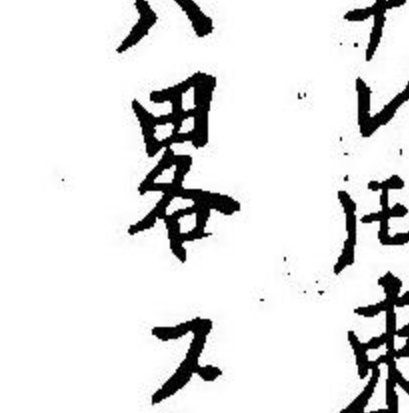

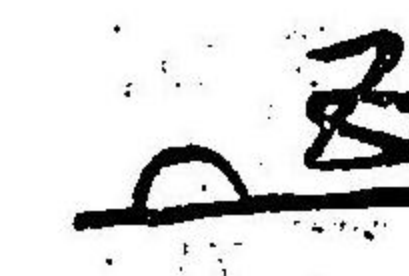

驗定 明治二十六年八月二十二日

若文子上江洲由恭印

與那國通用  
島字符

	豆		粟		米
	二俵		壹俵		壹俵
	七升		二斗		壹斗
			二升		壹升
	四合		九夕		壹合
	麦				七夕
	三斗		五戈		九戈

二百八十六

	壹丈		鯉		三升
	竹		壹ッ		九合
	壹ノ		薪木		魚
	いさゝ		六束		三升
	一束		ナレ庄束ノ字 ハ畧ス		タルガ
	束ノ字ハ 畧ス		五寸角板		四ッ

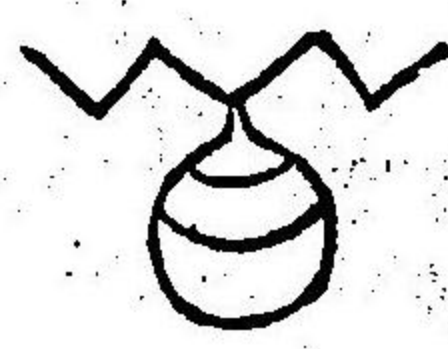
二百八十七

瓢

十二分

冬瓜 十八分

二百八十八



十二

行ノ字ハ  
畧シテ唱フ



十

行ノ字ハ  
畧シテ唱フ

かや

羊ノ

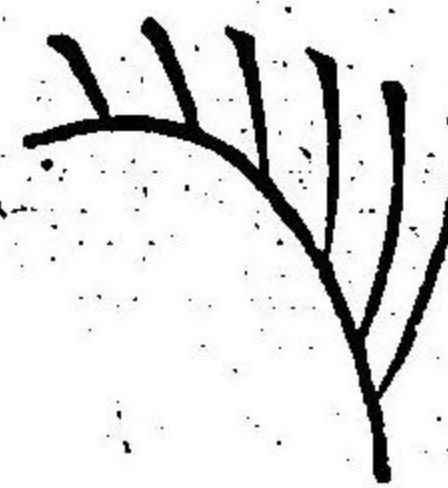
ころゾ

山モリ

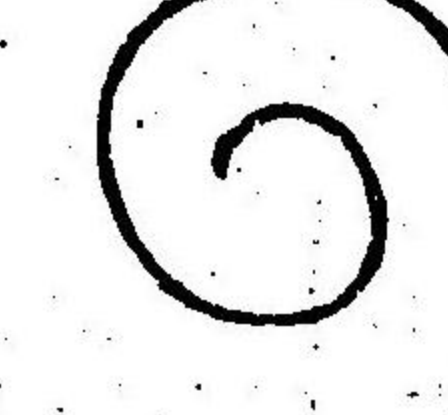
三十分

山モリ

四分



)



十

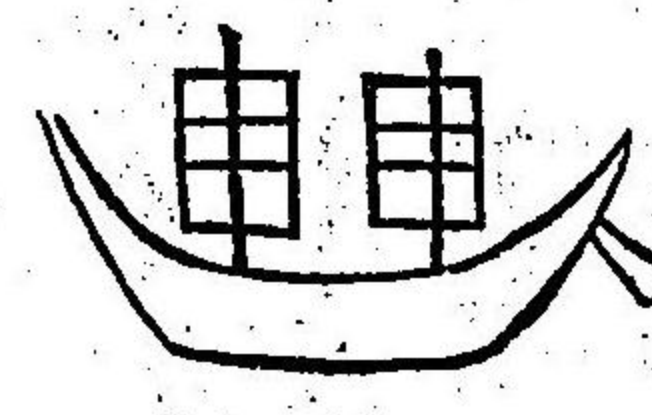
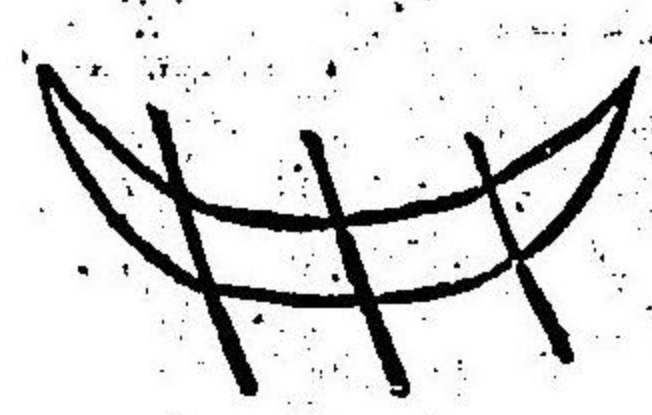
十

十

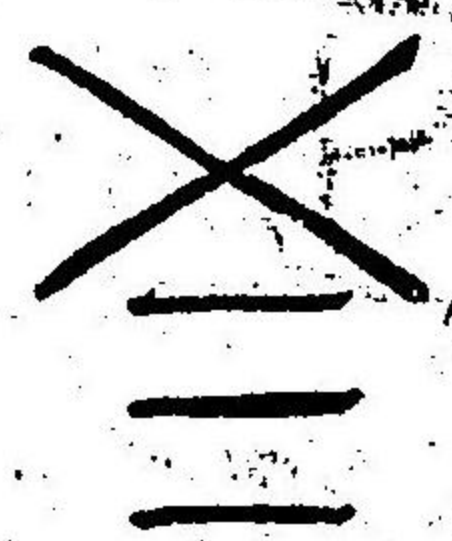
十

山原船

是ハ秤ノ字ノ由



歌ナレト何船ト記ス片ハ各自  
記シテ分見ノ由ニテ今ハ濱崎  
船ト唱フ



是ノ判ハ濱  
崎店ノ記ナリ

四

月

五

日

七日

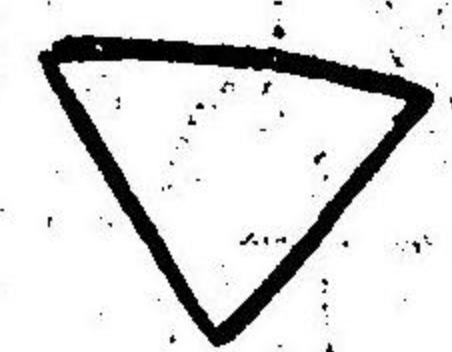
三日

辰

百

壹石

七分



九

川

乙

〇〇

〇〇

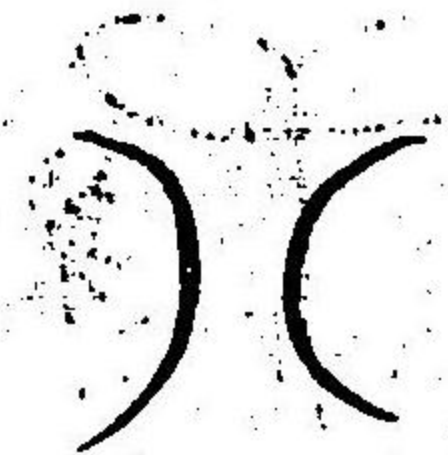
七

八合 風老豆

四分

半莠

二分



)

)

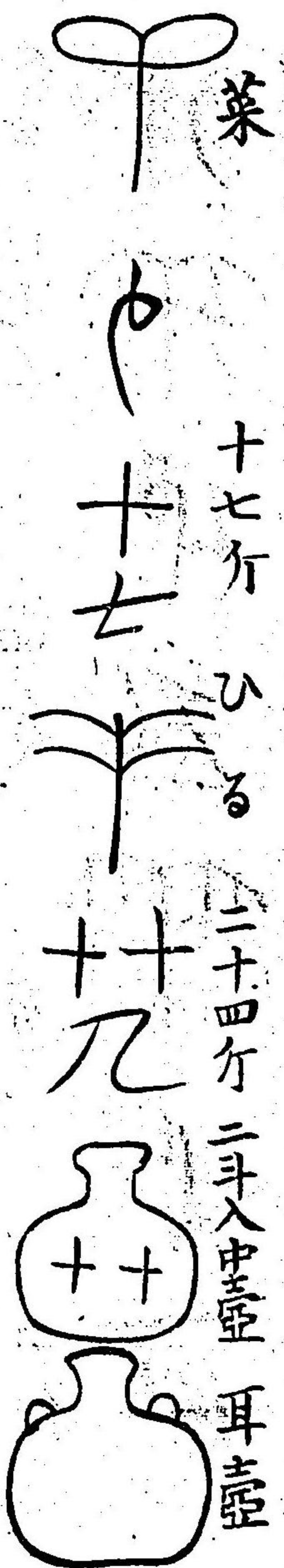
)

)

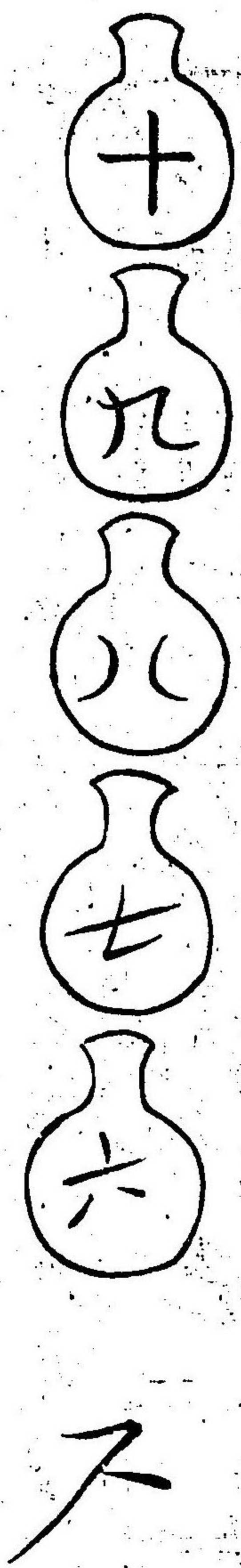
)

)

二百八十八



十斗入德利 九斗入 八斗入 七斗入 六斗入 人面下甲入字



五月一 日 四 五月二

日 五月 三 四 五月

四 日 五月 子 四 五

月 六 四 五 月 七 四

八重山糖業試驗  
出納成蹟算

壺石 壺斗 壺升 壺合 壺夕 壺支

〇〇  
〇〇  
十一  
□  
△  
|

八月二十三日晴  
 最低午後二時八十九度六  
 本日ノ最昂低ノ温度ハ那覇測候所官吏測候器械設置トシテ出張八重山石垣島四  
 夕村ニ於テ實測セシモノ故特ニ掲ク

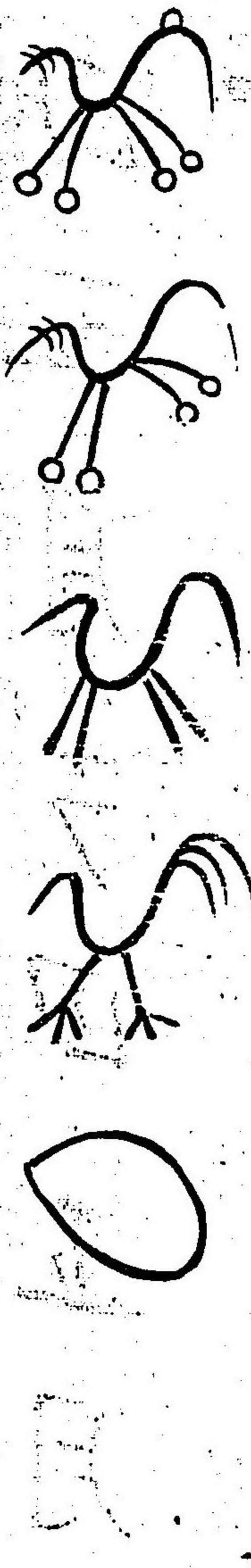
開墾移住者葛藤榮從來ノ試驗書類携帶來訪ス左ニ  
 明治廿二年六月二十日ヨリ全廿三日迄植付計算表  
 翌廿三年六月十七日ヨリ全十九日迄製糖付計算表  
 荒地一反歩  
 一經費金十四圓八十七錢

内譯  
 開墾ノ部

五月 八月 四月 五月 九月

四 五 月 十 四

母馬 養馬 羊 鳥 玉子



女牛 男牛



耕耘準備序 牛馬之數

賃金

備考  
耕牛及働共ニ當地在來ノモノ  
ヲ仕用シ人夫全斷ナリ

荒鋤起	牛三頭	金三十錢
一回全	牛三頭	金三十錢
二回全	牛三頭	金三十錢
三回全	牛三頭	金三十錢
四回全	牛三頭	金三十錢
除草	夫二	金二十錢

小計金二圓二十錢

甘蔗栽培ノ部

賃金

備考

栽培順序	夫數	金三十錢
畦切	夫三	金三十錢
苗切取及	夫三	金三十錢
苗摘定	夫三	金三十錢
植付	夫十	金一圓
一番除草	夫十	金一圓
二番除草	夫五	金五十錢

是ハ初年株ナリ故ニ手數シト要知ルヘシ  
三年株ニ至レハ手數少ナリ

製糖ノ部

賃金及

備考

三番除草	夫五	金五十錢
甘蔗ノ傍	夫五	金五十錢
製糖ニ係ル	牛馬	小計金三圓四十錢
品目	夫二十	金二圓
甘蔗壘ハ伐採	夫五	金五十錢
甘蔗運搬	牛十五	金一圓五十錢
蔗搾車引	夫九人	金一圓卅五錢
全搾	夫八	金卅五錢七厘
製糖	夫八	金卅七錢五厘
火焚	夫八	金十錢
石灰	五升	金七錢
燈石油	五合	金一圓廿五錢
薪木	百二十五斤	

製糖ハ一日ニ改瓦機車ヲ用ユ  
中製ハ要ス尤モ改瓦機車ヲ用ユ

砂糖入樽 五丁代 金一圓廿五錢

小計金九圓二十七錢

收穫黑糖六百十三斤但入樽五丁

此代金十八圓卅九錢但地那那那一斤ニ付金三錢ッハ算拂最モ當

差引益金三圓五十二錢

問フ此總テノ運賃及解賃如何答宮良村ヨリ石垣四少村迄小船運賃一丁ニ付金五錢積込及解賃金三錢源船大有九那那石垣間ノ運賃一丁ニ付金二十錢全陸場金一錢ト

右ノ試驗ハ從來沖繩ニ行ハル、栽培製糖ノ季節ニ係ハラス人々ノ出來スト云テ試驗スル爲メ當宮良村字「シタ」原ニ於テ明治二十二年六月二十日ヨリ全二十三日迄ニ植付翌二十三年六月十七日ヨリ全十九日迄製糖ニ從事シ實地ノ試驗ヲ得タリ余謂ラク當島モ布哇島ト全シテ季節ヲ論セス常ニ整頓シ置キ降雨ノ都合ヲ待テ植付ヘシ製糖点ニ於テモ亦然リ則チ甘蔗成熟ノ度ヲ見テ漸次製糖スレハ糖業者ニ於テ裁製ノ時季遲速ノ憂モナク好結果ヲ得ノト必セリ

入重山 出張醫 可又ノ事情

但裁製適當ノ期十二月ヨリ翌年ト適當外ノ期トテ比較スレハ好時期ニ裁製スルモノヨリハ凡ソ三割ヲ減少スルノミニテ著シキ差異モ之レ無シト云フ  
村部醫師來訪ス全醫ハ西表島擔當スルモノト云余乃チ實メテ曰ク西表島ハ有病地ニシテ患者ノ多キ何ソ避病院ト異ナラン如此ニモ拘ラス年一回ノ巡回トハ人命ヲ重セサルノ至リ醫師ノ本意ニ反ス且ツ患者ノ有無ヲ論セス六七八ノ三月間ハ月一回位ノ巡回アルヘキ筈ニアラスヤ全醫答貴意一應尤モナカラ醫師ノ内情ヲ察スレハ是亦頗ル憐ムヘキモノアリ政府ハ余カ如キ一保護醫ニ對シ西表全島外五離島ノ人民カ生命ヲ委テ僅々一月ニ金十圓ノ俸給ヲ與フ一月十圓金ヲ得ンカ爲メ波濤万里ヲ冒シ瘴癘不毛ノ地ニ入ル幾人カアル保護醫トシテ藥價ノ督促ニ嚴ナル蓋シ故アルヘシ夫レ藥品ヲ遠ク万里ノ外ニ仰カンニハ僅少ノ俸給ハ藥品買入ノ代價トシテ余裕ナシ此ニ至テ藥價ヲ督促セサルテ得ス且ツ妻子養育ノ費アリ加フルニ先般西表巡回中ニ一度風土病ニ侵サン數日臥セリ何ノ暇アリテ年ニ幾回巡回スルヲ得ベキ往診ノ僅々タルモ又故ナキニアラス且去六月中定期船一回ノ入港モコレナキ爲メ風土病ノ主治藥ナル機那藥三醫共ニ盡キ一時ノ治

病ヲ胃  
租ニ納  
努

療ニ困却セル体皆人ノ知ル處ナリ  
又有病地ヲ巡回スレハ風土病ニ冒サレ呻吟シツ、アル状態ハ目モ當ラレヌ姿ナ  
レトモ多クハ耕作ノ時ニ際スルヲ以テ猪害ヲ防ントシテ山野ニ起臥シ晝夜ノ番  
ヲ爲ス若シ不然シテ家ニ病ニ臥セハ作物皆猪害ヲ受ケテ又己カ有ニアラス故  
ニ賃租民費スラ尙ホ足ラス豈又藥價ヲ償フノ余地アラシヤ故ニ巡回スルモ皆  
病人ナシト答フルハ一般ノ状態ナリ一步進テ情實ヲ穿テハ其心實ニ憐ムニ堪ヘ  
タルモノアリ彼等一朝病臥ノ治療ヲ受ルトキハ若干ノ藥價ヲ要スルハ前陳ノ如  
ク容易ニ藥價ヲ出スノ余地ナク又醫師ハ藥價嚴重ニ督促セザレハ生命ニ關ス村  
民其督促ヲ恐レテ醫師巡回スル時ハ反テ病人ヲ隱蔽シテ醫師ヲ避ケ其來診ヲ厭  
フハ現情ナリ今ノ習慣ナレハ病院ヲ設ケ貧民施藥ヲ實行スルニアラサルヨリハ  
民心ヲ安堵セシメテ其希望ヲ達セシムルコト能ハサルハ斷言スル所也  
又風土病除害ノ一端トシテ左ノ答アリ是迄幾多ノ人士衛生的實視ト稱シ風土病  
取調ト唱ヘ西表島へ渡航シ其對策ヲ研究スルニ拘ハラス未タ一點其策ノ行レ  
サル蓋シ其説クトコロハ可言シテ行フベカラサルノ空論ニアラスヤ某醫道ヨリ

瘴癘毒  
一驅除ノ  
按

推シテ風土病ノ最モ神速ナル驅除法ト稱スルモノハ速ニ八頭稅ヲ改テ地租ニ換  
ヘ地方稅ヲ課シテ森林ノ改良及疏水ノ工事ヲ起シ植産教育ニ一鞭ヲ加ヘ民ニ財  
産ノ權利ヲ與ヘ事業ヲ獎勵セハ風土病其跡ヲ絶ツ期シテ待ツヘシ何如トナシハ  
海嘯百二十余年前四万ノ人口アリシ時ハ病毒ノ患ヒ反テ少ナシ是レ草野開ク瘴  
癘毒自カラ退減スルノ一証ナリ  
醫師崎山寛好ハ先祖以來八重山入ニシテ曩ニ東京濟生學舎ニ卒業セリ明治二十  
三年郷里八重山ニ歸リ官ノ雇醫トナリ施治ノ傍ラ風土病研究ニ從事シ頗ル一見  
識ヲ立テタリ余着島否ヤ全醫ヲ尋テ其講究ヲ世上ニ發表シ且該島經營ノ實効ヲ  
致サノコトヲ切ニ希望ス全醫云フ未タ經驗久シカラス世間ノ信用薄キヲ以テ  
固辭セリ余強請スラク此病毒ニ沈淪セル人民ヲ水火ノ中ヨリ救フニ何ソ老幼ト  
年功ノ有無ヲ問ハソ荷モ効アリト信セハ之ヲ實行セシノミ全醫諾シ本日一冊ヲ  
送ル一見スレハ學士輩モ未タ發セサル處ヲ發シ八重山熱ニ就キ實ニ一新發明ト  
謂フヘキ著述ナリ且ツ見本石一個ヲ添フ別ニ其記ヲ附録ニ收メテ醫學士ノ高見  
ヲ仰ソトス



三日モ早ク免シムルハ急務中ノ急務ナルモノ也元ヨリ該島創始皆戰爭ノ餘  
習ヲ受ク勝者士族トナリ吏員トナリ敗者ハ平民否ナ奴隸トナリ平民全般妻子四  
体ヲ擧クテ士族吏員ノ犧牲ニ供スル習慣上ヨリノ原因ナリトセハ穴勝チ無理ニ  
モアラサルヘキモ憲法政治ノ帝國中ニカクノ如キ奇怪奇態アラントハ或人曰ク  
先島ヲ一巡セシ者皆吏員洵汰ヲ説クハ異口同音ナルカ如シテ其慣例沿革等  
ヲ研究シテ洵汰ノ方法ヲ講スル者ハ殆ント稀ナリ表面ヨリ見レハ沖繩ハ廢藩置  
縣藩制一新ノ姿ナントモ百事概チ舊慣ヲ存續シ先島ノ如キハ殆ント更新ノ實ナ  
シト云フモ過言ニ非ス處分官告諭ニモ  
前略理勢不得止遂ニ今般ノ御處分ニ相成云々且ツ士民一般ノ身上家祿財產營  
業上ニ於テモ苛察ノ御處分無之勉メテ舊來ノ慣行ニ從フノ御主意云々  
トアルニ非スヤ依之先島士族ハ舊慣通リノ島政ヲ行フニ於テ復々止ムヲ得サル  
ナリ卒然其實況ヲ見レハ士族ノ專橫實ニ惡ムヘキカ如キモ此レ舊慣ノ然ラシム  
ル所ニシテ他府縣維新前武士ノ行爲ニ比スレハ敢テ怪ムニ足ラサルナリ先島ノ  
現狀ハ實ニ他府縣維新前ノ有様ナリ然ラハ則之ヲ如何セハ可ナラン曰ク士族吏

員ノ實權額ヲ精密ニ取調ヘ其十ヶ年分ヲ五米利付ノ公債證書ヲ下付シ現在ノ吏  
員ヲ全廢シ士族ト島政トノ關係ヲ斷ツニ在リ如此ナレハ士族ハ別ニ生計ノ途ヲ  
得平民ハ貢租島費外ノ重歛ヲ減シ士民安堵シテ始メテ島民ノ塗炭ヲ撥フヲ得ヘ  
シ若シ然ラスシテ輕々ニ吏員ヲ免職セン歟此レ處分官告諭ノ趣旨ニモ違ヒ恐ラ  
クハ宮古島ノ紛擾ヨリ尙甚シキモノヲ再演スルニ至ラン  
黒島ノ一人民雷斧石ヲ棒切ノ中間ニ狹ミ之ヲ太キ薪ニ當テ石ヲ以テ打テ薪ヲ割  
ルアリ蓋シ石器時代ノ遺風ナルヘシ其一箇ヲ村部源治氏ヨリ惠與セラントハ  
見本ニ供ス  
入重山全島民ハ水田ヲ耕ス皆木鋤ヲ用チニ下方圖ノ如シ又見本ヲ携帶セリ  
按スルニ易ノ始物解ニ神農氏木ヲ伐リテ耒耜トシ以テ民ニ農耕ノ利ヲ教ユト  
余先島諸島ニ遊ヒ水田ヲ耕スヲ見ルニ皆木鋤ヲ執テ從事スルヲ目撃セリ今ニ  
シテ親シク四五千年上代ノ歴史ニ見ル神農氏時代ノ現況民ヲ見ントハ又カク  
ノ如ク無智驢味ナル民ニシテ其精巧緻密實ニ驚クヘキ反布ヲ製出ス嗚呼是ニ  
由テ之ヲ觀レハ朴野禽獸ヲ去ル遠カラサル人民ト雖也上流ノ人指導其宜シキ

ヲ得レハ遂ニ開明ノ人ト伍スル難カラス朝野ノ政事家精思セヨ

八重山嶋水田耕作用水致



石垣島ハ慶長檢地ヲ基礎トシテ周廻十六里十七町ノ制ナルモ置縣以來ハ概測ヲ以テ周廻二十二里三十三町トシテ今ノ統計表ニ掲タリ然ルニ明治二十年農商務屬田代安定氏該島ヲ實測シテ周廻三十里十四町一九トナス余其確實ニシテ信ニ近キヲ認メリ夫地積ハ製産ノ基一日モ緩フスヘカラサルモノナリ宜シク精密ノ調査ヲ要ス

元沖繩縣屬田村熊治氏明治二十三年官命ヲ奉シ實際取調ヘシ復命書ニ據レハ石垣島概計左ニ

藪山反別九十一町八反五畝〇七步 原野反別三百七十二町五反七畝十三步  
 牧場反別二千七百七十一町〇三畝十四步 荒地反別三町三反四畝十三步  
 荒田反別二百十三町七反二畝十五步 右五口合反別二千八百五十町步  
 實地ニ就キ陷査スルニ藪山ヨリ荒田ニ至ル五項目ハ皆水陸田ニ變換スルヲ得ヘキ土地ニシテ此外六千八百八十六町九反四畝二十四步ノ山林反別アリ然レトモ是縣廳ノ周廻二十二里三十三町ノ地制ヲ起點トシテ其大差アル者ハ之ヲ斟酌シタルニ過キサレハ脱漏ノ地種多キハ云フマテモナシ又山林名稱アルモ其實地ニ臨

ノ古村跡及耕地跡等ヲ見ル察シトセス假ハ三分ノ一ハ反別ヲ指ス磯礫ノ地ト  
スルモ山林名稱ノ地ヲ開ケハ風土病ヲ洗除スルノ効アルノミナラス多クノ耕地  
ヲ得ルヤ必セリ然ル時ハ該島ノミニテ二千八百五十町歩ノ新耕地ヲ開拓スル易  
々ナルノミ

又タ全氏ノ調査ニ據ルニ石垣島ハ一戸平均シテ田畑宅地合反別九反五畝二十九  
歩ニ當ル

沖繩島ハ昨年ノ統計ニ據ルニ一戸平均三反十八歩ニ合ニ當ルトスレハ石垣ハ三  
倍ノ多キニ居ル

牧場地ハ一頭牛馬（牛馬）平均反別七反五畝〇四步七余トス是又沖繩島ノ原野  
ニ比スルトキハ耕地ノ一戸當リト同シク石垣ハ三倍ノ多キヲ占ム議者動モスレ  
ハ實地ヲ知ラス沖繩ハ土地肥沃先島ハ是レニ反シ物産ノ寡キヲ一証トス何ノ誤  
謬ノ甚シキヤ草生ノ宜シキハ丈ク三尺ヨリ五六尺以上ニ成長ス（我カ津輕地ノ  
上ニ成長セサル地）余等土質ヲ論スルノ學識ナキモ一見シテ其良地タルヲ斷言シテ  
憚ラス曩キニ田代安定氏ニ就キ石垣ト沖繩トノ地質上比較ヲ聞クニ上ノ上ヨリ

八重山  
ノ牧牛

中ノ中ニ坐ス之ヲ平均スレハ中ノ上ニ位スト云フ實地調査ノ學說モ其宜シキヲ  
証セリ揭テ世人ノ惑ヲ解ク

八重山全島ニ於ケル牧牛ハ一大有望ノ事業ナリ（二十四年十二月三十一日現在牛數  
十頭中三千三百四十四頭然レハ牛）人間ノ生育意ニ介セサル無智ノ人民何ソ牧牛  
ノ良否ヲ顧ンヤ然レトモ天然ニ任セ投棄シ置クノ牧場ニシテ其良種ナル但馬地  
方ノ牛種ニ比スヘシ是自ラ上帝島民ニ賦與スルノ一大洪福ナリ從來島民モ牧場  
時代ノ野蠻人トハ云ヒナカラ之ヲ貴重スルノ風習アリ其所以ヲ老農ニ問ヘハ左  
ニ答フ我等未タ金錢ノ必要ヲ感セス隨テ金錢ノ貴キヲ知ラス日常需用品ヲ購求  
スルニモ皆物品交換ナルヲ以テ后来ノ爲メ貯蓄スルニモ勢ヒ物品ヲ保存セザル  
ヘカラス然レトモ米麥ノ如キハ貯藏中腐敗又ハ虫害等アリテ不便ナリ之レニ反  
シテ牛馬ヲ蓄ヘハ年々繁殖ス假令疫病ニ罹リテ斃ル、モ未タ米粟ノ如キ損失少  
シ是レ島民ノ此業ヲ貴重スル所以ナリ殊ニ近來開墾者續々來島スルヲ以テ土地  
ヲ奪ハレノコトヲ恐テ牧場ヲ擴ムル處少ナカラス  
牧場ハ村ノ共有ニシテ他村所有トハ判然區別アリ然レトモ放牧ニハ自他村ノ別

ナク其監視ヲ村民同様ニ爲セハ何レノ地ニ放ツモ隨意ナリ然レトモ自村外ニ放牧スル者多クハ他村民ニ委託シテ五六年ノ后贖一頭ヲ與ヘテ報酬スルヲ常トス

八重山西表島船浮港ヨリ支那福州迄凡ソ百七十三海里餘凡八十六海里迄右大有丸船長ノ概測ナレハ大凡ソ里程ト知ルヘシ若シ后来石炭從前ノ如ク香港ニ輸出スルカ或ハ那覇ヨリ支那航路ヲ取ルノ時ニ際シ牛肉ヲ輸出スルトキハ一ノ貿易品トナルヤ必セリ是レ八重山牛種蕃殖改良大ヒニ望アルノ一大事業トス是迄來島耕作製糖ノ業ハ人多ク之ヲ唱フントモ未タ良牛アリテ牧蓄ノ習慣アルヲ唱導スル者ナキヲ以テ爰ニ掲ク

八重山糖業奨勵ニ關シ差向一大困難ナルハ神戸大阪エノ航海不便ニシテ運賃ノ高價ナル是レナリ之レ特別保護ヲ與ヘ石垣港ヨリ那覇迄砂糖一樽ニ付金二十五錢ノ運賃ヲ保護スルハ奨勵ノ最モ緊要ナルモノト思考セリ之レノミナラス神戸港ヨリ八重山地方ヘ移民セシムニ左ノ諸費ヲ要セリ  
一金十二圓 移民一人ニ付 神戸ヨリ八重山島迄  
神戶ノ下等乗船賃

全上一人ニ付 神戸鹿兒島那覇ノ諸港間一日金二十錢積ニテ  
一金四圓 全上一人ノ渡航費

小計金十七圓 全上一人ノ渡航費

他八重山那覇港間詳細ノ運賃ハ取調タレントモ附録ニ譲ル

特ニ八重山群島舊慣取扱上殘酷ニシテ人民一大困難ノ原素トナリ余ヲシテ感憤止ム能ハサラシムルハ水田ノナキ各村ニ米納ヲ命シ其村民ニ有病地ナル西表島ニ水田ヲ開カシメタル是ナリ鳩間島黒島竹富島新城島ノ四島ハ西表島ニ飛地耕耘セシム近クハ二海里遠クハ八九海里以上ヲ隔テ、列舟ニ乘リ黒潮ヲ涉リ求テ有病地ニ入ラシム抑我カ固有ノ業務ヲ抛テ往復數十日間ヲ徒費シ損得ノ勘定ヲモ考ヘス水田ヲ耕作セシムルハ何ソヤ其地ニ産セサル米ヲ以テ貢租トスルノ舊慣ナレハナリ昔ハ竹籠ヲ以テ暴惡人ノ水ヲ汲マシメタルヲ聞ク今ハ現ニ米ナキ地ノ人民ニ米ヲ納メシムルヲ見ル噫余カ此ノ實話ヲ聞カハ人誰カ八重山人民ノ爲メニ涕泣セサランヤ之レヲモ忍フヘシトセハ何事ヲカ忍フヘカラサラン識者以テ如何トス 其他石垣四表島ノ中ニモ水田ナキ村民水田ヲ三四里外ニ耕シニ行ナク實見セリ

八重山群島  
租山不  
當稅

石垣島風土病地ハ全島ノ東西北ノ三地方ニシテ人煙少ナク山岳ハ森林繁鬱シテ



石垣島  
牧場ニ  
北岸ニ  
移スヘシ

白晝日光ヲ見サル所アリ山中枯木堆積ノ腐敗ヲ來ス豁谷ハ落葉堆腐シ泥澤トナ  
ル河川亦然リ兩岸森林繁鬱シテ落葉枯木之ニ墳墓シ疏通ヲ欠ク故ニ水ハ汚濁色  
ヲ呈シ惡氣蒸々頗ル不快ヲ感セシム而テ東西北ノ地ハ山岳ニ近接シ平坦ノ地少  
ナキヲ以テ村落ノ如キハ凡テ海岸ニ沿フテ位ス然レトモ島ノ南方無病ノ地ハ其  
土地乾燥シテ石垣大原野南北直徑約一里位東西直徑ニ連リ山岳沼田河川等村落ニ  
遠隔ス八重山群島第一ノ要地ナリ今ヤ此要地ニ連接スル大原野ハ牧場トナレリ  
眞ニ惜ムヘキ哉曩キニ田村氏此四牧場ヲ平久保ノ山野ニ移スノ意見アリ余其原  
野ヲ放牧ニ任スルヲ惜ミ全島ヲ一周シテ以爲ラク本島北岸然モ有病地ノ巢窟ナ  
ル野底椋海川平三ヶ村六里二十六町三十三間ハ山脈ノ形勝ニ據リ其森林鬱茂ヲ  
剪伐燒棄シテ放牧場ニ變セハ只其牧地ヲ得ルノミナラス兼テ病毒ヲ驅除スルノ  
一良法ナルヤ必セリ

八重山群島創世ヨリ人口消長ノ沿革

八重山記ニ八重山之人、大荒之初、蒙々昧々、智機未開而未知有仁愛之道  
也、或臥于曠野、或住于深穴、居所不定、與禽獸同居、有勇力者自恃其勇、奪

人財物、有威勢者自倚其威、害人性命、欺老凌弱、無所不至、時農民有兄弟  
三人、長名曰眞種、增瑞、次名曰那他發、又次名曰平川瓦、兄弟雖俱善、而不  
及長兄矣、此人獨居于石城山、常信神明、不敢燬喪、一日中有靈光泰神出  
現于宮島山、今之宮島岳ト云フ人民ノ拜託宣曰、神者人之父母也、人者神之  
子也、人與人皆兄弟也、宜恭而有禮、吾視世人常好爭鬪、害人性命、如殺鳥  
獸、是誠神明之所厭也、何能爾耶、汝獨能常存善心、信神愛人、能合于神明、  
我方在宮島山爲汝永守終身之事矣、言訖不見、中于此山側結草庵、與隣  
家盡和睦、未嘗有鬪也、中遭凶年、獨免其苦焉、此豈非尊神明兄弟之故乎、  
故人亦見之深感其德、盡聚以爲村焉、此其始也、今之石垣登野城村即是  
也、

全記ニ往昔日本ノ女神當島思島岳ニ來住シテ屢奇瑞ヲ現ハス  
全記ニ往昔大濱村ニ兄弟二人アリ兄ヲ盡捲威弟ヲ幸地王金ト云フ共ニ力ヲ田畝  
ニ盡サントスルモ鐵農具ナキヲ憂ヒ小舟ヲ造リ薩州坊ノ津下町ニ至リ鐵器ヲ買  
フヲ歸ル下町ニアルトキ一老人ヨリ得タル櫃ニ就キ奇瑞アリシヲ以テ神トナシ

テ之ヲ祭ル大濱村崎原岳ハ其舊跡ナリ  
 全記ニ竹富村ノ島仲ナル者海ニ漂着セシ器物ニ倣ヒ始メテ舟ヲ造ル  
 慶田城由來記ニ八重山島ハ元中六年以前迄ハ宮古島仲宗根豐見親ノ支配ナリシ  
 ニ翌七年始テ中山察度王ニ入貢シ爾來百餘年間臣禮ヲ盡セシニ以下八重山記八重山  
 家譜見親明應九年大濱村於屋計赤蜂及保武瓦ノ二人叛心ヲ懷キ貢物ヲ中山ニ絶ツ  
 數年永正元年中山戰船五十餘艘ヲ發シ仲宗根父子ヲ先導トシ討テ之ヲ平ク仲宗  
 根ノ二男眞川金ハ戰功ニ依リ八重山頭ニ任セラル宮古ト兩島ノ頭職此時ヨリ始  
 ル仲宗根豐見親ノ名田大翁石垣村ニ任ス叛者ニ從ハス王師ヲ助ケシ功ヲ以テ西表島古  
 見村大村ニシテ或時ハ西表島ノ大首里大屋子ニ任セラル  
 八重山由來日記ニ永正七年今明治二十六年ヲ距ル慶田城改稱ス今ノ租納村ナリ租  
 納堂ナル者與那國島ノ與人官名職今ノトナル吏員與那國島在勤此時ヨリ始マル  
 八重山記ニ嘉靖年間本紙數字ナキヲ以テ日與那國島ノ酋長鬼虎ナル者己ノ武勇ト  
 地勢ノ險ヲ恃テ王化ニ服セス中山王宮古島仲宗根豐見親ヲ命シテ討テ之ヲ  
 平ク全家々譜往昔租納堂ナル者或日西表ノ高山ニ登テ西北ニ一島アルヲ認メ急

ニ兵船ヲ發シテ之ヲ討テ其酋長二三人ヲ擒ニシテ八重山ニ歸ル後八重山欵ヲ中  
 山ニ納ル、ニ及テ租納堂細カニ之ヲ奏シ遂ニ中山轄下ノ地トナル八重山記  
 慶長十六年八重山ノ嶮地ヲテセリ八重山島西濱田祖考伊地知慶長十四  
 年琉球既ニ服ス權山久高等略中以尙書王還自琉球神祖賞其功使領之  
 中愈布政令略是十月遣鹿島駿河守國重毛利内膳正元親市來小四郎  
 家治等十四人爲年奉行伊地知勝左衛門重房等百六十八人如先島分  
 丈量之略十六年二月六日抵都島七日始在田畝遍正經界島民嚮望莫  
 不股慄十三日正中伽泊二十六日抵八重山三月元親抵與那國而高連  
 長坊俊昌抵波照間五日重房在正八重山九日國重等正潮見西表皆水  
 田而無陸田九田等正水那島宮古之五月各島丈量完田籍皆成七月四  
 日皆發那霸八月八日全歸鹿兒島  
 寛永五年ヨリ租庸調ヲ上中下々ノ男女頭數ニ賦課セラル  
 全年全島ヲ三間切ニ分ツ  
 全九年始テ在番官ヲ置カル全十八年ヨリ慶安二年迄大和在番官ヲモ置カル蓋シ

外寇ニ備フル爲メナリ  
 正保三年全島ノ繪圖調製及竿入ノ爲メ鬼塚源左衛門外七名渡來シテ翌年歸リ  
 全四年八重山島人口五千四百八十二人  
 享保十七年黒島村人民四百余名ヲ川平村屬地野底野ニ分移シテ野底村ヲ新立ス  
 高那桃里南風見等ノ新村相續テ起リ以下之レヲ畧ス  
 延享元年始テ公費雇漢法醫ヲ置ク  
 寶曆三年人口二万六千二百八十五人  
 全十一年人口二万六千七百九十二人全十年ニハ二万六千二百八十二人前年ト比較スレ  
 以上三項ノ人口調ハ康熙年間及乾隆年間ノ參狀ニ係ル  
 明和八年三月海嘯ノ爲メ溺死セシ者九千八百八十八人ナリ牛馬六百廿六疋死亡  
 安永五年ヨリ全七年二月迄大饑饉ノ爲メ餓死セシモノ二千六百八十一人全年間  
 疫病ノ爲メ死セルモノ千五十二人右ノ年間盜喰セラントル牛馬千四百余頭ナリ  
 右ハ乾隆四十二年ノ御問合帳ノ寫ニ據ル  
 天明六年人口一万六千七十五人

享和二年疫病流行シ死亡四百二十五人天保五年麻疹ニテ六百三十六人死亡嘉永  
 五年疫病ニテ千八百四十三人死亡  
 安政元年八重山島人口調一万二千二百十六人  
 明治五年調人口一万七千七百九十八人  
 全二十五年調人口一万五千三百三十九人之ヲ以テ推セハ二十年間ニ三  
 右ハ役所ノ予カ質問ニ對シテ藏元ノ舊官簿ニテ調査ノ結果ニ出テタルモノナリ  
 ハ確實トス  
 又タ土人口碑ニヨレハ八重山群島ハ延徳二年今ヲ距ル四ノ頃ハ人口僅カニ男女  
 合シテ六百余人漸次増殖シテ明和以前ニ及ヒ切替畑ノ余地ナク山林ヲ開拓セサ  
 レハ不足ヲ生スルノ状態ナリシモ明和八年ノ海嘯ノ際溺死スル者多ク其狀ヲ聞  
 クニ暴波遠洋ヨリ荒卷キ來レリト是黒潮ノ近キヲ以テノ變カ爾來凶荒疫病麻疹  
 赤痢ノ流行アリテ現況トナレリ安永元辰年ノ調ニ三万六千六百六十二人トアル  
 ニ比セバ大略三分ノ二ニ近キ人口ノ減少ナリ  
 八重山群島後來拓殖ニ供スヘキ地籍概計左ニ統計ニ據ルル石垣島モ全シテ三十里  
 三百十五

八重山群島拓殖地  
新見反地

余アルモ亦二十里ノ  
統計ニ據ルト知ルヘシ

沖繩縣屬去二十三年ノ調査書ニ基ク

山林四万九百六十四町

明治五年役所ノ舊記ニ據ル

叢山二百二十五町六反五畝二十步

原野千九百二十五町步

役所統計ニ據ル

牧場五千九百三十六町一反步

縣廳最近ノ統計ニ據ル

荒地千六百七十七町五反六畝十七步

荒田三十九町三反六畝二十三步

右林山ヲ除キ叢山ヨリ荒田迄ノ五項ノ合反別九千二百九十三町六反九畝ハ後  
來八重山群島ニ於テ新拓殖ヲ設計スルノ而積ニシテ大過ナルヘシ尤モ面積ノ  
内三分ノ一ハ礫礫ノ地アリトスルモ尙四方餘町歩ノ山林面積ノ中ヨリ採取ス  
ルニ十分ノ餘地アリ一圓トナル原野十個位ニ過キス  
又八重山役所員ノ新タニ開墾見込地ハ則チ云フ全島荒蕪地ハ未タ實地ノ調査  
ナクハ詳細ヲ知ルニ由ナシト雖トモ有形ノマニテ大略二千九百三十九町餘

歩アルヘシ外ニ五千町餘ノ牧場ヲ改メハ三分ノ一即チ千六百町步位  
ハ新開地ヲ得ヘシ

八重山開墾ハ明治二十四年一月ニ規定セラレ爾來出願許可ヲ請クタルモノ十

八個所ノ多キニ及ヘトモ實地着手中ノ者ハ四少所ニ過キス其他ハ着手スルヤ

失敗或ハ未着手ナリ着手中ノ一等ナルハ尙家ノ開墾トス其他ハ資本欠乏漸ヤ

ク着手スル体ナリ中川虎之助田村熊治葛謙榮トス此三氏初圖ヲ改メス不撓不

屈ノ精神ヲ以テ勤勉スル時ハ後來必ス望アリ詳細ハ別録ニアリ

外國船來航ノ有無ヲ問フニ

西表島西北洋面ヲ遙望スルハ晴天ニハ漁船ノ日ニ數艘通航スルヲ認ルモ近海

ニ寄泊スル甚少ナシ佛佛戰爭ノ際兩國艦交ル々々與那國島近海ヘ投錨セシ爾

來清艦モ亦來ルコトナシト

八重山群島中九十歳以上ノ長壽者六名内女五名然シテ皆無病地ノ村落ニテ有病

地ノ人員多數ナルニ係ハラス長壽者一人モナシ尙ホ詳細ノ族籍分クハ別録ニ讓

ル

言辭風俗ノ一ニテ舉ゲニ昨年ノ事ヲ「コソ」御酒ノコトヲ「ミキ」ト唱ヘ敬神ノ情深ク

祭神ハ多數ノ神体ニシテ古昔ノ有徳者ノ遺跡ヲ崇拜ス神体ハ多ク無形ニ屬シ神坐ニハシメ細ヲ繞ラシ以テ靈場タルヲ別ツ又祭主ハ皆女子ニシテ御神ノ司サ又ハノロクモイト唱フ祭衣ハ白丁ニ等シキモノヲ用ヒ頸ニ曲玉ヲ懸ク又々神事ニ供スル線香洗米ミキ（一種ノ種ニシテ神酒ト唱フ其造釀ヲ開ケハ年餘十五六才ノ佛敎ハ儀式上纒カニ之ヲ用ルモ別ニ信者ハナシ佛敎ハ沖繩島ヨリ八重山ニ傳ヘ沖繩ヘ款ヲ入レシ以后ノヨトニ屬ス其以前ハ固有ノ神道ノミナリ其神道ノ始メハ開闢ノ際ニ關係ヲ帶ヒ今ノ土民ハ皆自ラ天降神ノ胤裔ト稱ス神ハ即チ有徳ノ人物ニシテ其人ノ魂魄ハ千歳不滅吉凶禍福皆神ノ所爲ニ係ル故ニ之ヲ尊崇セザルヲ得スト云フニアリ一郷一村一家一身ノ事皆神ニ依ラサルハナシ即チ神ヲ以テ島政ノ基礎トナシ治島齊家ノ要素ト爲ス其他古來唱ヘ來ル地名人名ノ如キ石垣島竹富島大濱村登野城村御宿ト云ヒ仲曾根豊見親ト云ヒ於屋計赤蜂ト云フ皆純然タル和訓ナルハ争フ可ラサル事實ナリ

島政ニ關シテハ種々ノ規定アル中ニ就キ行政執行ノ重ナル實典トナス帳記ヲ舉レハ左ノ如シ

八重山島規模帳

全農務帳

全諸締帳

全藏元公事帳

全諸村公事帳

全杣山財務帳

全船手坐公事帳

全諸物代付帳

右島政舊慣ニ關スル重ナル物ヲ掲ク島政ノ順序詳且ツ密ナル嘆賞スヘキモノ少ナカラス余原本ヲ謄寫シテ携ヘ歸リシモ浩瀚ニ涉ルヲ以テ之ヲ他日ニ譲ル

八重山群島ハ石垣島ヲ本島トシ屬島八島アリ

西表島 卷制周廻十五里

與那國島 全五里十町

波照間島 全三里二十町

琉球ノ西南界トス

琉球ノ南界トス

廢村  
名

小濱島 全三里  
 黒島 全二里二十町  
 新城島 全上離一里七十町合シテ二里一町  
 竹富島 全一里三十町  
 鳩間島 全二十二町  
 舊制慶長十六年檢入重山群島周廻石垣島ノ周廻十六四十六里〇二町ノ制ナルモ其倍數九十二里〇四町アルハ斷シテ疑ハス  
 余舊制十五里ノ西表島十六里ノ石垣島ヲ跋渉スルニ山谷離島ニ入り里數ヲ省キ通行順路ノミニテ常ニ三十里ニ及フ田代氏ノ實地丈量ニ徵スルモ亦然リ  
 入重山群島有病地村落二十五ヶ村ニテ數十年ヲ經ス廢村トナルヘキ病毒激烈ニシテ甚シク人口減少ノ村名ヲ左ニ掲ク  
 名藏村 崎枝村 元仲筋跡 浮海村 野底村  
 盛山村 桃里村 伊原間村 安良村 平久保村  
 千立村 浦内村 上原村 高那村 野原村

八重山  
宮古  
所  
ノ  
役  
所  
ノ  
比  
較

仲間村 南風見村 成屋村  
 計十八ヶ村トス  
 入重山群島  
 總戸數三千〇五十六  
 全人口一万五千三百三十九 内男七千二百二十五人 男女差引女ハ八百八十九人過  
 午後五時乘船役所員一統警察署長北川巡查等見送レリ全十一時抜錨  
 八月二十五日晴 八十九度  
 正午十二時宮古島漲水港ニ投錨上陸シ直チニ役所ニ至ル役所長退所セリ余竊ニ謂ラク入重山役所ハ役所長不在ノミナラズ平常ノ事務外別ニ繁雜ノ事ナキモ所員一統休暇スル人ナシ平常ハ前八時出頭後四時退下ニシテ定期船入港中三日或ハ六日位碇泊中ハ縣廳トノ關涉多キ爲メ所員一統燈火ヲ點シテ事務ヲ扱ヒ十時内外ニ及ヘリ然ルニ宮古島役所ハ所長既ニ退下シ所員モ亦タ退下ノ期ニ際セリ頭後一時而シテ該島ハ當春以來士族ト平民トノ軋轢アリ遂ニ前役所長ノ免職彼レ是レ全島人心洵々ノ際通常ノ暑中休暇ヲ以テ事務ヲ扱フ体ヲシテ甲乙相比ス

レハ甲ハ勤勉乙ハ懈怠一目シテ明ナリ次キニ警察署ニ至ル署長中馬幸吉氏初一  
統執掌繁忙察スルニ余リアリ

余亦先島々政ニ關スル某氏ノ意見ヲ得タリ左ニ掲ク

一先島ハ分頭税ナルカ爲メ舊慣人民ノ他ヘ移住スルヲ許サズ

二分頭税ナル故ニ未納者アルモ其財産ヲ差押エル能ハス若シ押ル時ハ戸數減シ

次年ヨリ納税ヲ欠クノ恐レアレンハナリ

三士族ノ分家ハ又士族ニ編入スルノ舊慣ナリ

后三時役所長ノ差圖ニテ勸業試驗場ニ投宿ス

八月二十六日雨

午前八時巡查上村賢一郎騎馬鄉導ス砂川間切西村試驗場ニ至ル西海岸川滿上地  
洲鎌ノ諸杜ヲ經テ南ニシ嘉手苜ノ大原野ヲ横斷ス土質黒色ニシテ砂石ヲ交ニ各  
所ニ点々大ナル岩石露出ス作物ヲ見ニ甘蔗能ク蕃茂ス嘉手苜村ノ舊村跡ヲ見ル  
今ハ石垣生垣等アリテ耕地トナルモ村勢西北ニ傾斜シ流水疏通ノ便ヲ欠ク故ニ  
湿地ニ屬ス一見其有病地タルヲ証ス二十余年前有病地ノ巢窟ナルヲ以テ之レヨ

東五町許リ隔テタル丘陵ヲ越テ高燥ノ地ニ移村セリ飲水ハ舊村ノ井水ヲ用ル  
モ爾來ハ病毒減少セリト云フ是ヨリ南海ニ接スル宮國村番所ニ着ス大雨ニテ全  
身ヲ浸ス土地ハ赤色ニシテ砂礫ヲ交ニ作物能ク繁生ス  
戸數百五十六内士族七戸他 人口八百四十四人男四百五十二人

仕上世坐上納高

粟高

合計百五石三斗八升五合七勺七才

牛百二十七疋内牝七十一疋

馬百八十五疋内牝九十二疋

按スルニ畜養天然ニ任セ牝ヲ増シ増殖ヲ進ルノ計ハ毫モ有ルナシ別ニ統計  
表アルヲ以テ略シテ記セス

御用留ヲ一見スルニ左ノ奇文アリ

藏元

口丙第三十號

藏元又ハ村番所執行ニ係ハル内法ノ内足車科鞭科策半込藏込寺入等ノ科罪ハ自  
今執行相成ラス總テ科料ノ米ニ換ヘ其經重ノ差等ヲ定メ認可ヲ受クヘシ

但足車其他器械ハ直チニ藏元へ没収スヘシ

明治二十五年九月三日

宮古島役所長氏名印

ル五丙第十九號

藏元

吏員ニシテ上納穀未納スル時ハ出務ヲ停止スル舊慣ニ有之候所自今右様ノ場合ハ其都度役姓名未納穀高等ヲ記シタル伺書ヲ差出シ認可ノ上ニ施行ス可キ義ト心得ヘシ

但既往出務停止ニ係ハルモノハ役姓名未納穀高等詳記ヲ速ニ届出ツヘシ

明治二十五年八月十七日

役所長姓名印

大雨少シク休ムヲ以テ出起シ新里村番所ニ着ク該村ハ本日晩ヨリ豊年祭ナルヲ以テ村吏一人モ居ラス番所ハ祭事ノ飾人形等準備ノ假事務所トナリ男女群ヲナセリ駐在所清巡查福崎芳彦來訪ス全人ノ導ク所トナリ宅所ニ至リ全氏ノ饗テ受ク全氏云フ海岸ニ居ントモ村民漁業ノ何タルヲ知ラス全島總テ生魚ヲ得ル稀ナリ役所元ヨリ此村迄ノ里程ハ四里〇二町〇四間三尺トス本村ハ馬糞替所ナルモ祭事ノ爲メ行クヲ欲セス同氏ノ力ニテ僅ニ馬ヲ賃スルヲ得タリ全二時出起砂

川村ニ至ル

戸數百〇四五士族人口五百二十五人男二百五十一人 女二百七十四人

牧場地四百二十七町三反二十六步此項縣廳統

牛五十八疋牝三十七疋 牝二十一疋

馬七十五疋牝三十五疋 牝四十疋

友利村右隣村

戸數百四十三七士族三

牧場地四百二十町二反二十六步此項縣廳統

牛九十八疋牝五十五疋 牝四十三疋

馬九十七疋牝四十九疋 牝四十八疋

該島又々牝牡ノ數當ヲ得ス繁殖ニ滯滞セシム友利福里ノ諸村ヲ經テ東南端ノ岬ナル砂川間切保良村番所ニ着ク番所ニハ三十余名ノ老人壯男蚶集最困難ヲ極ム請持巡查某出張シテ理由ヲ問ヘハ村民曰ク昨年藏元ノ割賦例年ヨリ多シ甚タ不當ナリ依テ此度藏元ニ各村聯合大會ヲ開キ其事由ヲ明瞭ニ認メサル内ハ本年



ノ割賦御下ク札ハ返上シテ請クシト云フニアリ  
納賃年々ノ經費ヲ各村毎ニ男女實  
ニ下クル例ナリ出張巡査ノ説ク所ハ昨年度ハ閏月アルヲ以テ一ヶ月分過納セルハ  
當然ノコトニテ別ニ疑フ可キニアラス割賦札ハ固ヨリ請クヘシ村民又曰ク當底割  
賦札ヲ受クルモ民力ニ堪ヘス依テ返上スルト斷然タル返答ナリ巡査モ要領ヲ得  
ス是ヨリ三里隔リタル駐在所ヘ歸ルト其論ス所眞率年若ノ巡査ナルモ熱心以テ  
説明セルニハ感服セリ昨日ハ平常ノ暑中休暇スル役所員ヲ見ル然モ是等ハ第一  
ニ役所員ノ担任スヘキ事務ト信スルナリ余島民カ斯ク迄發達セリトハ思ハスト  
云ヘハ巡査云フ昨年迄ハ平民ニハ斯様ノコトハアルコトナシ余四五年ノ間在職  
スルモ是迄ハ巡査出張説諭セハ心ニ不服アルモ直チニ承服スルハ通常ナリ然ル  
ニ當春來舊慣改良ノ中名子廢止等ニテ平民ノ負擔ヲ減スルト云フニ氣ヲ得テ勢  
ヲ張リ士族藏元吏員ニ向テ抵抗スル姿トナル然ルニ圖ラス平民ノ爲メテ計リタ  
ル先役所長ハ免職トナリ士族藏元吏員ハ大ニ悦ビ平民ハ之レニ反シテ新役所長  
ハ士族吏員ノ黨ナレハ我等益々壓制ヲ蒙リ民力休養ノ恩典ニ沐スル能ハス依テ  
先役所長ヲ再勤セシメ初志ヲ貫クト一二ノ煽動者尻押セルト云フ各村ノ中保良

福里新城ノ三ヶ村ハ主唱セリト云フ

保良村ハ役所元ヲ去ルコト六里余該島ノ東南端ニ位ス巾一里丈ク一里ノ原野アリ昔時ハ牧場ナルモ今ハ有名無實ナリ凸凹岩石ヲ以テ半ハ葦仕立位ニ過キス然レトモ嘉手蒔ニ次ク大原野ナリ番所ノ帳簿ヲ驗ス左ニ掲ク

村敷地四町五反五畝歩 戸數百三十九 人口七百六十四 牧場地二十四町四反一畝二十歩 此項縣廳統計ニナシ

里山九町六反五ヶ所

營生地三十四町七反五畝歩

芦生地一町八反五畝十一歩

原野三十八町九歩 字割目

全二百六十七町三反八歩 字七又原 内耕地二十六町九歩

全四百七十六町三反三畝二十歩 字復原 内耕地四十七町三反七畝歩

全二十七町五反六畝十五歩 字七又原 内耕地五町二反五畝二十歩

全八町三反三畝十歩 字小濱

明治二十五年四月

保良村番所詰目差垣花惠章

三百二十八

與人 下地 惠守

原野五ヶ所八百十七町五反九畝二歩之レニ牧場地里山蓋生地芦生地ノ四項  
目ノ反別ヲ加ヘ畑開墾地ヲ引去リ殘反別八百〇九町二反五畝〇四歩此三分  
ノ一ヲ確不毛ノ地トスルモ尙ホ一ヶ村ニテ五百町歩ノ新開地ヲ得ル容易  
ナリトス然ルニ役所ノ測ニ據ンハ三間切一嶋ノ新墾シ得ヘキ原野反別測ニ  
二百六町六反六畝十六歩ト書出セリ勿論コノ保良村ノ如キハ村名原野共記  
載セス

五時保良ノ南海ヨリ東海岸ヘ牧場地ヲ直線ニ横斷ス赤黒土ニ砂石ヲ混シ豊草馬  
腹ヲ蔽フ岩石ヲ除クノ外ハ中等以上ノ良地ナリ六時新城村番所ヘ著ク壯丁亦群  
集器々ス比嘉村ニ至リ日暮ル月明ニ乘シ東方遙ニ長間村ノ福地原宮間根間ノ大  
原野ヲ望ム馬上冷氣ヲ感ス腰ニ泡盛酒アルモ足患ノ爲メ呑ム能ハス馬ハ新城村  
ニテ糞キタルモ困憊シテ進マヌ夜十一時辛シテ西村試驗場ニ着ク本日通行ノ里  
程十五里二町五十七間番所ヲ訪問スル五ヶ所騎馬ヲ替ル三回村ヲ歴ル十三三間

切ノ内唯北部平良間切ノ内狩俣村ニ至ラス

余宮古元試驗場ノ明キ屋ヲ借りテ二泊ス小使一人ヲ雇フモ前夜モ夜遊シテ内  
ニアラス食物ハ三飯共辨當ニテ茶屋ヨリ持込メリ翌朝七時ニ漸ヤク歸ンリ啼  
々陳謝スルノミ本夜十一時歸泊スルモ亦タ居ラス余疲勞ノ極カ食氣絶ヘ僅カ  
巡查ノ厚意ニテ鶏卵二顆ヲ香テ寢ニ就ク翌朝早く起キ乗船セントスルモ困憊  
甚タ動作ニ苦ム七時小使歸リ來リ啼々又陳謝スル前日ト異ナラス凡ソ下等土  
人ノ無神經ナル一端ヲ徴スヘシ

宮古島ハ舊制周廻十一里七町二十間縣誌ノ統計役所ヲ用ルト雖トモ本日通行ノ  
間之レニヨル里程ヨリ推測スレハ斷シテ周廻二十里ノ大島ナルコトヲ知ルニ余リアリ故ハ本  
日見サル北部ノ一端ハ狩俣岬迄里程四里半此巾約凡ソ十五町平均アリト云ヘハ  
二十里以上ノ面積アルヤ明カナリ  
全島地勢ハ南ヨリ北ニ向ヒ二ヶノ小山脈アルモ最高ヨリ算スルモ海面ヨリ百尺  
ニ過キス故ニ遠洋ニアリテ山有ルヲ見ス從テ川流ナク樹木ナク薪炭ノ如キハ日  
常八重山島ヨリ仰クアリ

三百二十九

宮古群島ハ宮古島ヲ本島トシ屬島七島アリ沖繩縣ニハ平良島周廻四里二十丁ノ一チ加ヘテ屬島八島トアルトモ實地ニ於テ平良島ヲ見ス恐クハ編者ノ想像島ナランカ

伊良部島 舊制周廻四里二十町

多良間島 全四里

下地島 全一里二十町

池間島 全一里八町

來間島 全一里

水納島 全一里

大神島 全三十町

舊制宮古群島周廻本島ヲ二十五里十三町二十間ノ制ナルモ其倍數五十里〇二十六町四十間アルハ斷シテ疑ハス

宮古群島 總戶數七千二百三十八

全人口三万五千〇四十六人 内 男一万七千七百八十二人 女一萬七千七百八十二人

行政區畫三十八ヶ村ヲ三間切一島ニ分割シ之ヲ藏元ニ一轄ス其上ニ役所アリ藏元ノ下ニハ村番所アリテ役所藏元ノ指揮監督ヲ請シ

役所員六名 内 二百十三名ハ無給職員ニシテ星切ト唱フルル勤日數ヲ以テ有給吏トナル

藏元吏員二百七十五名 内 三十九名ハ無給職員ニシテ前項ニ全シ

村番所吏員百七十六名 内 三十九名ハ無給職員ニシテ前項ニ全シ

吏員合計四百五十七名

按スルニ六名ノ役所員ヲシテ言語風俗異ナル四百五十餘名ノ舊慣深染ノ俗吏ニ臨ム千百ノ達ヲ出スモ尼大不振其功ヲ得サル偶然ニアラス幸ニシテ改革ノ氣運至リ壓制ノ下ニ生息セル平民新政ヲ慕フノ萌芽アリ士族吏員ト抵抗シ壓力トナルハ政局ニ當ル者最モ留意スヘキ所ナリ

宮古群島後來拓殖ニ供スヘキ地籍概計左ニ

但慶長檢地后ハ精確ノ測ナキヲ以テ舊地制ニ基キタル明治二十三年沖繩縣統計ニ據ル

新墾見込

宮古群島原野反別三千百十九町七反歩該島ハ山ナク川ナク中間ニ個ノ小山脈アリテ又ノ不耕地面積ハ四千三百〇八町一反

三百三十一

宮古群  
拓殖新  
島凡  
反別

三百三十二

牛馬ハ元ヨリナシトモ牛馬ハ少ナカラサレハ倍數ハ余カ陔涉踏査ノ地モ二千町歩以  
上アリ嘉手菊ノ原野砂川友利ノ兩牧場地保良ノ大原野比嘉西里添長間ノ大原  
野東仲會根ノ大原野七ヶ所ノ大原野凡ソ一ヶ村ニシテ八百町歩以上アリ少ナ  
クモ二三百町歩ニ下ラス合シテ二千町歩トス又一見セサルモ本島北部ノ大浦  
島尻兩村ノ原野三百町歩位屬島伊良部島ニハ一里四方ノ大原野町歩以上五十合  
計三千八百五十町歩此警察署及藏元吏ニ就テ概計ヲ調ルノミニ斯クノ如クナ  
レハ前二項ニ照シテ三分ノ一ヲ岩石地トナスモ尙モ二千町歩以上ノ新墾地ヲ  
得ヘキナリ

牧場反別百四十三町四反 屬島伊良部下地 統計ニハ唯コノ一個ノミ  
余カ實査ノ際見タル牧場調ノミニラモ宮國砂川友利保良四ヶ所合反別 帳簿ニ  
八百四十八町九反五畝十二歩トナル之ニ縣廳統計ニアル離島ノ牧場反別ヲ  
加ヘハ其反別九百九十二町三反五畝十二歩アリ

牛二千九百三十二頭 牝千四百六十二頭 馬三千五百十二頭 牛馬合計 六千四百四十五頭  
按スルニ不其見ルヘカヲサルノ馬數極メテ多ク土地ニ適當セル其牛反ヲ少ナ

其蒙昧異ニ憫ムヘキモノアリ  
今兩先島ノ記ヲ終ノトスルニ當リ之ヲ概轄スレハ八重山ハ行政上ノ指揮統ヲ進  
行セリ宮古ハ之レニ反シ四五年前八重山ニテ改良ヲ加ヘタル者ヲ宮古ニテハ  
昨今年漸ヤク着手スル者多シコレ役所長次下八重山ニ適當ノ人ヲ得テ宮古ハ  
之レニ及ハサルナルヘシ而シテ人民ノ氣風ニ至リテハ創草ノ古ヨリ宮古ハ八  
重山ノ先覺タルニ依ルカ各村上中下ノ位付ノ如キハ八重山ヨリ一步進メル方  
ニテ少シク希望尙尙ニ向フノ現況ナリ其他宗教ヨリ衣食住共大同小異ナルヲ  
以テ別ニ掲ケス讀者之ヲ了セヨ

八月二十七日晴 八十六度

午前八時乘船ス役所長警察署長其他兩三名見送レリ終日食喉ヲ下ラス横臥スルノミ

全 二十八日晴 八十全三度六分

午前七時那覇港ニ歸着ス淺田方ニ投宿ス七月五日當港振錫八重山ニ渡航セシヨ

リ日數凡ソ五十五日

午前八時奈良原縣知事田中警部長今西參事官來訪ス面會互ヒニ無事ヲ賀ス一昨

三百三十三

夜ヨリノ絶食ヲ以テ顔色憔悴身体疲勞一層甚シキヲ覺テ車ヲ走セ病院ニ至リ診察ヲ請テ醫師云フ炎熱ノ候八重山有病地ヲ數十日間咳跡シ食物平常ニ殊ナルトヨリ身体既ニ幾分ノ異狀ニ感シ衰弱セルニモ拘ラズ宮古島一日一週ノ激動ヲ爲スカ如キハ之レ乱暴ニ失スルノ舉動ナリ猶ホ風土病ニ罹ラサルハ僥倖ト云フヘシ然トモ此ノ衰弱ニ乘シ感染ノ恐レナシトセズ暫ク保養シ元氣ノ恢復ヲ計ルヘシト忠告セラル且ツ云フ有病地ニ感セス本地ニ歸リ數日ヲ經テ發病スルノ人アリ又歸京後發病シタル例モ少ナカラサレハ注意スヘシト教ヘラル

正午十二時薄粥一椀ヲ喫ス晚食又全シ

田中氏再ヒ來訪シ知事ノ厚志ヲ通ス曰旅店ハ雜沓ナレハ保養上ニ宜シカラズ閑靜ノ地ニ移リ保養然ル可シト進ム予懇命辱ナキヲ謝シテ之レヲ辭ス

八月二十九日晴 九十度六分

終日病瘳ニアリ知人代謝來リ看ル

全 三十日晴 九十度五分

全 三十一日雨 八十八度七分

九月一日風雨強シ 七十九度八分

食氣初メテ復ス粥ヲ廢シ飯ニ換ニ稍輕快ヲ覺フルヲ以テ休養セリ

熊本縣士族野田正氏昨夜着港ノ由ヲ以テ來訪セラル全行五人漁夫十一名漁船二艘ヲ搭載シ來ルト全氏在京ノ節ハ某新聞ニ從事シ歸縣後熊本新聞ノ主筆トナルモ思フ所アリテ南島拓殖ニ志シ第一若ニ琉球西南洋無人島胡塲島ニ於テ漁業ヲ試開シ尙ホ進ンテ各所ノ無人島ヲ探險シ好所ヲ撰テ根居ヲ据ヘ大ヒニ南洋遺利ヲ収メントス全行原田嘉久次氏ハ過ル二十三年ヨリ大島ニ渡リ山林及製鹽ノ業ニ従事セル人ニテ今般野田氏等ノ一行ト資正ノ事アリテ來會セルナリト示來胸襟ヲ開キ拓殖ノ事ヲ謀ル按スルニ當今政事家ナル者ハ各々某ノ派某ノ黨ト稱シ互ヒニ黨員ヲ募集シ之レニ雷同スル者ハ僻遠村落ノ子弟ヨリ其業ヲ抛テ毎年數十百金ヲ空費シ分陰可惜ノ時間ヲ徒消ス何ソ其レ思フ無キノ甚キヤ若シ此人ヲシテ此金此時間ヲ以テ進テ斯クノ如キ事業ヲ爲スカ若クハ人ヲ助ケ爲サシムルカニ改メハ國家ノ富強期セスンテ見ルヲ得ヘシ事爰ニ出テスシテ政熱競争ニ途ニ奴隸下ナル豈ニ嘆スヘキニアラズヤ

一日警官來訪ス余曰ク此行中各島及沖繩地方ノ湯屋ニ數々入浴シ地方人ヲ見ルニ  
十中ノ七八分、皆四体ニ瘡毒ノ痕跡有ルヲ見ル沖繩縣ハ微毒ノ巢窟ト思ハル、如何  
警官應シテ曰ク本縣四拾餘万ノ人民中男ノ丁壯六分ハ其毒ニ罹レリ其根原ハ  
三千余人ノ娼妓アリテ微毒検査法ナルモノナシ是本毒ノ全縣下ニ漫延スル所以  
ナリ從來本署ニモ一時其論起リタレトモ今日迄其實行ヲ見ル能ハス今尙此毒ヲ  
放棄シテ人命ヲ傷フヲ顧ミス疑キニ徵兵ノ下ヲ検査ヲ試ミタルニ適當者ハ百ニ  
二三ヨリ有ル無シ云々嘗テ之レヲ一通人ニ問フ今此娼妓ニ微毒検査法ヲ實施セ  
ハ如何ト答テ曰ク一時六分通ノ娼妓ハ鑑札ヲ返納シ廢業ニ至ルヘシ之ヲ憚リテ  
未タ實行ニ至ラサルナリ云々

附記明治廿六年一月一日那覇警察署調ニ貸座敷三ヶ所貸座敷營業戶六百三十五  
戸 娼妓千五百七十一人

藝妓七十二人 内三十八人土人 他府縣人

右ハ鑑札ヲ持テ正式ノ者トス其他密賣者ハ千三四百人ニ居ルト云フ畢竟娼妓鑑  
札ハ年齡滿十六才ニ至ラザレハ許可セザルノ制アルヲ以テ十四五才ナル小女

ノ密賣淫尤モ多キカ爲ナリ

斯ノ如キ多數ノ貸座敷ナルニ新タニ一遊ヲ試ミント欲スルモ得ヘカラス何トナ  
レハ舊來ノ顧客ノ外ハ決シテ登樓ヲ許サス若シ強テ遊ハントスレハ先ツ舊來ノ  
顧客ニ紹介ヲ願ミ姓名宿所ヲ貸座敷ニ通ス先ツ貸座敷主人ハ密ニ人ヲ以テ其宿  
所ヨリ其ノ爲ス所及ヒ族籍姓名年齡ニ至ルマテ詳細ニ之レヲ取調然ル後新客某  
何日何時ニ參ル様紹介シ顧客ニ對シ返答シ此承諾紹介無クシハ何程黃金アルモ  
容易ニ上ルコトヲ許サス又タ娼妓モ他府縣ノ娼妓ト甚異ナリ人ニ接スルニ情ヲ  
賣リ媚ヲ呈ルノ意ナク假令ヒ途上ニ舊好ノ男子ト邂逅スルモ敢テ一言ヲ交ヘス  
知ラサルマテシテ通過スルナリ余怪ミニ堪ヘス某ノ通人ニ問フ曰女郎ニシテ情  
ヲ賣ラサルハ豈ニ商賣ニ迂ナル者ナラスヤ通人曰ク那覇娼妓實況ハ他府縣ノ妾  
ノ如キモノナリ娼妓トイヘトモ六七人或ハ三四人ノ常客ヲ有シ日割ヲ以テ快樂  
ヲ賣リ其他妾ニ新客ニ接スルヲ好マス娼妓ハ身親ヲ酒肴ヲ調理シ手輕親切ヲ元  
トシ他府縣貸座敷ヤ娼妓風ト正反對ナリ又顧客ハ娼妓ノ等位ニヨリ上等モ一ク  
月六七圓ヨリ下等二三圓ヲ月給ノ如クニ與フルヲ通常トス

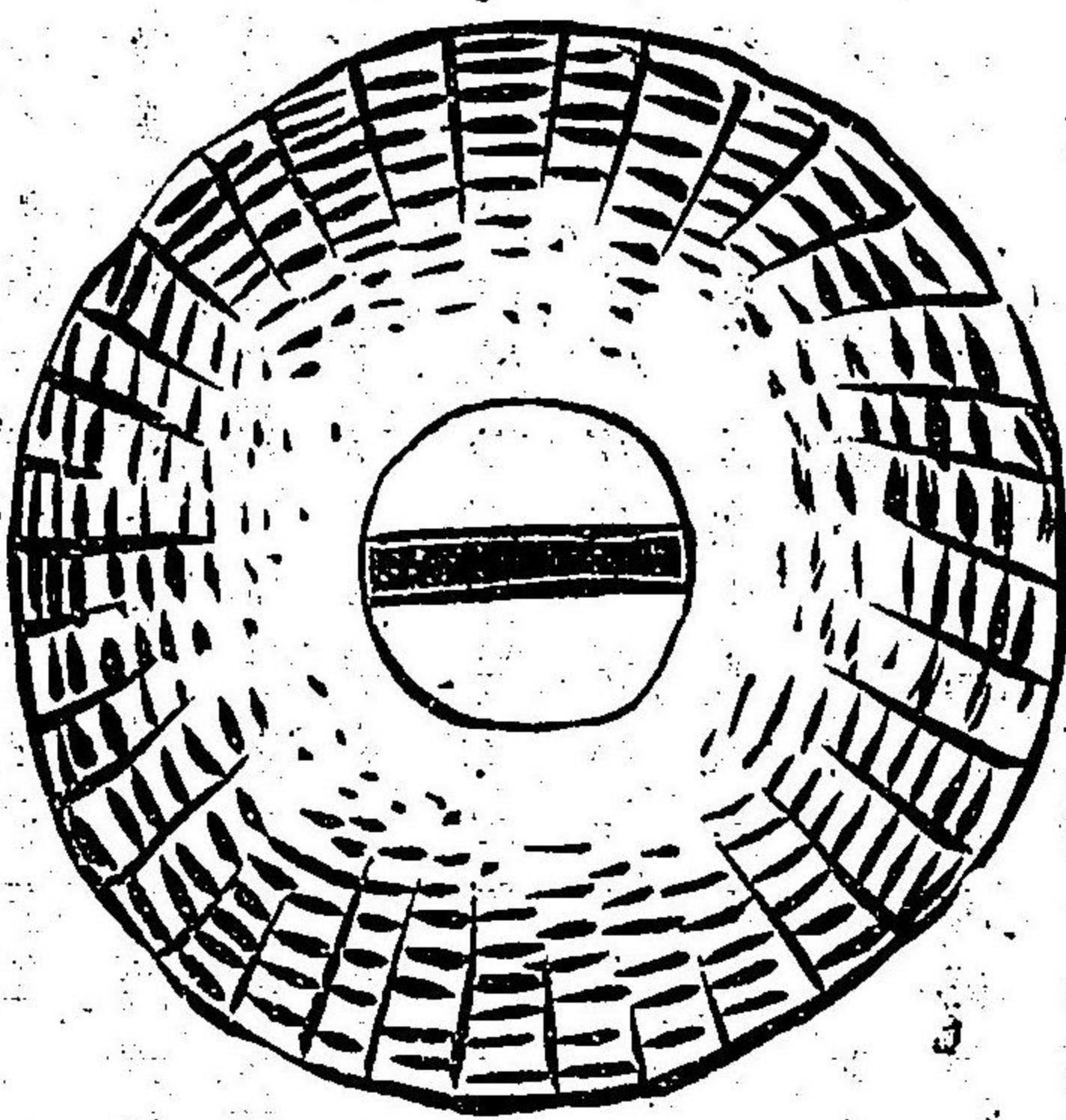
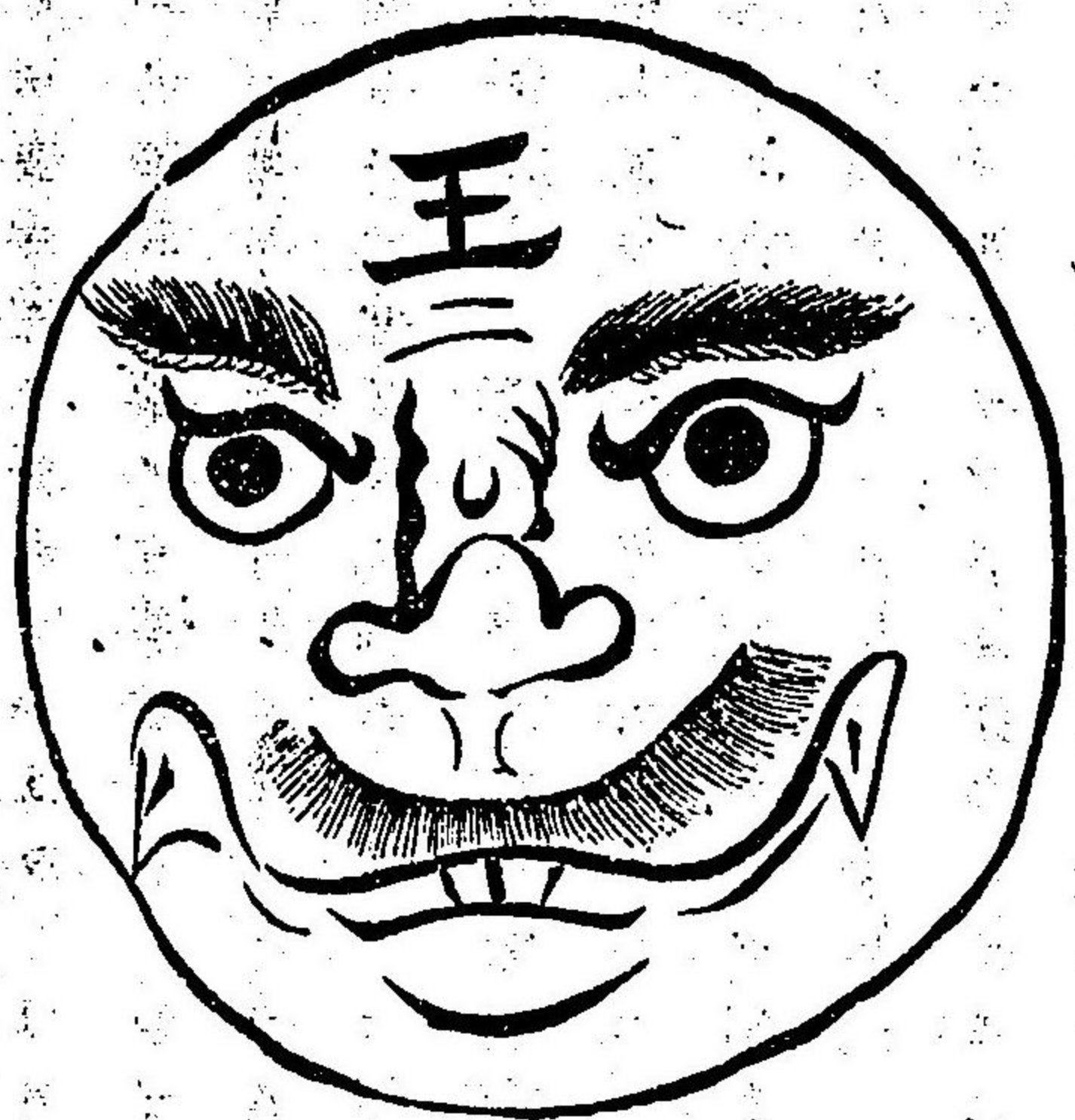
九月二日強風雨 八十三度三分

三百三十八

臥膝古武器ノ一種左ノ如キヲ見ル

方言サイト云フ

右圖ノ如ク鐵ニテ製シ一尺四寸片手ニテ使用スヘシ鋒敵兩用スヘシ又藤牌楯ニ用ニ其眞形ヲ見ル



圖ノ如クニシテ統横三尺位莖ヲ以テ作り漆ニテ鬼面ヲ蓄ク戰時左手ニ之ヲ掲ケ  
ヲ楯ト爲シ右手ニ大刀ヲ振ヒ矢玉刀槍ヲ防クト云フ  
或人曰ク沖繩ノ武器ト稱スルモノハ概テ玩具ニ等シク殆ント實用ニ適スルモノ  
ナシ左ニ屬和録ノ一節ヲ舉ク

前畧通商ノ者トモ彼背具蛇皮ノ胴丸ヲ薩摩へ渡シケルニ武藏守一氏之ヲ島津入  
道龍伯ノ御前ニ持參シテ此兵具ヲ御覽遊ハサレ候へ細工ハ巧ミニ見事ナントモ  
一度軍中ノ用ニ當ルトキハ背具折レ漆碎クテ永陣ノ用ニハ立チ難シ琉球ノ武邊  
サント知ラル、事多ク候漆ヲ妙巧ニ使テ輕キヲ專ラトスルハ琉球元ト水國ニシ  
テ水ヲ渡リ或ハ溪ニ落入ル道多シト思ハシタリ山急ニ立チ水間切ヲ廻ラハ此ノ  
如キ武器如何ニモ身ノ用ニハ宜シカルヘシ然レトモ古人モ言フ如ク水ニ利アル  
モノハ火ニ利アラス若シ強ク火攻ヲ用ヒテ大ニ破ラハ彼國何ヲ以テカ防クコト  
ヲ得云々

縣廳編纂掛主任親泊朝啓(琉球)來訪ス談武器及其沿革ニ及フ氏曰フ往古ハ刀鞘弓  
箭劍銃ヲ用ユ然トモ地方素ヨリ鐵ヲキテ以テ多クハ骨角ヲ用ヒ材料ヲ助ク

三百三十九

又兜甲鍔古ハ紵及樹皮ヲ編テ造リ或ハ獸皮ヲ用ユ其後他府縣人ニ倣ヒ鎮製ニスルト云フ中古已來ノ武器ハ刀鎗長刀弓箭石火矢鉄炮火繩火繩 坩燒壺十手捕細棒柔術皆他府縣ニ全シ

王子按司ハ舊藩行列中槍ヲ立ツ三司官ハ長刀ヲ用ユ總テ槍長刀ハ士家ノ表道具ノ如シ

武器ヲ廢スル年代舊記ヲ取調タルモ明文ナシ然トモ慶長年代薩州ノ命ニ依テ廢スルナラントノ口碑ニ傳ヘリト

或人曰尙真王大永年中按司ノ地方ニ割據スルヲ廢シ皆聚テ首里ニ居ラシメ兵柄ヲ解散ストアリ又刀劍弓矢之屬ヲ藏シテ以テ護國ノ具ト爲スト中山世譜ニ明文アリ其後若那ノ徒守禮ノ二字ヲ忘却シ生マ兵法ニ此廢器ヲ弄シテ大ニ國ヲ誤リタルヨリ更ニ之ヲ嚴藏セシニ過キス

余琉球全般ヲ通觀スルニ總戶數八万五千九百七十七士族戶數二万二千九百二十九總戶數ニ對スルモ其數少ナカラストモ古制兵ヲ廢ニ寓スルノ意ト見得群島要衝ノ地皆士族アリ然シテ中古以來一切ノ武ヲ廢シ教化專ヲ文弱ニ導キ敵愾興復

ノ志氣ヲ去ラシメ柔順奉承スルヲ政畧ノ一要秘訣トナス習ヒ性トナリ名ハ士族タルモ毫モ士族ノ氣韻ナシ唯其殊ナルモノハ平氏ニ對シ之レテ奴隸視スルニ惡習ノ存スルヲ見ルノミ嘆ス可キカナ

或人曰沖繩ノ士族ハ置縣ノ際其性質ヲ極メス單ニ赤冠銀簪即チ以上ノ位階ヲ有スル者ヲ以テ士族トシ無冠ヲ平民ト爲セシモノナリ按スルニ永正六年尙真冠簪ノ制ヲ創設セシハ上下貴賤ノ分ヲ定タルモノニシテ位階ニ過キサルナリ農工ニシテ其業務上ノ功勞ニ依リ筑登之ノ位階ヲ受クルモノ亦寡カラス士族ト稱スルモ幕府世祿ノ武士トハ大ニ其趣ヲ異ニセリ故ニ今日ノ士族ヲ見テ直チニ兵農ノ古制ナリト推斷スル能ハサルナリ

九月三日強風雨 八十四度二分

午前六時明治橋墜落ス(那覇ノ南端那覇港口ノ上端ニアリ明治十六年)溺死男一人アリ此際奈良原知事直チニ風雨ヲ冒シテ諸般ヲ指揮ス職務當然トハ云ヒナカラ民政ヲ重スルノ風欽スヘキナリ當地有志者熊本縣士族野田正等一行ノ壯舉ヲ悅ヒ酒宴ヲ開キ送意ヲ表スルモノ比々アリ余之レヲ欲セス機那九三百粒ヲ調製シテ之



レテ贈ル 笹田國頭役所長集會トシテ出張余ト全宿ス  
全月四日風雨 八十三度六分

病愈ニ知事警部長ヲ訪ヒ病中ノ厚意ヲ謝ス午後熊本縣人無人島行キ一行ト共ニ  
警部長ノ懇應ヲ請ク全十一時歡ヲ盡シテ衆客散會ス余獨リ留リ舊情ヲ談ス田中  
氏ハ余ト全郷全年ニシテ竹馬ノ友タリ孤客病餘ノ身ヲ以テ天涯ニ在リ爰ニ舊知  
ニ會シ歡噓極リナク談笑時ヲ移シ恨々トシテ辭スルヲ得ス余カ調査モ大半結了  
シ日ナラス此地ヲ去テ將サニ故郷ニ還ラントス愴恨中懐ニ切ニシテ覺エス涙裝  
ヲ霑ス鷄鳴晨ヲ報シ東方既ニ白途ニ緘月ヲ踏シテ客舎ニ歸ル

全五日晴 八十六度七分

正午十二時八重山役所長太田祥介氏歸任(取調物ヲ京地山起前數々面晤シ先島ノ現況  
ヲ無入島漁業家野田正氏ノ先島行ヲ送ル)  
全二時今西參事官與川典獄ニ至リ答禮ス

午後六時知事ノ招請ヲ得テ那覇辻村某樓ニ至ル參事官及各役所長モ來筵セリ知  
事其妾ト主人ト爲ル茶菓先ツ出ツ主人余ニ謂テ曰ク如斯場所ハ今ヲ初トスルヲ

ルヘシト余ハ既ニ數百回モ登樓セシヲ以テ能ク情况ヲ知レルヲ以テ答テ一塵皆  
大ニ笑フ此樓ノ構造ナルヤ四周繞ラスニ丈餘ノ石垣ヲ以テセリ垣ヲ去ル僅カニ  
一尺許ニシテ尺餘ノ椽ニ接ス軒ハ垣ヨリ卑キヨト三四尺故ニ室內晝尙ホ暗ク且  
蒸熱甚シ酒席臥房一室ニ兼用ス内部ノ裝飾ハ敢テ異ナルナキモ究屈言ハソ方無  
シ之レヲ監獄ニ比シテ大差ナカルヘシ是ヲ土人快樂ヲ買フ上等ノ場トス組織數  
番ヲ演シ助クルニ太鼓ドラ蛇皮線胡弓等ヲ以テス余言語通セサレハ其歌ハ何ヲ  
ルヲ解セサルモ忠臣義士節婦義僕ヲ演スルナルヘシ然シテ舞妓ノ風樣野鄙ナラ  
ス溫柔悠美ニシテ節度アリ恰モ能ニ近カシ此偏陬ノ地ニシテ斯カル高尙ナル嬌  
歌妙舞アラントハ演劇改良ヲ以テ任スル者ヲシテ一見セシメハ其益ヲ得ルヤ少  
クニアラサルヘシ

茶菓ニ次テ山海ノ珍味ヲ列ス其調理ノ主部ヲ占ムルハ豚肉トス余不幸ニシテ足  
患未タ愈ヘスシテ肉食ヲ禁セラル遺憾何ソ限チカラシ地方豚肉一種ヲ以テ幾十種  
ノ珍膳ヲ供スルニ足ルト云フ能ク硬ヲ變シテ軟トナシ啻ニ硬軟意ニ隨ノミナラ  
ス酸ノ度ニ適スル等豚肉調理ノ精密ナル肉食ヲ主トスル西洋人モ恐クハ一步ヲ

讓ラシ其道ニ長セル庖厨家ヲシテニ度味ヲコトテ得セシメハ其發達ヲ助クル亦  
少々ニアラサルナリ今夕知事ノ饗ハ各役所長ヲ知テ辱フスルノ益ノミナラス未  
ク曾テ見サル土人ノ長技ヲ見未ク曾テ味ハサルノ調理ヲ味フ故ニ喜ソテ其實況  
ヲ配ス

九月六日雨 八十五度六分

午前木村代三郎來訪ス(元沖繩縣書記)

或人曰ク舊來歴史等ニハ風俗純朴杯トアレントモ其薄情ナル徴ヲシトセス置縣以  
來上下ニ官スルモノ毎年出入凡メ一ケ年一百人ニ下ラス明治十二年ヨリ全二十  
二年マテ一千余人然シテ一人トシテ當地ニ藉ヲ殘ス者ナシ商人ト雖モ皆一時ノ  
寄留ニシテ奇貨居クハ本籍ニ歸リ去リ又藉ヲ終身止ムル者一人モナシ是レ獨リ風  
俗言語異ナルノミナラス其薄情ナル嫌ヒナキ能ハス苟モ相愛スルノ情ナクハ  
外國ニ寄留スル如ク彼ハ我ヲ以テ外人ノ如クナシ多數ノ土人此感アルハ我モ亦  
タ彼ヲ以テ人外トナスヤノ傾キアリ故ニ仕官ヲ止ムレハ直チニ去リ返テ鹿兒島  
ニ止マルカ薩土ニ歸ルヲ常トス又當地ニ奉職スル人商人等土人ノ女子ヲ妻妾ト

スルモ其古土ニ歸ルヤ誰一人トシテ隨伴セルモノナシ故ニ官吏中ニ當地ニ奉職  
中出生兒子ハ毎月仕送セル者四五名アルモ決シテ婦人ハ止リテ行カス日本人ト  
琉球人ト混和セサル真ニ特異ノ情狀アルハ歐米外人ヨリハ一層甚シキヲ見ルヘ  
シ又云フ古昔爲朝大里按司ノ妹ヲ共ニシ本州ニ歸ラントス海荒テ果ス能ハス爾  
來女人本州ニ行クハ海神ノ忌ム所トナス是ヨリ女人本州ニ渡ラサル風俗ヲ爲セ  
リ又昨年ノ裁判所扱事務ハ刑事凡ソ二百件余民事凡ソ二百件余合シテ四百二十二  
件位ナリ内刑事ニハ竊盜多シ民事ニハ無盡貸借ヲ多シトス當地ノ婦女子専ラ商  
業ヲ營ムヲ以テ訴訟上女子貸借ヲ極メテ多シトス僅ニ三十錢ノ金錢ヲ以テ判官  
ノ面前ニ腕力ニ訴ヘ或ハ誓ヲ捧ミ合フハ往々見ル所ナリ

國家ノ觀念等ハ寡ナシ外觀質朴ヲ裝フテ其小利欲ノ爭ハ兒童モ徒ナラス午后首  
里ノ西役所長ヲ訪ハントス那覇沿道ノ各家門前ニ席ヲ敷キ男女列テ正シテ坐ス  
其故ヲ問フ本日知事ノ招請ニテ尙典一族ノ行アリ皆コレヲ拜スルカ爲メナリト  
西役所長ハ先導者タルヲ以テ不在ナリ歸途黒岩教諭ヲ問フ氏面話シ云フ昨年十  
月二十日ヨリ全十一月二日迄米國人トクトル「ゴハン」氏ノ舉動ヲ知ラス

氏ハ七十余ノ老入ニシテ今ヲ去ル三十二年前始メテ上海ヨリ長崎へ渡航シ再  
 支那ニ渡リ爾來久シク全地ニ居リ李氏ノ幕賓トナリ遂ニ李氏ノ意ヲ承ケテ長  
 崎ニ渡リ縣廳ノ紹介ヲ以テ通辨ヲ雇ヒ全航シテ沖繩ニ入り琉球ノ現狀ヲ觀察ス  
 ルニ那覇首里各學校ノ生徒六千余名ノ体操運動及其課業英獨ノ語學アルヲ見テ  
 一驚宿所ニ歸リ全行ノ雇通辨某ニ向テ訪カニ嘆聲ヲ發シ曰ク琉球ノ進歩斯ニ至  
 シハ又今日支那風ヲ以テ壓スヘカラス折角ノ觀察モ水泡ニ屬シ歸リテ李氏ニ上  
 達トスル說話ナシト右ハ長崎ニテ雇入タル通辨某ヨリ漏シタルモ其事實ハ長崎  
 ニアラサシハ調ヘカタク前警部長竹下康之氏昨年出京ノ途次長崎ヲ廻リ取調タル  
 モ遂ニ東京ニテ轉任トナリ其始終ノ事實ハ今以テ明瞭ニス尤モ該時マクゴハシ  
 氏各所ニテノ演說一二回縣廳へ質問數件アルノミ其質問ノ重ナルハ一ハ歴史ノ  
 有無ニハ舊藩官吏ノ登用法三ハ藩王ノ墓地所在地四ハ土地取扱法及所有權ヲ有  
 スルハ官カ民カ五ハ支那語ヲ話シ得ル人アリヤ等ナリ  
 九月七日晴 八十五度二分  
 終日在宿取調

沖繩縣  
官金支  
出表

明治十二年三月廢藩置縣後三十四十五年度迄ハ每年多クハ二十万圓已上少ナ  
 \*モ三万圓以上總歲入出殘余金ヲ我カ國庫ニ生シタルニ明治十六年以後ハ毎年  
 多クハ二十万圓以上少ナ\*モ五六万圓以上ノ不足金ヲ生シ常ニ國庫ヨリ其不足  
 ナ補ヒ居シリ爰ニ縣廳ノ一覽表ニ基キ左ニ掲ク

年度	入	出	差引 殘金	差引 不足高
十二年	六〇六八九七、三三八	五三七四八一、一〇九	三九四一六、一二九	
十三年	六七六二六〇、八〇四	四六三九九五、三七一	二二二二五、四三三	
十四年	六八七、〇七五七	五四一九八四、〇六五	一四五二二、六九二	
十五年	五九八、〇九一、〇七六	三九八一五三、六二七	一九九九三、四四九	
十六年	四一四六〇八、一八二	四七三七四〇、四五三	五九一三二、二七二	
十七年	三一七三三三、六四〇	五三九六八二、三九三	二二三九八、七五三	
十八年	三〇四八五四、四〇〇	四四二六二二、〇六六	一三七七六、八六六	
十九年	二七〇一四六、三二〇	四七四八〇〇、四七三	二〇四六五四、一五三	
二十年	三〇七四六八、一七九	四六一九五六、六八二	一五四四八九、五〇三	
廿一年	二五八三五四、八二一	四二一八五四、四三九	一六三四九九、六二四	

三、四、四十七

廿二年	二四〇七〇、二九一八	四二五八七二、一八四	一八五一六九、二六六
廿三年	五六一八八一、二二三	四六六九一、三二二	
廿四年	四三五〇二、〇三二	四五二六六四、七六六	一七六五三、七三四
廿五年	四三五〇二、〇三二	四七七八七二、九九七	四二八六一、九六四

表中十二年ヨリ廿四年度迄ハ縣廳實費決算ニ據リ掲ケタルモノニシテ廿五年度ハ當時未ダ總決算書ヲ得サル故依リニ前年度ノ決算ニ據リ本年度創設ノ新三項目豫算ヲ加ヘ概算シタルモノナリ

新ニ加ヘタル三項支出豫算左ニ

- 一一〇一七六〇(沖繩現列所新設經費)
- 一二九六八、三六六(分遣隊經費全上)
- 一二三二、二六五(全上病室諸經費全上)

此三項ハ縣廳ノ統計ニハ無之分ニ付其筋ヘ問フテ茲ニ掲ケルモノナリ  
余沖繩縣廳歳出入計算書ヲ讀テ竊ニ感スルアリ夫レ各國先キテ争テテ外ニ屬地ヲ求ルハ皆我ガ本土ヲ富強ニスルノ政策ニ外ナラス今政府ノ沖繩ヲ縣ニスルハ

其名義ヤ善シ然シテ最近十ク年間毎年金拾餘万圓ヲ國庫ヨリ支出シテ不足ヲ補ヒ政府ニ於テハ年々數拾万圓ノ損失ヲ受ケ政事上ニハ是レト言フ可キ善事無ク依然琉球舊慣ヲ墨守シテ徒ニ官名ヲ守ルノミ斯ノ如キハ有形ノ金額ニ相アルノミナラス無形上ノ精神ニモ尙ホ益ナシ何ソ土地ヲ舊琉球王ニ與ヘテ薩藩ノ例ニ倣ヒ年々一万八千石ノ租稅ヲ徵收スルノ計ニ出テサル否ラスノハ大英斷ヲ以テ軍港ヲ置キ他府縣勞働者ヲ移植シ從來懶惰ノ風習ヲ漸次改頁シ十年ノ後ニハ我が輸入ノ大部ニアル砂糖ノ産出ヲ増加シ其輸入ヲ防クニ至ラシメハ國家ノ利益如何ソヤ斯ノ如キ目的ヲ確立セハ仮令ヘ一時ニ一千万圓ノ大金ヲ投スルモ亦タ吝ム可キ所ニアラス識者以テ如何ノ感ヲ爲スヤ敢テ敢テ教ヲ仰ク  
或人曰ク沖繩舊來ノ迷夢ヲ警醒シテ國家ヲ觀念ヲ起サシメントスルニ幾分ノ資ヲ投セサルヲ得サル者アルヘシ國庫ノ補助ヲ見テ卒然事ヲ斷スルハ老成家ノ言ニアラス足下以テ如何トス

九月八日晴 八十五度八分  
午后一時沖繩私立勸業會ノ招請ヲ得テ泉崎村農事試驗場内ノ高堂ニ上ル會員總

ヲ四百十九名其官吏士農工商ヲ問ハス地方ヨリ農家ノ資産アル本日本日ノ出席ハ二百  
 余人希ナル盛會ナリ第一ニ役員ノ擧擧アリ會長ヲ今西參事官ニ總裁ヲ奈良原知  
 事ニ依囑ス皆欣諾ヲ表セリ會場ノ形狀ハ他府縣ノ如ク政黨體モナク自由風モナ  
 ク流行政談者流ヨリ見レハ不佳ト云フヘキモ實業家ノ團體トシテ淡白無味ナル  
 モ眞理其ノ中ニ存ス知事ノ嫌ヒテ避クス其屬托テ了スルハ偶然ニアラスト予カ  
 如キ傍聽者ニ痛ク感情ヲ與ヘリ

其一二ノ演說ヲ左ニ載ス  
 謝花昇甘蔗敷地ニ就テ(全氏ハ琉球平民ヨリ東京農學校)琉球製糖ヲ創メタルハ國史  
 ニ依ルニ元和九年(今去ル二)麻平(鐵間親)深念(本國有)甘蔗(不)知(製糖)於是  
 令(儀間)村人到(福建)已(學)製糖之法(繼於平衛家)已取甘蔗汁以熬黑糖終及  
 干國中矣云々又慶長年間大島ノ人直川智琉球へ渡行ノ際颶風ニ遭フテ支那へ漂  
 着シ因テ製糖ノ法ヲ習ヒ密ニ蔗苗ヲ携ヘ島ニ歸リ大和濱方面原ニ栽培シ之ヲ  
 以テ黑糖ヲ製造シ漸次鬼界徳ノ島ニモ傳播セリト云フ之ニヨリテ之ヲ見ルニ大  
 島ハ沖繩島ヨリ早ク製糖法ノ傳スリシモノノ如ク

白糖及冰糖ハ寛文二年陸得先(武山親)奉命隨慶賀使赴閩即到南鼓山地尋覓其師  
 悉承其教而傳授徹白糖冰糖云々之法而歸國タルヲ創始ナリト云フ萬延元年正  
 月今去ル三十六年前砂糖產多ニシテ聲價ヲ落スヲ以テ甘蔗敷地ヲ制減シ又  
 間切内法ニモ甘蔗制限ノ坪數ニ超過シタルトキハ直チニ拔捨ツ云々トアリテ取  
 締リ甚々嚴重ナリシ明治二十一年其制限解ラテ以來敷地頓ニ増加セリ左表ノ如

年 度	反	別	増	産 額
明治廿年	一千七百四十九町三反五畝〇四歩		二百廿六町三反三畝歩	六百十萬八千六百九十一斤
全 廿一年	千九百九十七町九反八畝十二歩		千三百五十四町四反四畝九十九斤	千三百九十八萬〇七百五十五斤
全 廿二年	二千三百十三町七反六畝十二歩		三百七十九町三反一畝〇六歩	二千〇五萬九千八百七十七斤
全 廿三年	二千七百卅三町八反〇廿七歩		三百七十九町三反一畝〇六歩	二千〇五萬九千八百七十七斤
全 廿四年	三千〇十八町六反五畝廿三歩		二百八十四町八反四畝廿六歩	千八百八十二萬八千四百十九斤

此表ヲ見ルニ明治廿年ヨリ二十四年迄五夕年間ニ二倍ノ多キニ至レリ  
 然ルニ反對說アリ甘蔗ノ敷地増加シタル爲メ蕃薯ノ代價高ク從テ貧民食料ニ困

難スルト云フニアリ  
 他府縣農民一戸當リ耕地ハ九反六畝十六步ニシテ沖繩ニテハ一戸三反九畝餘ニ過  
 キス如斯耕地狭少ナルヲ以テ一年ニ三回モ収穫シ然カモ収量多キ蕃薯類ニアラ  
 サレハ本縣人民一般ノ生命ヲ繫クコト能ハサルヘシ故ニ非常ニ權利ノアル工藝  
 作物ヲ見出ニアラサレハ人民一般ノ常食ヲ米ニ變スルコト難カラシ又地理上本  
 縣ハ他府縣ト遙カニ隔離シテ物品ノ不廉ヲ來タスト及水産其他ノ業未タ發達セ  
 サル等ハ最モ考フヘキ一要素ナルヨリ工藝作物ハ農家中ノ食物作物ヲ栽培シ  
 タル殘余ニアラサレハ栽植バヘキ者ニアラス  
 按スルニ此演說ハ沖繩人民ノ實況ヲ代表セルト見テ大差ナカルヘシ故ニ之ヲ詳  
 悉ス  
 會長ヨリ余ニモ何カ演說アレト進メラル元ヨリ演說者ナラハ勤メサルモ好テ演  
 スヘキナレトモ訥辯ナル上奥羽方言ナレハ奥羽人ノ外ハ聞取リ得ス然シ折角ノ  
 御厚志ニ付無茶苦茶ニ斷スヘシ依テ其積リニテ御許シアレト前置シ冒頭ニ本會  
 ノ盛況ヲ稱シ東京ノ大日本農會ノ常會ニモ劣ラサル証ヲ舉ゲ次ニ沖繩特有物

産ノ改良方法順序ハ會員諸君ノ講究余蘊ナキ所予一時旅人ノ容喙スヘキモノナ  
 シ斯ル篤志者ノ盛會ニ倍坐ス何ノ光榮カ之レニ如シ依テ諸君ニ向テ左ノ希望ヲ  
 述フ願クハ蘆奧ヲ盡シテ教ヘラレシコトヲ  
 一外國ヨリ輸入スル砂糖ハ昨三十五年度九百餘万圓ノ金額ニ登レリ如何ノ改良  
 方法ニ據テ本縣ニテ此輸入糖ニ對スル産額ヲ増シ得ルヤ如何  
 二山藍ノ増殖ナリ兩先島ノ拓植ナリ又タ一作ヲ二作ニ變換改良スルナリ是  
 諸君ニ向テ教ヲ請ハント欽望スル所ナリ總テ實業上進歩ヲ計ルハ忍耐ヲ要スト  
 聞ク然ルニ先島拓植ニ就キ移住開墾ノ許可ヲ得タル件數拾八ヶ所ノ多キニ及  
 モ今日實地ニ就キ調査スレハ着手スル個所ハ三ヶ所ニ過キス是忍耐ノ骨子欠ク  
 居ルノ徴ニアラスヤ諸君ハ本縣ノ篤志者后來斯ノ如キ結果ノ勿ラシコトニ盡力  
 セラレシコトヲ合テ諸君ニ望ム云々  
 那覇役所員見玉祥介(砂糖改良ニ關シ熱心家ナリ)演說ハ砂糖樽木改良全氏ノ調査ニ據レハ今ヨ  
 リ十年已前迄ハ一里ニシテ樽木ヲ伐採シ得ルモ近一兩年ハ二里ノ遠キニ行カサ  
 シハ伐採スルコト能ハス此後十年ヲ經過セハ三里ノ遠キニ行カサレハ得ルコト

能ハス故ニ糖業ノ進歩ト共ニ林制ヲ改良セザレハ能ハサルナリトノ憂慮ニア  
 リ  
 日晩ル閉會ヲ告ク酒肴ヲ饗セラル奈良原總裁演スラク本日竹津君ノ藍靛ノ試験  
 説ヲ承ラサルハ残念ナリ依テ明朝午前八時ヨリ傍聽希望ノ人ハ更ニ當場ニ集會  
 シテ該演ヲ聽聞スヘシ歸村或ハ用支ノ人ハ強ヒスト滿場拍手贊成ス互ニ獻酬例  
 ナカラ奈良原知事ノ大酒ニハ閉口セリ然ルニ怪ムヘキハ知事ノ側ニハ異様ノ土  
 瓶ニ酒ヲ入レテ必ス之ノミヲ酌ム余密カニ酌人ニ詰ヒ土瓶ノ酒ヲ飲ム實ハ酒ニ  
 アラスシテ冷水ヘ僅カニ泡盛ヲ加ヘシノミ嗚呼奈良原知事ハ常ニ水ヲ吞テ客ニ  
 純酒ヲ吞マシム知事ハ大酒ヲ吞シテ毫モ醉ハス客醉テ知事ニ輸スルモ亦ク故ア  
 ルナリ  
 午後十時卅分賓主歡ヲ盡シテ散會ス歸途又々知事ノ宅ニ寄ル再宴ヲ開ク妾及小  
 女傍ニ侍シ盃盤ノ勞ヲ取ル散會ハ午前一時ナリ却説此度ノ宴會ニモ宅ニ會スル  
 モ主人ハ水ヲ吞ミ客ニ酒ヲ進ムルナリ常ニ密ニ警部長ニ語テ云フ風俗ノ取締ハ  
 足下ト我トニテ足ル他ノ官吏ハ茶屋ニ上ルモ關セス唯兩人ハ之レヲ慎ムベシト

又々是迄不振ノ縣治ヲ擴張シ諸般舊慣ノ改良進歩ヲ計ルニハ酒ヲ禁シ婦女ヲ遠  
 ク精神一到ニ從事セハ五年ヲ出スシテ奏功スル難キニアラスト自身決行ノ覺悟  
 ハ傍觀者モ地方官ニハ得易スカラサル精神ト感セリ

九月九日晴 八十六度九分

午前八時再ヒ會場ニ至レハ藍靛試驗主任縣屬竹津友ト會員百余名出頭全氏隨行  
 セル高松工學博士國頭地方各村ニ就キ試驗ノ藍靛三十餘種現品ヲ陳列シテ詳細  
 ニ説明シ質問者ニハ親切ニ答辯ヲ與フ其大意

- 一 在來發酵ノ現況
- 二 ツサクサ印度ノ制法ヲ説キ地質ノ關係ニ及ヒ沖繩ハ總テ石灰質ヨリ構造ナル  
 故ニ飲水ニハ必ス多少其質ヲ含蓄ス是ヲ彌弼質ヨリ來ル止ムヲ得サルモノナリ  
 温度ノ試験ハ八十度ヨリ八十五度ノ間ハ藍分ノ上リ尤モ多シトス是ヨリ温度高  
 ク九十度已上ナレハ藍品質惡シク歩上リモ減少シ又々七十四度迄ハ可ナリノ制  
 藍トナル
- 一 反歩ニ付春秋兩度ニテ葉藍八千斤アリ其藍ニテ藍靛ヲ製シ四十斤ヲ得タリ大

阪神戶へ輸入ノ藍錠一斤代價二圓五十錢已上三圓五十錢已下トス此度試驗ノ成  
績ニヨレハ印度藍錠ノ中等以上ニ位ス又々三圓ノ價格ノ品ト相對スルニ足ル之  
ヲ假リニ一斤代金二圓ト豫定スルモ一反歩ノ收穫八十圓トナル其利益ノ多キ砂  
糖モ及ハサルコト遺シ云々

從田國頭役所長モ事務繁激ノ身ヲ以テ始終竹津氏ト全シク高松博士ニ隨ヒ該業  
ニ從事セルハ知事初メ其ノ勉勵ヲ賞スル處幸ヒ同人ヨリ昨年度ノ藍作試驗ノ表  
ヲ得タルハ左ニ掲ク爰ニ附記シテ後來沖繩拓植ノ參考ニ供ス

藍作付反別及産額表

年別	反別	葉藍産額	泥藍量	葉藍ニテ賣却 スル代價	一斤ノ 價格	泥藍ニテ賣代 價格	一斤ノ 價格
廿五年春	一四五、〇〇〇	七八五〇、九二〇	一九六二、七三〇	二五、四七二、〇五五	六四九、〇六八	二五〇	二五
廿五年秋	一四五、〇〇〇	七七一四、〇〇〇	一九二八、五〇〇	二五、四六八、四〇〇	六四八、二二五	二五〇	二五
合計	二九九、〇〇〇	一五五六、四九二	三八九一、二三〇	五〇、九三三、八九五			
秋季分ハ春季分ニ對 シタル増減							
		九、〇〇〇	一三六、九二〇	八二、五二〇		八五五、七五〇	

備考一反歩平均出來高

廿六年 春	葉藍		泥藍	
	量	價	量	價
一五〇、六五二	五、〇九八	一、二七四	一、三三〇	
一五九、一四八	五、三二〇	一、三三〇		
二五	三、二五三	九、六〇五		

備考泥藍ハ目下製造中ナリ尤モ葉藍一反歩平均出來高ハ三、九百二十六  
斤ナリ産額ハ中等ニシテ正分ハ例年ニ比シ最モ佳也

十二時一全散會ス

九月十日晴 八十七度六分

午前縣廳ニ出頭置縣以來長官ノ轉免ヲ調フ左ニ

明治十二年三月二十七日ヨリ全年五月十九日迄 縣令心得 木梨精一郎

在職二ヶ月

全十二年五月十九日ヨリ全十四年五月十八日迄 縣令 鍋島直彬

在職一ヶ月十一ヶ月

全十四年五月十八日ヨリ全十六年四月二十五日迄 縣令 上杉茂憲

在職一ヶ月十一ヶ月



縣知事ノ交迭

全十六年四月二十二日ヨリ全年十二月二十一日迄  
 在職八ヶ月 縣令 岩村通俊

全十六年十二月二十一日ヨリ全十九年四月二十七日迄  
 在職二年四ヶ月 縣令 西村捨三

全十九年四月二十七日ヨリ全二十年四月十四日迄  
 在職一ヶ月 知事 大迫貞清

全二十年四月十四日ヨリ全二十一年九月十八日迄  
 在職一年五ヶ月 知事 福原實

全二十二年九月十八日ヨリ全二十五年七月二十日迄  
 在職三年十ヶ月 知事 丸岡完爾

全二十五年七月二十七日拜命  
 知事 奈良原 繁

按スルニ十二年置縣以來昨二十五年迄十四ヶ年然シテ長官九人ノ交迭アリ此  
 年間中止ヲ得スシテ二人位ノ交迭ナレハ或ハ見ルヘキノ政跡モアラソニ僅々一

ク年六ヶ月位ノ平均在職ニ當ル長二千石ニシテ賢明ノ資アルモ言辭通セズ風俗  
 人情異ナル土地ニ來リテ百般ノ事務ヲ處理シ其隙ヲ以テ此異俗ノ事ヲ知ラント  
 ス恐ラシクハ管内ニ廻リ巡視モ爲サル長官多シト言ヘハ施政何ニ依リテ改良ヲ  
 留メキ抑モ改良ナルモノハ其ノ事ノ起因ヲ詳ニセル後ニアラサレハ一進シテハ  
 一退ス容易ニ改良ノ効果ヲ収ムル能ハサルハ言フマテモナシ余前長官ニハ何ノ  
 關係ヲ有セサルモ全島朝野上下ノ唱道スル一二ヲ陳シテ當局者ノ參考ニ供フ  
 各島民間ノ評

奈良原氏ハ聲望最モ高シ各離島ノ人民モ尙ホ其ノ名ヲ知ル昨年赴任以來一二ノ  
 改良達ヲ發シタルニテ人ノ視線ヲ引ケリ早晚舊慣改良ヲ決行シ大ニ民ノ疾苦ヲ  
 除ク弊アルヘシト足ヲ蹴テ、待ツノ有様ナリ時運到來ト云フヘキカ沖細ハ一モ  
 ニモナク舊慣々々ト唱フレトモ然レトモ人民ニ便ニシテ土族吏員ニ痛痒關セサ  
 ルモノ、如キハ改良セル小條項ニハ數十アリ但土族吏員ニ不便ニシテ平民ニ便  
 ナルモノハ皆舊慣ヲ以テ壓スルノ實況アリ故ニ有識ノ村民ニ至テハ地租改正ヲ  
 希望スル者ヲ見ルニ至ル宮古島ノ士族平民ノ壓力ノ如キ皆改良ノ機ヲ與ヘタル

者ナリ

前ニ上杉氏後ニ西村氏並ヒ稱セラル之ヲ細別スレハ上杉氏ハ開進ノ方針ニ據リ  
 舊慣ヲ改良セルモノ多シ假ヒ長官ニ幾多ノ交迭アルモ其方針ヲ改メスシテ今日  
 ニ至レバ他府縣ト比肩スルニ進マサルモ憲法ノ大主意ニ戻ラサル位ノ程ニ至リ  
 シナルヘシト惜ムモノアリ然レ士族ニ不利ナルヲ以テ一部ニ不平ヲ免レヌ西村  
 氏ハ四民ノ服心ヲ得學校ナリ道路ナリ一ニ見ルヘキノ事アリ人望ハ遙カニ上杉  
 氏ノ上ニアリ  
 最モ奇ナルハ岩村氏ノ舊慣再興トナシ上杉氏ノ開進一モ存スルナク挫毀シ士族  
 ナシテ不平ヲ鳴ラセハ己レカ欲望ヲ達スルニ難カラストノ感念ヲ懷カシメ爾來  
 現今モ舊慣墨守ノ熱度ヲ高カラシメタリ然シテ士族モ冷笑ス該時左ノ無名記文  
 各所ニ粘附タリ職者沖細退歩ノ符トシテ存セリ左ニ

令公閣下ニ呈ス

抑モ檢査官某波濤ヲ凌キ吾カ琉球ニ出張セラルハ他ナシ決シテ内チ奸計ニシ  
 テ外カ仁義ヲ假リ吾カ士民等ヲ懷キ皇清ニ控訴シ吾カ琉球ヲ離間セシムル爲メ

ナラスヤ偽官斗質ノ輩ヲ欺クト雖トモ豈ニ吾カ有識ヲ瞞目シ得ンヤ其政治ノ要  
 タルヤ中庸ノ九經大學ノ八目ヲ以テ人民ヲ陶スル緊要トス形ヲ服セシムルハ外  
 而猛威ヲ畏レ内而違背スルヤ必セリ此ニ所謂力ヲ以テ人ヲ服スル者ハ心服スル  
 ニ非ラス力不足也徳ヲ以テ服スル者ハ中心悅テ誠服スル也ト因テ吾カ俯シテ思  
 念スル所ヲ陳述セン大人靜ニ聞ク吾カ中山國中華ニ進貢スル前朝ヨリ茲ニ五百  
 年聯綿トシテ不絶況ンヤ大清ニ至テハ益々親切懐柔ノ厚キ述ヘ盡シ難シ吾琉球  
 ヨリモ赤子ノ父母ヲ慕カ如ク其大恩寤寐反側ノ忘ルハ不能ハ荒野ノ下民吾人ノ  
 童子ト雖トモ大清ノ徳化ヲ仰キ思ハハナルハナシ就テハ縱令ヒ大人千思万勞ヲ盡  
 シ吾カ琉球ニ百万奸謀ヲ廻ラシ許多ノ金銀ヲ雨雪ノ如ク降飛シ其他好惠ヲ以テ  
 餌シ釣ラント欲スト雖トモ吾カ士民等ニ於テ飢寒ヲ凌ク爲メ止ムテ不得忍テ金  
 銀撫恤ヲ受ケ外カ服従ノ貌ヲ示スモ實ハ誠ヲ大清ニ投ケ吾カ國中興ノ速カナル  
 テ期望スルヤ大旱ノ雲霓ヲ望ムト一般然ラハ則チ檢査ノ勤勞空虚ナルノミナラ  
 ス臍ヲ噬ムノ悔ナキ不能也此ヲ除クテ外都テ倭朝ノ大患ヲ釀スル如何々々

右明治十六年沖繩各所ニ貼附文ノ寫シテ書中令公トアルハ全年一月沖繩縣

治改良ノ爲メ太政大臣ノ委任ヲ得テ出張兼縣令ニ任セラル故ニ岩村氏ヲ指シ  
テ令公ト云フナルヘシ

元ヨリ舊慣復興ノ政針ハ岩村氏一巳ノ私見ニアラスシテ當時政府ノ命タルヤ明  
ナレトモ十人寄レハ十人迄沖繩ノ頑病ヲ助長セシメ今日ニ至ラシメタルハ實自ラ  
其人ニアリト云フ余岩村氏ト恩讐アルニアラス又タ往事ヲ追究スルニアラス民  
間ノ言ヲ擧テ後來縣治ノ參考ニ資セントノ意ニ外ナラス丸岡氏ハ在職他人ニ比  
シテ永ク潛心舊慣取調ニ從事セルモ舊慣益々明カニシテ改良ノ途彌縮ルノ形跡  
アリ其他ノ長官ハ名モ知ル人寡シ

九月十一日晴 八十七度四分

午前縣廳ニ出頭ス庶務課員ニ而シ尙家一族ノ重ナル族籍及各地士族籍ヲ覽ル左  
ニ

在東京	從二位侯爵	尙	泰	
在沖繩縣	正五位	嫡子	尙	典
在東京	次男	尙	寅	

在沖繩縣	全上	三男	尙	順
	全上	正五位男爵尙泰從弟伊	江	朝
	全上	從五位	父隱居	朝
	全上	從五位	嫡子	朝
	全上	正五位男爵尙泰弟	今歸仁	朝敷
	全上	從五位	嫡子	朝
	全上	從五位	嫡子	和

士族總數二万二千九百二十九戸

内

有祿者戸數三百三十九戸(此中永世祿ハ八十五人一代ヨリ八)其他ハ皆無祿士族ニシ  
テ各所散在セル左ノ如シ

那覇士族戸數	四千四百九十四戸 <small>(慶長間ニシテ那覇ニ入ル)</small>	
首里	全	二千九百〇八戸
中頭地方	全	五千五百八十四戸
島尻地方	全	三千三百五十九戸

國頭地方全 二千九百二十一戸  
 宮古島地方全 二千六百四十四戸  
 八重山島全 九百七十六戸  
 伊平屋島全 二十六戸那覇ノ所轄  
 久米島 全 十七戸

識者ハ夙ニ士族三百余名ノ金祿ヲ廢シテ金祿公債ニ改ムヘキヲ唱道ス依テ參考ノ爲メ諸祿ノ金額ヲ掲ク

一金拾五万千〇九十四圓七十五錢九厘

右ハ明治二十四年士族諸祿渡高ナリ

按スルニ二万二千九百二十九戸ハ少カラサル士族ニシテ殆ント舊時ニアリテハ以テ一大藩ニ比スヘシ而シテ其ノ人ノ骨格ヨリ見ルモ全シク是日本人ナリ故ニ皮想ヨリスルトキハ球人ノ我ニ心服セサルハ少シク介意セラル、如キモ其實ハ弱小ノ島民ニシテ日支兩國ノ歡心ヲ失ハス苟且偷安ヲ以テ寧ロ治國ノ策ヲ得タルモノト爲シ其勢固ヨリ勇武ヲ以テ大ニ相争フ能ハス積習ノ久シキ假令十二分

ノ理ヲ據有スルモ人ニ向テ正論抗議スル能ハス一ニ情實苦情ニ訴フルノミ夫士アリテ志氣ナクハ無キニ均シク又タ意ニ介スルニ足ラス然トモ自今ハ漸次ヲ以テ徵兵法ヲ實施シ護國ノ元氣ヲ養成セハ同シク是レ日本人ナリ元氣ヲ恢復スル難キニ非ス然ラザンハ海島遼國國防ニ於テ一大欠典トナス當局者豫メ其法ヲ思ヘ

九月十二日晴 八十七度四分

曇キニ國頭北部ハ巡回航海線ノ都合ヲ以テ運天港等巡視ヲ終ヘスシテ先島ニ渡航ス知人ニ謂テ曰ク余病毒ニ罹ラス無事ニ歸ラハ再ヒ來リテ運天地方ニ遊フ可シ不幸ニシテ病毒ニ感セハ直チニ歸京シ大學病院ニ入り一身ヲ以テ病理檢究ノ資ニ供センノミト約ス故ニ本日ハ笹田役所長ノ歸任ニ隨ヒ再ヒ國頭ニ赴カントス旅裝ヲ整ヘ午後一時那覇ヲ出起シ泊村改良製鹽場ヲ覽ル鹽シ鐵板釜釜ヲ加テ文七尺巾四尺位ノ釜二枚ニテ一晝夜ノ製鹽一石三斗五升一回四斗五升ヲ得三回ナレハ即チ一石三斗五升トナル人夫ヲ要スル夏季ハ五六人冬季ハ四人薪材費一晝夜金六十六錢毎月除十五日ヨリ二十日間ハ乃チ滿潮季ナルニ由リ休業